

シラバス（授業概要）目次 看護学部看護学科 2017 Syllabus

教養基礎領域

学習の方法・コミュニケーション

基礎演習 I	2
基礎演習 II	4
英語Ⅲ	6
英語文献講読	8
語学演習	10

人間・こころ・健康

運動と健康	12
健康科学スポーツ実践	14

社会・自然

物理学	16
化学	18
統計学の基礎	20

総合科目

キャリアデザイン	22
----------	----

専門基礎領域

社会と環境

保健統計学	24
疫学	26
公衆衛生学	28
保健医療行政論	30
社会福祉概論	32
家族関係論	34

こころと発達

生涯発達心理学	36
臨床心理学	38
カウンセリング	40

体の仕組みと働き

解剖学 I	42
解剖学 II	44
生理学 I	46
生理学 II	48
脳とこころの生理学	50
生化学	52
代謝・栄養	54

疾病の成り立ちと回復

微生物・感染	56
病理・病態	58
健康障害論 I	60
健康障害論 II	62
薬理・薬剤	64
臨床栄養	66
身体活動の科学	68

看護専門領域

基礎看護学

看護学原論	70
看護コミュニケーション論	72
基礎看護技術論 I	74
基礎看護技術演習 I	76
基礎看護技術論 II	78
基礎看護技術演習 II	80
フィジカルアセスメント	82
フィジカルアセスメント演習	84
基礎看護学実習 I	86
基礎看護学実習 II	88

成人看護学

成人看護学概論	90
成人看護援助論 I	92
成人看護援助論 II	94
成人看護援助論 III	96
成人看護援助論演習	98
急性期看護学実習	100
慢性看護学実習	102

老年看護学

老年看護学概論	104
老年看護援助論	106
老年看護援助論演習	108
老年看護学実習 I	110
老年看護学実習 II	112

母性看護学

母性看護学概論	114
母性看護援助論	116
母性看護援助論演習	118
母性看護学実習	120

小児看護学

小児看護学概論	122
小児看護援助論 I	124
小児看護援助論 II	126
小児看護学実習	128

精神看護学

精神看護学概論	130
精神看護援助論 I	132
精神看護援助論 II	134
精神看護学実習	136

在宅看護学

在宅看護学概論	138
在宅看護援助論	140
在宅看護学実習	142

看護の総合

看護倫理	144
看護管理論	146
国際看護論	148
災害看護論	150・152
高度実践看護論	154
看護研究 I	156
看護研究 II	158
統合演習	160
地域保健実習	162
統合実習	164
国際看護実習	166

公衆衛生看護学

公衆衛生看護学概論	168
公衆衛生看護活動展開論	170
公衆衛生看護活動展開論演習	172
公衆衛生看護技術論	174
公衆衛生看護技術論演習	176
公衆衛生看護総合演習	178
公衆衛生看護管理論	180
学校保健	182
公衆衛生看護学実習	184

教職に関する科目

養護概説	186
教職概論	188
教育原理	190
教育心理学	192
教育制度論	194
教育課程論	196
道徳及び特別活動の指導法	198
教育方法論	200
生徒指導の理論と方法	202
教育相談の理論と方法	204
養護実習事前事後指導	206
養護実習 I	208
養護実習 II	210
教職実践演習（養護教諭）	212

科目名	基礎演習 I	
科目責任者	隆 朋也	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 1 セメスター	
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。	
科目概要	情報や知識を獲得する能力や、それらを整理し文章化する能力など、大学での学びに必要な学習の基礎技能を修得し、自ら学ぶ姿勢、自分に適した学習方法を確立することを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 大学での学修方法が理解できる。 2. 多様なものの見方や異なる価値観を理解できる。 3. 根拠に基づき、自分の意見や主張を明確に述べることができる。 4. 文献、雑誌、インターネットなどからテーマに沿った情報や資料を収集・整理できる。 5. 科学的、論理的な視点でレポートを作成できる。 6. 能動的で自律的・自立的な学習態度を身に付けることができる。 	
授業計画	<p>第 1 回 ガイダンス/大学で看護を学ぶこと 室加千佳、隆朋也 本科目の概要説明、看護教員による講話</p> <p>第 2 回 大学での学修方法 教務委員長、隆朋也 授業科目の学修時間、ノートの取り方、時間管理など</p> <p>第 3 回 見聞きした内容を記録する 高橋佐和子、隆朋也 主張の根拠となる情報を正確にメモできる</p> <p>第 4 回 伝わりやすい文章の書き方 隆朋也、熊澤武志 文章の構成の仕方の基本</p> <p>第 5 回 文章を要約する 渥美陽子、隆朋也 論文や書籍に書かれた内容を理解しやすくまとめる</p> <p>第 6 回 レポートのルール/情報収集の方法 石井敏弘、隆朋也 レポートの基本的なルール文献・資料の探し方</p> <p>第 7 回 学生相互によるレポート添削 隆朋也、高橋佐和子 自分の作成したレポートを発表し、他者の目を通してフィードバックする</p> <p>第 8 回 グループワークオリエンテーション 隆朋也、大村光代、小出扶美子、 テーマ「他人を理解するには」 鈴木夏奈子、基礎・養教教員 1 名 5 名程度のグループに分かれ、各グループでサブテーマを設定し、PBL を用いてテーマ、サブテーマに沿った資料を収集し、発表する。</p> <p>第 9・10 回 グループワーク (3 教室) 隆、大村、小出、鈴木、基礎・養教 1 名 テーマについての情報収集・ディスカッション</p> <p>第 11 回 プレゼンテーションとグループ発表について 隆朋也、高橋佐和子 パワーポイントを用いた口頭発表の方法 第 14・15 回のグループ発表の進め方の説明</p> <p>第 12・13 回 グループワーク (3 教室) 隆、大村、小出、鈴木、基礎・養教 1 名 グループ発表の準備、プレゼンテーションの資料作り</p> <p>第 14・15 回 グループ発表とまとめ (2 教室) 隆、大村、小出、鈴木、基礎・養教 1 名 パワーポイントを用いた口頭発表、ルーブリックを活用した他者評価 教員からのフィードバック</p>	

アクティブ ラーニング	演習科目です。グループワーク、PBL 等を行います。 グループワークでは進捗・成果の報告に Moodle、iPad を活用します。 基礎演習 I・II で共通のポートフォリオを作成します。
評価方法	リアクションペーパー (20%)、レポート (20%)、 グループ発表資料と発表内容 (30%) 最終提出のポートフォリオの内容 (30%)
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは、授業終了時に回収し、次回授業開始時に返却します。 レポートは、ルーブリックを活用して自己評価・他者評価を行います。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。また、ルーブリックを活用して他者評価を行います。
指定図書	『新版 大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書
事前・ 事後学修	事前学修：各講義に 30 分程度の事前学修課題が提示される。文献を調べたり、自分の考えをまとめたりして授業に臨む。 事後学修：授業の学びをまとめ、ポートフォリオに記録する。
オフィス アワー	科目責任者（看護学部：隆）の研究室は 1605 です。 基本的に木曜日の午後としますが、その他の曜日、時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (tomoya-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。

科目名	基礎演習Ⅱ
科目責任者	高橋 佐和子
単位数他	1単位 (15時間) 必修 1セメスター
科目の位置付	(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	自己を表現し他者を理解する経験を通して、コミュニケーション技術の基礎を修得し、大学で学ぶための人間関係を構築する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎的なコミュニケーション技術を習得し、自らの意見の伝達ができる。 2. 多様な物の見方や異なる価値観を理解しようとする態度を身につける。 3. 人と接する態度・礼節などの一般常識や自己管理、自己責任、規範意識を理解し、他者を尊重した行動ができる。 4. 学生間の人間関係を構築できる。
授業計画	<p>第3回目までにインタビュー及びレポート作成に必要な知識・技術について学ぶ。第5回目までにテーマに基づき、家族や親せき、近所の方にインタビューを実施し、インタビューレポートを作成する。第5回目からはレポートをもとに「コミュニケーションとは何か」についてグループディスカッションを行い、発表する。</p> <p>第1回：オリエンテーション 式守・鈴木知・高橋 <ul style="list-style-type: none"> ・第2回から8回の授業の内容と課題の理解。 ・インタビューのテーマ・対象・方法・レポートのまとめ方の理解。 </p> <p>第2回：他者紹介 安田・熊澤・高橋 <ul style="list-style-type: none"> ・学生間でインタビューをし、その内容をまとめ、他者紹介を行う。 ・グループ内で感想を語り合い、他者紹介を振り返る。 </p> <p>第3回：インタビューガイドの作成 式守・鈴木知・高橋 <ul style="list-style-type: none"> ・他者紹介で学んだことを整理する。 ・インタビュー内容をまとめる方法の理解。 ・インタビュー対象者に対するインタビューガイドを作成する。 </p> <p>第4回：先輩の姿を知る 高橋 <ul style="list-style-type: none"> ・看護師・保健師・養護教諭・助産師の先輩の話を聞く。 ・専門職に必要なコミュニケーションについて考える。 </p> <p>第5・6回：グループディスカッション (3教室使用) 高橋・隆・鈴木知・式守・水野・室加 <ul style="list-style-type: none"> ・各自のインタビューレポートをもとにグループメンバーに報告する。 ・グループで「コミュニケーションとは」についてディスカッションする。 ・発表できる形(5分程度・ポスター形式)にまとめる。 </p> <p>第7・8回：グループ発表とまとめ (3教室使用) 高橋・隆・鈴木知・式守・水野・室加 <ul style="list-style-type: none"> ・各グループが作成したポスターを提示しながら5分発表、3分質疑応答。 ・各教員からフィードバックを受ける。 </p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。グループ学修、PBL、ロールプレイング等を行います。 基礎演習Ⅰ・Ⅱで共通のポートフォリオを作成します。
評価方法	リアクションペーパー (30%)、インタビューレポート (30%)、 グループ発表資料と発表内容 (40%)
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーは授業終了時に回収し、次回授業開始時に返却します。 インタビューレポートは、ルーブリックで評価し、返却します。 グループ発表は、会場で教員が口頭でフィードバックを行います。
指定図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修：毎時間提示される課題 40 分 事後学修：授業の学びをまとめ、記録する 40 分
オフィス アワー	科目責任者（看護学部：高橋）の研究室は 2707 です。 基本的に水曜日のⅡ限としますが、その他の曜日・時間でも可能な限り対応します。 事前にメール (sawako-t@seirei.ac.jp) で連絡をしてください。

科目名	英語Ⅲ
科目責任者	渥美 陽子
単位数他	1単位 (30時間) 選択 3セメスター
科目の位置付	(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	<p>「グローバル看護」の概念を中心に、これからの看護職者に求められる多言語・多文化への対応力を養う。外国籍の患者または地域住民に看護を提供する際には、言語、文化、風俗、習慣、宗教、医療制度の相違など、対象者の個別性について様々な対応が必要である。本科目を通して対象者の多様性を理解し、英語での看護コミュニケーションに慣れる事を目指す。本科目では以下の3つの目的を掲げる。</p> <p>①看護、医療および保険制度に関する基礎的な用語の修得と実用文献の読解力養成 ②臨床で想定される看護コミュニケーションの練習 ③地域在住外国人の保健医療問題を考え、課題解決型学修</p> <p>前半は講義と視聴覚教材で「看護英語」の世界に親しむ。語彙を中心に基礎力を養い、ロールプレイ等ができるようにする。後半はインタビュー型のプロジェクトを実施し、地域の保健医療に関する課題を考え、英語でプレゼンテーションを行う。</p>
到達目標	<p>①看護の専門用語、ケアに関する語彙を英語で300語以上覚える。 ②外国人患者を病院内で案内ができる。バイタルの測定、気分や症状、心配事などを聞くことができる。与薬時の説明、安全確認ができる。 ③地域在住の外国人保健医療について考える機会を持ち、地域で展開する「グローバル看護」についてグループワークを通して理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回: Body Parts 身体の部位、Medical Terminology 医療専門用語の構造 第2回: Facilities in the Hospital 病院施設、Medical Departments 診療科 第3回: Patients Units 入院患者の身の回り 第4回: Patient Observation and Vital Signs 患者の観察とバイタル・サイン 第5回: Patient Comfort 安楽への援助、Patient Positioning and Transferring 体位変換と移動介助 第6回: Medication 与薬Critical Care (ER & ICU)救急看護、Perioperative Care 周手術期 ケア 第7回: Medical History, Lifestyle and Diet 既往歴、生活習慣、食事 第8回: 中間試験 第9回: Community Health & Home Care Nursing 地域・在宅看護 第10回: 在日外国人の保健医療 第11回: グループワーク① (地域在住外国人の保健医療課題と支援: テーマ選定、役割の決定、構成検討、情報収集) 第12回: グループワーク② (地域在住外国人の保健医療課題と支援: 情報収集、まとめ、発表資料の作成) 第13回: グループワーク③ (地域在住外国人の保健医療課題と支援: まとめ、補足情報の収集、発表資料の完成、発表練習) 第14回: グループ発表会 第15回: まとめ</p>

アクティブ ラーニング	前半は授業で学修した内容を使ってシナリオを作り、ロールプレイを行う。後半は地域在住の外国人保健医療に関する課題を取り上げ、問題解決型プロジェクトをグループで行い、発表する。
評価方法	小テスト 15%、課題 15%、中間試験 30%、期末試験 30%、グループワーク 10%
課題に対する フィード バック	小テスト・課題・中間/期末テストに対するコメント、グループワークに対するフィードバック、ピア評価（プレゼンテーション）
指定図書	『看護師たまごの英語 40 日間トレーニングキット Kit.1』（アルク）平野美津子、菱田治子、濱畑章子著
事前・ 事後学修	事前学修では、新出単語を辞書で調べ（発音記号を含む）、自分なりに理解し、会話のリズムに慣れるため、CD を活用した音読練習を行う。事後学修では、定着を目的とした音読練習（パラレルリーディング、シャドーイング等）を行い、暗唱練習を行う。語彙・表現の定着を図る。学修時間の目安：事前学修 30 分～1 時間、事後学修 30 分～1 時間程度。
オフィス アワー	火曜日 12:00-17:00、金曜日 12:00-14:00 渥美陽子(3423 研究室:yoko-a@seirei.ac.jp)

科目名	英語文献講読
科目責任者	平野 美津子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 8セメスター
科目の位置付	(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	英語で書かれた医療・看護のさまざまな情報、抄録検索し読んでいきます。一文一文訳すのではなく、何が述べられているのか、大枠を把握しながら、数多くの看護に関する英文を読んで行きましょう。 また、看護・医療語彙を覚えることは、専門分野の英文講読ではとても大切ですので、看護・医療英語語彙の習得も目指します。
到達目標	① 自分のテーマに合った英語看護文献をWEBを使って見つけ出すことができる。 ② その選んだ文献を、辞書を使って読むことができる。 ③ 看護研究にかかわる英語語彙 (キーワードとなるものを) を500語以上集める。
授業計画	<p>第1回：英語の医学用語の構成について知ろう。 キーワードについて知ろう。MeSH, CINAHL って何ですか？ 英文抄録の構成について理解しましょう。 初見でどこまで読めますか？電子辞書を駆使しましょう。 Placing infants on their backs、 Aspirin and Asthma</p> <p>第2回：Aging and Caring for Elderly Patients When Receiving Injections</p> <p>第3回：Case Report 1、2</p> <p>第4回：Anorexia Nervosa、 SARS</p> <p>第5回：End-of-Life Care</p> <p>第6回：自分でテーマを決め、抄録を探してみよう。</p> <p>第7回：見つけた抄録の内容を他の学生に紹介しよう 1。</p> <p>第8回：見つけた抄録の内容を他の学生に紹介しよう 2。辞書だけでどこまで読めますか。 小テスト</p> <p>*電子辞書は、必携です。</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。後半の授業では、反転授業の形態を取り入れます。
評価方法	授業での平常点（授業の準備、態度、参加度）（20％）と、語彙の試験、（20％）、自分で選んだテーマの英語文献を読んで、まとめたレポート（20％）、English Comprehension テスト（40％）で評価します。
課題に対する フィード バック	試験については、試験後、解答を提示します。提出レポートについては、授業での発表後、コメントを付け返却いたします。
指定図書	『キクタン・メディカル 5. 看護とケア』（アルク）平野美津子著 2,800 円
事前・ 事後学修	課題を事前に読んで、解答してくる（40 分）。看護英語語彙については、各自担当の箇所の語彙問題を制作し、他の学生に課すことができるように準備する（10 分）。関心があるテーマの語彙（キーワード）を日頃から CINAHL, PubMed を使って検索する。
オフィス アワー	メールで問い合わせてください。 simplesimon@kud.biglobe.ne.jp

科目名	語学演習
科目責任者	
単位数他	1 単位 (15 時間) 選択
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	外国の大学付属語学研修機関において、所定の時間数、英語研修を修了した場合に、本科目の単位として認定する。
到達目標	
授業計画	<p>約 2 週間 (40 時間) の英語研修に対しては、1 単位、 約 3 週間 (60 時間) の英語研修に対しては、本科目 1 単位に加えて、他の英語科目との併用で、2 単位が認定されます。</p> <p>研修先は、本学の国際交流センターに相談の上、参加者本人が主体的に決定します。 事前に英語教員に計画書を提出して指導を受けてください。 研修後には、修了書を添付して、英語教員と面談してください。</p> <p>認定対象科目は、英語Ⅱ A、英語Ⅱ B、語学演習から選ぶことができます。 単位認定の時期は、研修を行った翌年の春semesterです。</p>

アクティブ ラーニング	
評価方法	
課題に対する フィード バック	
指定図書	
事前・ 事後学修	
オフィス アワー	

科目名	運動と健康	
科目責任者	根地嶋 誠	
単位数他	1単位 (15時間) 選択 1セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	運動をすること、運動をすることが身体に及ぼす影響、運動した際に起こり得る外傷とその処置、子どもの発育に関する運動の効果、高齢者の運動などについて講義と実習の形式で授業を行う。基礎的な運動の原理と効果、運動による外傷への早期対処を理解し説明できることを目的とする。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 運動が身体に及ぼす影響を理解し説明できる。 2. 子どもの発育における運動の効果と役割、高齢者の運動について理解し、説明できる。 3. 運動によっておこる外傷に対する早期対処の手順を理解し、説明できる。 	
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 運動と健康 (概論)</p> <p>第2回：運動と外傷</p> <p>第3回：運動による外傷に対する処置</p> <p>第4回：運動と骨・筋肉</p> <p>第5回：運動と呼吸・循環・代謝</p> <p>第6回：運動と発育・老化</p> <p>第7回：運動と生活習慣病</p> <p>第8回：まとめ</p>	<p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>根地嶋誠</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p> <p>俵 祐一</p>

アクティブ ラーニング	小テスト
評価方法	定期試験 60%, 小テスト 20%, 授業態度 20%
課題に対する フィード バック	小テストの解説
指定図書	なし
事前・ 事後学修	事前学修として課題を出します。途中で小テストを行います。各回に課題と復習により小テストに備えてください。40分程度の学修をしましょう。
オフィス アワー	科目責任者：根地嶋誠（リハビリテーション学部理学療法学科） makoto-n@seirei.ac.jp 研究室：3505 時間帯：授業の際に提示します

科目名	健康科学スポーツ実践
科目責任者	安田 智洋
単位数他	1単位 (30時間) 選択 1・2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	身体運動(運動・スポーツ)の実践と併せ、様々な生理学的指標を計測しながら科学的に学習し、健康づくりのための身体活動の必要性とその効果を考える。また、自分の生活習慣や体力レベルから日本の健康づくり施策(健康日本21)を理解・学習する。
到達目標	1. カリキュラムの特徴を理解し、人間形成のための教養科目の履修を通し、教育システムを活用して、自ら学ぶ姿勢、自分の適した学習方法を確立できる。 2. 個人の体力の違いを学習し、それらに応じた運動、身体活動の実践方法を理解する。
授業計画	<p>第1回：ガイダンス(体育館：初回のみ着替え不要 *欠席者は教員へ個別連絡が必要)</p> <p>第2回：Pre 体力測定1(質問紙法、体組成、血圧、敏捷性)</p> <p>第3回：Pre 体力測定2(筋力・筋パワー、バランス能力、有酸素能力)</p> <p>第4回：つもりと実際(筋力・瞬発力の推定値と実測値の比較)</p> <p>第5回：呼吸循環と健康(有酸素運動中の呼吸数と心拍数)</p> <p>第6回：ロコモティブシンドローム・サルコペニア(超音波法や簡易評価法など)</p> <p>第7回：有酸素運動(推定心拍数から運動強度を算出)</p> <p>第8回：テニス(運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第9回：バスケットボール(運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第10回：バドミントン(運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第11回：バレーボール(運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第12回：卓球(運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第13回：レクリエーションスポーツ(運動時の心拍数・主観的運動強度を測定)</p> <p>第14回：Post 体力測定1(Preの測定値と比較)</p> <p>第15回：Post 体力測定2(Preの測定値と比較)・まとめ</p> <p>・第1回に健康確認や授業の重要事項を説明(欠席者は第2回までに教員への個別連絡が必要)</p>

アクティブ ラーニング	グループ学修、PBL、学修ポートフォリオ
評価方法	基本技術の習得状況・達成度 10%、レポート課題 50%、授業態度 20%、機器・用具の取り扱いと準備・片付け 10%、服装 10% 再試験は実施しない。レポートの提出期限は厳守。
課題に対する フィード バック	レポート・リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし
事前・ 事後学修	毎回の授業前には関連事項を予習する（約 40 分）。授業後は授業で得られたデータをまとめ、レポートを作成しながら復習する（約 40 分）。
オフィス アワー	<ul style="list-style-type: none"> ・【科目責任者】 安田智洋 （看護学部、1206 研究室、tomohiro-y@seirei.ac.jp、火曜・金曜 13:00～18:00） ・学内の健康診断は必ず受診し、運動に影響する所見がある場合は、必ず担当教員まで相談する。また既往歴（これまで有したことのある病気や障害・傷害など）がある場合も同様。 ・履修者は 40 名までとする（履修者の人数に応じて授業内容の一部を変更する場合がある）。 ・テニスでは屋外シューズ、それ以外では室内シューズを必ず用意すること。 ・スポーツウェアを着用し、アクセサリ・時計の着用は禁止する。 ・受講者全員が楽しく授業が行えるよう、集団の一員としての自覚をもって行動すること。

科目名	物理学
科目責任者	箕浦 哲嗣
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	日々の生活はもちろん、仕事でも娯楽でも、物理はあなたの身の回りで当然のように使われています。物理原則を知るとは生活力を向上させ、問題解決・回避の能力を高めてくれるに違いありません。本講義では、実際に簡単な実験や観察を通して様々な現象を知り学んで頂きます。
到達目標	1. 力学の基本を理解する。 2. 波動の基本を理解する。 3. 電磁気学の基本を理解する。
授業計画	<p>第 1 回：はじめに：物理学とは、国際単位系、有効数字（身の回りの単位）</p> <p>第 2 回：運動：直線運動の速度と加速度について（簡単に物体の移動速度を計測する方法）</p> <p>第 3 回：力と運動 1：ニュートンの運動の法則、運動量、力の合成、運動方程式（ベクトル）</p> <p>第 4 回：力と運動 2：2つの摩擦力、剛体に作用する力（ニュートンのゆりかごとは）</p> <p>第 5 回：仕事とエネルギー 1：力と仕事、位置エネルギーと運動エネルギー（エネルギーって？）</p> <p>第 6 回：仕事とエネルギー 2：仕事と運動エネルギー、エネルギー保存則（電卓を準備）</p> <p>第 7 回：周期運動 1：円運動（遠心力とは）</p> <p>第 8 回：周期運動 2：振り子、振動（周波数とは）</p> <p>第 9 回：流体：圧力、流体力学（静水圧とは）</p> <p>第 10 回：波動 1：波の性質、波の速度、重ね合わせ（水面の波を観察する）</p> <p>第 11 回：波動 2：波の干渉・反射、屈折と回折、定常波、光（ハーモニクスとは）</p> <p>第 12 回：熱と温度：理想気体の状態方程式、熱力学の第 1 法則、第 2 法則（永久機関とは）</p> <p>第 13 回：電荷と電流：導体と絶縁体、クーロンの法則、電場・電位（静電気とは）</p> <p>第 14 回：電気回路：起電力、オームの法則（電気用図記号を再確認）</p> <p>第 15 回：電磁気学：電場と磁場（電子レンジの加熱原理）</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	授業態度 30%、レポート 70%で評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『自然科学の基礎としての物理学』原康夫, 学術図書出版社, ISBN-13 978-4780602005
事前・ 事後学修	事前学修: 上記授業計画の末尾 () に記されたことを調べてくること。 事後学修: 毎回、講義終了時に指示する。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	化学
科目責任者	青島 均
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	医療分野の看護系化学の基礎を学習する。原子からどのように分子が作られるのか学んだうえで、生体成分や栄養成分(糖、脂質、アミノ酸、核酸)の構造や性質を述べる。また、看護系で使用される単位系、溶液の濃度、浸透圧、酸・塩基平衡などについても説明する。
到達目標	1. 原子から分子がどのように作られるか説明できること 2. 生体や食品を構成する化学物質について説明できること 3. 単位系、物質質量、圧力、酸・塩基、浸透圧などを理解し説明できること
授業計画	第 1 回： 原子、化学結合と分子 第 2 回： 有機化合物の種類と特性基 第 3 回： 有機化合物の反応 第 4 回： 物質代謝とは、糖類の化学 1 (単糖類) 第 5 回： 糖類の化学 2 (2糖類と多糖類) 第 6 回： 脂質の化学 (脂肪酸、トリグリセリド、コレステロール) 第 7 回： アミノ酸の種類とタンパク質 第 8 回： 酵素反応の特徴と補酵素 第 9 回： タンパク質の機能と分類 第 10 回： 核酸の化学 (ヌオクレオシド、ヌクレオチド、DNAとRNA) 第 11 回： S I 単位系と臨床分析値に使用される単位 第 12 回： 物質質量、溶液の濃度の様々な表示法 第 13 回： 気体の状態方程式 第 14 回： 化学平衡と酸・塩基 (アシドーシスとアルカローシス) 第 15 回： 半透膜と浸透圧 (オスモル濃度)

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 80%、レポート・課題提出 20%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし（プリントを配布する。）
事前・ 事後学修	プリントを読んでおくこと。演習問題を解き、不明なことは調べ質問すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	統計学の基礎
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	看護学を学ぶ過程では、医療に関するさまざまなデータを扱うことになる。それらのデータを処理するためには数学や統計学の基本的な知識・理論が必要となる。この科目では、看護学の学修に必要な数学・統計学の基礎となる知識や計算力、思考力を修得することを目的とする。単に計算方法を暗記するだけでなく、考える過程や理論を修得することに重点を置く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護計算や統計学の基礎となる数学の基礎知識を理解できる。 2. 問題を論理的に理解し、計算式を立て、これを解くことができる。 3. データの特徴をとらえ、図表や指標を用いて示すことができる。
授業計画	<p>第 1 回：ガイダンス、基礎知識の確認</p> <p>第 2 回：単位の換算</p> <p>第 3 回：割合の計算</p> <p>第 4 回：比の計算</p> <p>第 5 回：濃度の計算</p> <p>第 6 回：速さと時間と量の関係</p> <p>第 7 回：圧力の計算</p> <p>第 8 回：演習問題と解説 (1)</p> <p>第 9 回：統計学とは、データの分類</p> <p>第 10 回：データの特徴を図表で示す</p> <p>第 11 回：データの特徴を数値で示す</p> <p>第 12 回：2 つのデータの間を関係を図表で示す</p> <p>第 13 回：データの分布と確率</p> <p>第 14 回：確率に基づくデータの分析</p> <p>第 15 回：演習問題と解説 (2)、まとめ</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	口頭や資料配布、Moodle への提示などによって行う。
指定図書	なし 毎回、講義用プリントを配布します。
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する Moodle 上の資料に目を通しておくこと（10分）。 事後学修：配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（30分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時 Moodle に掲載します。事前・事後学修に活用してください。
オフィス アワー	隆朋也：看護学部，1605 研究室（1 号館 6 階） 時間については初回授業時に提示します。 連絡先：tomoya-t@seirei.ac.jp

科目名	キャリアデザイン
科目責任者	宮谷 恵
単位数他	1単位 (15時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	看護職としてのキャリア形成に向けて、自分自身についておよび看護職のキャリアコース (進路) について理解を深め、自分の将来像を自分なりに描く。また、社会に出るために必要な基礎的能力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自分の人生におけるキャリアについて考えをまとめることができる(キャリアデザイン)。 2. 社会人として必要なマナー・コミュニケーション能力、文章表現力等を身につける。 3. 身近な課題をもとに、遭遇するストレスに対する対処法・解消法について知り、自分に合った具体的方法を挙げることができる。 4. 保健医療福祉に関する地域社会等のニーズを捉え、自身のキャリアデザインの中で専門職としての貢献について考えることができる。
授業計画	<p>第1回：看護職の役割と責任、看護職について 宮谷 恵</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 授業の進め方 (オリエンテーション) 2) キャリアとは? キャリアデザインとは? 3) 看護職のキャリアコースについて <p>第2回：自分のキャリアをデザインする (1) 宮谷 恵・樺澤三奈子・榎原理恵・井上菜穂美</p> <ol style="list-style-type: none"> 4) 自己分析、適正を見極めることから自分の将来像を描く 5) これからの自分の状況 (就職活動や就職後) をイメージする <p>第3回：自分のキャリアをデザインする (2) 特別講師</p> <ol style="list-style-type: none"> 6) 先輩看護職者の人生設計：体験談を聞く (2~3名)、質疑応答 7) より具体的に 自分の将来像を考えてみる <p>第4回：社会人としての基礎的な能力を身につける (マナー・コミュニケーション力) 特別講師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを伝える、主張する、相手の話を傾聴する <p>第5回：社会人としての基礎的な能力を身につける (文章表現法等) 渡辺泰宏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敬語・謙譲語の正しい使い方、正しい日本語・漢字 <p style="text-align: center;">(*第6回と7回のグループワークのオリエンテーション)</p> <p>第6回：ストレスに対する対処法・解消法を学ぶ (1) 宮谷 恵・樺澤三奈子・榎原理恵・井上菜穂美</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な課題 (実習等への不安) をグループで共有する ・自分の考えを表現できる。 <p>第7回：ストレスに対する対処法・解消法を学ぶ (2) 宮谷 恵・樺澤三奈子・榎原理恵・井上菜穂美</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループ毎の発表を行う <p>第8回：まとめ (グループのまとめ、ワークのまとめ) 宮谷 恵・樺澤三奈子・榎原理恵・井上菜穂美</p> <ol style="list-style-type: none"> 8) 自分の将来像を自分なりに描き、今後の実習・就職に向けての準備に取り組む <p style="text-align: center;">ワークをもとに、『My Tips (お役立ちブック)』の作成</p>

アクティブ ラーニング	第6～8回目にグループワークを行います。また授業ごとに課題レポートの中での質問、意見には授業時に回答、またはムードル、個別メールで返答します。
評価方法	授業への取り組み状況 20%、課題レポート 50%、提出したワークシート 30%
課題に対する フィード バック	課題レポート・ワークシートへのフィードバックは授業時に回答、またはムードル、個別メールで返します。
指定図書	勝原由美子『看護師のキャリア論』ライフサポート社 「就職ガイドブック」、「キャリアガイドブック先輩の声」：本学就職センター作成資料
事前・ 事後学修	事前学修： ・指定図書を読む（範囲はその都度指示します）。 ・授業の最後に提示する、次回授業までの課題（ワークシートの作成など）を行う。 事後学修： 授業内容を振り返り、わからなかったこと、知りたいと思ったことを調べる。 1コマあたりの時間の目安は事前学習 20 分、事後学習 20 分です。
オフィス アワー	宮谷 恵：月曜日 午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 樺澤三奈子：月曜日 16：30 以降（1213 研究室） minako-ka@seirei.ac.jp 榎原理恵：月曜日・水曜日の午後（1616 研究室） rie-k@seirei.ac.jp 井上菜穂美：月曜日 17 時以降（1208 研究室） nahomi-i@seirei.ac.jp（実習中は要連絡）

科目名	保健統計学
科目責任者	隆 朋也
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	保健・医療に関するさまざまなデータを理解し活用するには、統計学の知識が必要不可欠である。この科目では、統計学について看護専門職者に求められる基礎的事項を系統的に学修し、看護師、保健師の業務で活用できるようになることを目的とする。単に計算方法を暗記するだけではなく、考える過程や理論を修得することに重点を置く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. データの特徴を知り、図および表で適切に示すことができる。 2. データの特徴を、指標を用いて適切に表すことができる。 3. 母集団の平均値を推定し、二群を比較できる。 4. 相関係数の意味および算出方法を説明し、検定および推定ができる。 5. クロス表を作成し、検定ができる。
授業計画	<p>第 1 回： データの性質、母集団と標本</p> <p>第 2 回： 分布を描く</p> <p>第 3 回： 分布の代表値</p> <p>第 4 回： 分布の散布度</p> <p>第 5 回： 確率分布</p> <p>第 6 回： 正規分布</p> <p>第 7 回： 母集団での平均値の推定</p> <p>第 8 回： 割合に関する分布、統計的仮説検定</p> <p>第 9 回： 母平均値の差の検定</p> <p>第 10 回： 1 変数についての解析 まとめ</p> <p>第 11 回： 相関図と相関係数</p> <p>第 12 回： クロス集計とクロス表の検定</p> <p>第 13 回： 2x2 のクロス表について</p> <p>第 14 回： 2 変数についての解析 まとめ</p> <p>第 15 回： 分布を仮定しない検定法</p>

アクティブ ラーニング	Moodle を用いて授業資料や関連資料、演習問題の提供などを行う。
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	口頭や資料配布、Moodle への提示などによって行う。
指定図書	『ナースのための統計学 第2版』高木廣文、医学書院
事前・ 事後学修	事前学修：次回の学修内容に関する教科書の該当ページに目を通しておくこと（15分）。 事後学修：教科書・配布資料・演習問題等を再確認して、それぞれの講義のポイントを整理しておくこと（25分）。前回までの授業内容を習得していることが受講の前提となります。 授業で使用するスライドデータや関連資料を随時Moodleに掲載します。事前・事後学修に活用してください。
オフィス アワー	隆朋也：看護学部，1605 研究室（1号館6階） 時間については初回授業時に提示します。 連絡先：tomoya-t@seirei.ac.jp

科目名	疫学
科目責任者	石井 敏弘
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	看護専門職に求められる疫学の基礎的事項を系統的に学修し、看護に関わる問題を科学的に解決するための論理および手法を習得することを目的とします。講義と演習を組み合わせで行います。
到達目標	つぎの課題に疫学がいかに関与しているかを説明し、具体的な問題を解決できる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 疾病の頻度を測定する ・ 疾病の出現パターンを記述する ・ 疾病が進行する原因を同定する ・ 疾病の予後を予測する ・ 疾病の集団発生を調査する ・ 疾病の発生原因を明らかにする ・ 治療の有効性を評価する ・ 診断用検査の正確さを査定する
授業計画	<p>第 1 回： ガイダンス. 疫学入門 (学習に関する助言. 疫学とは. 疫学的アプローチ. 疫学の適用)</p> <p>第 2 回： 疫学で用いられる尺度 1 (比, 割合, 率, 人年法, 有病率, 罹患率, リスク)</p> <p>第 3 回： 疫学で用いられる尺度 2 (死亡率, 致命率, 生存率, 年齢調整)</p> <p>第 4 回： 疾病の集団発生 (流行の分類, 食中毒における発生状況の調査方法, 原因の特定と対策)</p> <p>第 5 回： 仮説生成の方法 1 記述疫学 (疫学の枠組み, 有病, 罹患の調査方法)</p> <p>第 6 回： 仮説生成の方法 2 生態学的研究 (相関分析, 生態学的研究の意義と限界)</p> <p>第 7 回： 仮説検証の方法 1 コホート研究 1 (研究デザイン, 対象者の選択, 測定の時期, データ収集)</p> <p>第 8 回： 仮説検証の方法 2 コホート研究 2 (解析の理論と指標)</p> <p>第 9 回： 仮説検証の方法 3 症例対照研究 1 (研究デザイン, 対象者の選択, 測定の時期, データ収集, 選択バイアスの制御)</p> <p>第 10 回： 仮説検証の方法 4 症例対照研究 2 (解析の理論と指標)</p> <p>第 11 回： 確率誤差と系統誤差 (確率誤差の理論と評価, 系統誤差の種類と制御)</p> <p>第 12 回： 因果関係の立証 (関連性と原因, 因果関係の考え方, 因果関係の判定基準)</p> <p>第 13 回： 臨床試験 (研究デザイン, 偶然による過誤, 仮説検定の理論と方法, 区間推定)</p> <p>第 14 回： 診断学的検査 1 検査精度 (感度と特異度, 陽性反応的中度と陰性反応的中度)</p> <p>第 15 回： 診断学的検査 2 検査精度の比較 (カットオフ・ポイント, 受信者動作特性曲線)</p>

アクティブ ラーニング	問題演習を行います。
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	演習問題の解答例および解説を提示します。リアクションペーパーに対してコメントを返します。
指定図書	Raymonds S. Greenberg 編著、熊倉伸宏／高柳満喜子 監訳 『医学がわかる疫学』 新興医学出版社
事前・ 事後学修	中学校卒業レベルの国語、数学に関わる標準的な学力を備えていることが受講の要件です。これについては事前学修（自己学習）してください。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は30分～60分です。 事前・事後学修では計算方法を単に暗記するだけではなく、理論や考える過程を修得することが重要です。
オフィス アワー	石井敏弘（看護学部所属、1615 研究室:toshihiro-i@seirei.ac.jp） 時間については初回授業時に提示します。

科目名	公衆衛生学
科目責任者	石井 敏弘
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 3セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	看護専門職に求められる衛生・公衆衛生学に関連した基礎的事項を系統的に学修し、看護に関わる問題解決に活かすための知識および論理的思考力を習得することを目的とします。講義と演習を組み合わせで行います。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康問題の変遷、公衆衛生活動について説明できる。 2. 保健医療福祉の倫理について説明できる。 3. 健康指標、人口統計について意義、算出方法を説明できる。 4. 疾病予防の段階、健康管理に関わる理論と制度について説明できる。 5. 感染症、循環器疾患、代謝疾患、がん、不慮の事故、自殺の現状および予防方法について説明できる。
授業計画	<p>第 1 回： 生活と健康 (公衆衛生学とは、健康とは、健康維持に関わる生活の役割、保健指導と生活改善)</p> <p>第 2 回： 健康問題の変遷、公衆衛生の歴史、公衆衛生活動 (人口統計および保健統計、健康教育、試験検査、保健医療福祉計画と行政)</p> <p>第 3 回： 生命倫理 (資格と免許、医の倫理、患者の権利、脳死と臓器移植、終末期ケア)</p> <p>第 4 回： 健康の測定と指標 (健康水準、罹患率、有病率、受療率、死亡率、平均余命、死因別死亡率)</p> <p>第 5 回： 人口統計 (人口静態統計、人口動態統計、粗出生率、合計特殊出生率、再生産率)</p> <p>第 6 回： 健康に関する政府統計 (国勢調査、人口動態調査、国民生活基礎調査、患者調査、国民健康・栄養調査)</p> <p>第 7 回： 疾病の自然史と予防の段階 (疾病と危険要因、一次予防、二次予防、三次予防)</p> <p>第 8 回： 健康管理 (健康管理のスペクトラムと活動の構成、健康管理の技法、健康増進)</p> <p>第 9 回： 感染症の成り立ち、対策 (感染症成立の要件、流行、院内感染、感染症予防対策の原則と方法)</p> <p>第 10 回： 感染症の動向 (結核、成人T細胞白血病、H I V感染症、新型インフルエンザ、ウイルス性肝炎、性感染症、麻疹、風疹、中東呼吸器症候群)</p> <p>第 11 回： 予防接種 (歴史的背景と意義、ワクチンの種類、予防接種の種類と実施方法)</p> <p>第 12 回： 循環器系疾患の予防 (疾患の分類と疫学、高血圧性疾患、心疾患、脳血管疾患)</p> <p>第 13 回： 代謝疾患の予防 (糖尿病、脂質異常症、痛風、メタボリック・シンドローム)</p> <p>第 14 回： がんの予防 (定義と自然史、死亡と罹患の状況、がんの一次予防と二次予防)</p> <p>第 15 回： 不慮の事故、自殺の現状と対策</p>

アクティブ ラーニング	問題演習を中心とした授業を行います。
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	演習問題の解答例および解説を提示します。リアクションペーパーに対してコメントを返します。
指定図書	『シンプル 衛生公衆衛生学 2017』南江堂
事前・ 事後学修	事前学修は不要です。 前回までの教授内容が習得されていることが、受講にあたって望まれます。各人の必要に応じて事後学修してください。事後学修時間の目安は30分～60分です。
オフィス アワー	石井敏弘 (看護学部所属、1615 研究室: toshihiro-i@seirei.ac.jp) 時間については初回授業時に提示します。

科目名	保健医療行政論
科目責任者	石井 敏弘
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	看護専門職に求められる保健医療福祉行政に関連した基礎的事項を系統的に学修し、看護に関わる問題解決に活かすための知識および論理的思考力を習得することを目的とします。講義と演習を組み合わせで行います。
到達目標	1. 保健・医療、社会保障の制度と法規について説明できる。 2. 地域保健に関わる行政組織、活動について説明できる。 3. 高齢者の生活、健康状態、保健・医療制度、介護保険について説明できる。
授業計画	<p>第 1 回： 保健医療行政の基礎と概要 (地域保健行政の概要、学校保健行政の概要、労働衛生行政の概要)</p> <p>第 2 回： 保健医療行政の歴史 (近代公衆衛生の発展、日本における保健医療行政の発展)</p> <p>第 3 回： 保健行政の制度と組織 (地域保健行政、学校保健行政、労働衛生行政の制度と組織)</p> <p>第 4 回： 医療制度 (医事、医薬品医療機器等に関する法律、医療提供施設、医療従事者の資格と資格法)</p> <p>第 5 回： 医療保障の制度、障害者福祉の制度 (社会保障とは、医療保険、公費医療制度、社会福祉の仕組み、障害者福祉)</p> <p>第 6 回： 地域保健の体系 (保健所、市町村保健センター、民間組織との協働)</p> <p>第 7 回： 地域保健における保健師の役割 (地域社会、地域保健行政の理論的背景、地域保健活動の進め方)</p> <p>第 8 回： 健康危機管理、保健師活動の情報管理 (健康危機発生時の管理と事前管理、感染症集団発生における標準的対応、情報公開と個人情報保護)</p> <p>第 9 回： 地方公共団体の保健医療福祉計画 (総合計画と保健医療福祉の諸計画、計画の策定過程、計画の推進、計画の評価)</p> <p>第 10 回： 保健医療福祉の財政 (財政とは、国の財政のしくみ、地方財政のしくみ)</p> <p>第 11 回： 高齢者の生活と健康状態 (老化、高齢者の生活、健康寿命、高齢者の受療状況)</p> <p>第 12 回： 高齢者の保健・医療・福祉 1 (高齢者を対象とする保健・医療・福祉制度の沿革)</p> <p>第 13 回： 高齢者の保健・医療・福祉 2 (高齢者医療制度と特定健診・保健指導、在宅サービス、施設サービス)</p> <p>第 14 回： 介護保険 (制度の概要、サービスの内容、市町村、都道府県、国の役割)</p> <p>第 15 回： 介護予防 (介護予防の取り組み、地域包括ケアと地域包括支援センター)</p>

アクティブ ラーニング	問題演習を中心とした授業を行います。
評価方法	原則は筆記試験 100% (ただし授業における状況を含める場合があります。この際には授業中に明示します。)
課題に対する フィード バック	演習問題の解答例および解説を提示します。リアクションペーパーに対してコメントを返します。
指定図書	『シンプル 衛生公衆衛生学 2017』南江堂 『保健医療福祉行政論』医学書院 『国民衛生の動向 2017/2018』厚生統計協会
事前・ 事後学修	『公衆衛生がみえる』メディックメディア 『公衆衛生マニュアル』南山堂 官公庁のホームページも参考になります。
オフィス アワー	石井敏弘 (看護学部所属、1615 研究室:toshihiro-i@seirei.ac.jp) 時間については初回授業時に提示します。

科目名	社会福祉概論
科目責任者	野田 由佳里
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 2セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉問題について考え、「社会福祉」とは何かを学びます。その福祉サービスの考え方を学び、社会福祉の理念と実際に学びます。 ・社会福祉の基本と社会福祉の各分野を学び、医療を福祉の協働の重要性の理解を深めます。
到達目標	<p>社会福祉の基礎概念を説明できる。</p> <p>社会福祉関係法のサービスの現状や課題を説明できる。</p> <p>自らの専門性を意識して医療と福祉との協働のあり方を説明できる。</p> <p>看護学との比較を通して基礎知識を学ぶ動機付けができる。</p>
授業計画	<p>第 1 回：現代社会における社会福祉：基礎概念 事前課題 1：社会福祉の意味・社会福祉法第 3 条・第 4 条を調べる</p> <p>第 2 回：福祉サービス：社会福祉の仕組み 事前課題 2：「日常生活」の意味を調べる</p> <p>第 3 回：社会福祉と「日常生活」の意味を考える 事前課題 3：生活の営みを考える</p> <p>第 4 回：「日常生活を営む」ことの支援の意味を考える 事前課題 4：憲法第 25 条を調べる</p> <p>第 5 回：憲法第 25 条「最低限度の生活」と社会福祉の歩み：社会保障・公的扶助 事前課題 5：ホームレスの定義を調べる</p> <p>第 6 回：日本の住宅問題を社会福祉から考える 事前課題 6：日常生活と社会生活の違いを調べる</p> <p>第 7 回：「日常生活」と「社会福祉」を障害者福祉の歩みから考える 事前課題 7：ケアマネジャーの役割を調べる</p> <p>第 8 回：個別支援とケアマネジメントの登場：社会福祉の援助と方法 事前課題 8：病院の歴史を調べる</p> <p>第 9 回：医療と社会福祉 事前課題 9：「地域包括ケアシステム」の意味を調べる</p> <p>第 10 回：医療機関の役割の変化と地域包括ケアシステム 事前課題 10：協働の意味を調べる</p> <p>第 11 回：医療と介護・福祉の協働 事前課題 11：利用者支援の仕組みを調べる</p> <p>第 12 回：利用者支援 事前課題 12：社会福祉士・介護福祉士の意味を調べる</p> <p>第 13 回：社会福祉職の役割と実際 事前課題 13：社会福祉の課題を調べる</p> <p>第 14 回：少子高齢社会・人口減少社会と社会福祉の今後：社会福祉の課題</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	事前課題に取り組み、当該内容を理解して授業に臨んでください。発言係の担当になった際は授業を牽引するのは学生自らがという自負を持って積極的な議論ができるよう私見をまとめてください
評価方法	事前課題・事後課題レポート 15 回を含むミニレポート 3 回 (90%)・発言係 (10%)
課題に対する フィード バック	事後課題の解説は授業内で行います。またリアクションペーパーに関しては、授業内や Moodle などを活用し、丁寧なフィードバックを心掛けます。
指定図書	山縣文治・岡田忠克編「よくわかる社会福祉」 ミネルヴァ書房
事前・ 事後学修	<p>【事前学習】毎回事前課題を提示致しますので 25 分程度は取り組むようにしてください。また初回授業時に配布する講義予定表を参考に指定図書の該当頁を熟読してから講義に臨んでください。テキストを 15 分以上読んでから授業に臨みましょう。</p> <p>【事後学修】講義後、40 分程度振り返りレポートを作成して毎回のポイントをまとめてください。</p>
オフィス アワー	<p>社会福祉学部所属の野田由佳里研究室 (2706 研究室) にて、自由に相談に応じるオフィスアワーを設定します。時間については、初回授業時に提示します。</p> <p>(yukari-n@seirei.ac.jp)</p>

科目名	家族関係論	
科目責任者	佐藤 弘明	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2セメスター	
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	現代の家族に起きている変化と、変化を生んだ要因について社会的に学び、医療従事者として必要な家族を見る目を養う。また現代家族をめぐるさまざまな問題や人間関係について、心理学的立場から理解を深める。	
到達目標	1. 自ら経験する現実の家族を人類学的、社会学的観点から相対化することによって家族および家族関係について理解を深める。	
授業計画	第 1 回： 家族とは何か (心理学の立場から) 第 2 回： システムとしての家族 第 3 回： 児童虐待と家族 第 4 回： 夫婦関係とその危機 (1) / 夫婦関係の形成と発達 第 5 回： 夫婦関係とその危機 (2) / 事例を通して 第 6 回： 親子関係とその危機 (1) / 子どもが育つ場としての家族 第 7 回： 親子関係とその危機 (2) / 事例を通して 第 8 回： 家族とは？ (1) / 世界の多様な家族 第 9 回： 家族とは？ (2) / 日本の家族の過去と現在 第 10 回： 家族とは？ (3) / 日本の家族の過去と現在 第 11 回： 家族とは？ (4) / 日本の家族の過去と現在 第 12 回： 夫と妻 (1) / 少子化を通してみる夫と妻 第 13 回： 夫と妻 (2) / 少子化を通してみる夫と妻 第 14 回： 親と子 / 少子化を通してみる親と子 第 15 回： 祖父母と孫 / 少子化を通してみる祖父母と孫	柴田俊一 柴田俊一 柴田俊一 柴田俊一 柴田俊一 柴田俊一 柴田俊一 佐藤弘明 佐藤弘明 佐藤弘明 佐藤弘明 佐藤弘明 佐藤弘明 佐藤弘明 佐藤弘明

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	(佐藤) 定期試験 (100%) の結果で評価する。ただし、受講態度を加点要素とする。 (柴田) レポート 100% で評価する。
課題に対する フィード バック	定期試験の解答例を提示します。
指定図書	なし
事前・ 事後学修	(佐藤) 講義内容をよりよく理解するには質問が必須です。質問のためには授業前後にノート の再読が必要です。少なくとも 30 分はかけてください。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	生涯発達心理学
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 1セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	この授業では、人間のライフサイクルの各発達段階(乳児期～高齢期)における発達課題とその意味について、エリクソンなどのいくつかの発達理論や最新の研究知見を用いて、特に対人関係や自己の発達に焦点をあてて説明する。また、発達障害の特徴について理解し、支援のあり方についても検討する。
到達目標	1. 看護専門職に必要な「乳幼児期から高齢期に至るまでの各発達段階の発達課題」および「発達障害に関する定義や特徴」の基本的事項について説明できる。 2. 上記1の知識を得ることで、これまでどのような発達の道筋を経てきたのか、今の発達段階での課題をどのように乗り越えているのかなど、発達の観点から自分や他者を理解する。
授業計画	<p>第1回： ライフサイクルにおける発達とは・発達における「遺伝」と「環境」</p> <p>第2回： 胎生期・乳児期の発達（愛着の形成）</p> <p>第3回： 乳児期の発達（基本的信頼感）</p> <p>第4回： 幼児期前半の発達1（第1次反抗期、言語能力の発達）</p> <p>第5回： 幼児期前半の発達2（自律性、トイレトレーニング）</p> <p>第6回： 幼児期後半の発達（積極性、遊びの発達）</p> <p>第7回： 児童期の発達（勤勉性、ギャングエイジ）</p> <p>第8回： 思春期の発達（親離れ・子離れ、友人関係）</p> <p>第9回： 青年期の発達：（アイデンティティの形成）</p> <p>第10回： 初期成人期の発達（親密性、キャリア発達）</p> <p>第11回： 中年期の発達1（中年期危機）</p> <p>第12回： 中年期の発達2（アイデンティティの再体制化）</p> <p>第13回： 高齢期の発達（エイジング）</p> <p>第14回： 発達障害の理解と支援1（学習障害、注意欠如多動性障害）</p> <p>第15回： 発達障害の理解と支援2（自閉症スペクトラム障害）</p>

アクティブ ラーニング	クリッカーによる双方向的な授業を行う。
評価方法	定期試験80%, 授業への取り組み状況20%
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答を全体に向けてパワーポイントで映しながら口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)をクリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、講義内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を40分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜日午後2時~5時は在室していることが多い。そのほかの曜日・時間帯でも対応可能な時がある。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けている。

科目名	臨床心理学
科目責任者	福永 博文
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。
科目概要	現代社会は、人間のあり方が問われ、心の健康においても多様な問題を抱えている。医療、教育、福祉、産業、司法などの場において、人間行動の適応調整や人格的成長を促進し、又、社会的不適応、児童虐待、障害の精緻化による発達障害などへの援助、改善、予防をすることが求められている。このようなことから人間が精神的健康を回復・維持・増進して「生きる力」を身につけることについて臨床心理学の観点から学習する。また、本科目で学ぶ臨床心理学の理論、アセスメントや関係者との連携に関する知識は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。
到達目標	1. 生きる力が伸びる性格形成、及び、心理臨床的なアセスメントについて理解する。 2. 児童虐待の発生メカニズムと対応、発達障害の支援について理解する。 3. 健康相談活動に生かすことができ、生きる力が立ち直るための心理臨床について理解する。 4. 養護教諭が行う健康相談活動に必要な臨床心理学の理論、アセスメント・連携の方法について理解する。【養護教諭課程履修者】
授業計画	第 1 回： 生きる力と臨床心理学 — 臨床心理学の目的と方法 — 第 2 回： 生きる力が伸びる性格形成 — 性格の意味と理論、性格形成 — 第 3 回： 生きるための欲求と適応 — 欲求の意味・発達、欲求不満、適応（防衛）機制—（事例検討） 第 4 回： 生きるための不適応の改善 — 不適応の意味と原因・改善のための支援 — 第 5 回： 心理臨床的アセスメント① — 観察、面接など健康相談活動に生かすアセスメント—（事例検討） 第 6 回： 心理臨床的アセスメント② — 心理検査の種別と実施方法 — 第 7 回： 生きる力を支える心理臨床的治療① — 基本的視点、行動療法 — 第 8 回： 生きる力を支える心理臨床的治療② — 障害のある子どもをもつ家族の心理的变化と支援 — 第 9 回： 健康相談活動に生かし、生きる力が立ち直る心理臨床① — 学校における養護教諭とスクールカウンセラーとの関係 — 第 10 回： 健康相談活動に生かし、生きる力が立ち直る心理臨床② — 発達障害と心理臨床（理論と実践例） — 第 11 回： 健康相談活動に生かし、生きる力が立ち直る心理臨床③ — 行動療法、認知行動療法（理論と実践例） — 第 12 回： 健康相談活動に生かし、生きる力が立ち直る心理臨床④ — 応用行動分析学と心理臨床（理論と実践例） — 第 13 回： 児童虐待と心理臨床① — 虐待する親のタイプ、虐待のタイプ、家族構造— 第 14 回： 児童虐待と心理臨床② — 虐待が子どもに与える心理的影響、子どもと家族支援— 第 15 回： 患者の心理臨床 — ライフステージに沿った入院患者の心理と支援—

アクティブ ラーニング	適応に困難をきたしているクライアントの理解と支援のために必要な面接の知識や技術はロールプレイングをとおして、又心理的問題のあるクライアントについては、具体的な事例検討により、臨床場面で生かせる確かな実践力を身につける。
評価方法	中間試験 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	中間試験の解答例の提示と授業における解説 筆記試験の解答例の提示
指定図書	『生きる力を育てる臨床心理学』小林 芳郎編著 保育出版社
事前・ 事後学修	教科書と事前に配布した補足資料を 25 分程度読んで、理解を深めておく。同時に、15 分程度の復習をする。
オフィス アワー	授業に関する質問は、授業時に直接、もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	カウンセリング
科目責任者	白井 博美
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4セメスター
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	日常生活における相談が個人の考えや経験をもとに行われることが多いのに対して、カウンセリングは臨床心理学の考え方を基盤に「クライアント(相談に訪れた人)をどのように理解し、いかに関わるのか」を吟味しながら行われる。本講義の目的は、カウンセリングの基礎知識の学習を通して、看護における心理的援助のあり方を考えることである。また、本科目で学ぶカウンセリングの基本理論・技法は、養護教諭が行う健康相談活動にも有用である。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. カウンセリングの基本姿勢と基本技法を理解する。 2. カウンセリングにおける「聴く」ことの意義を理解する。 3. カウンセリングのプロセスを理解する。 4. カウンセリングにおける心理アセスメントの意義と方法を理解する。 5. カウンセリングの基盤となる臨床心理学の理論の要点を理解する。 6. 健康相談活動を行う上で基礎となるカウンセリングの理論と技法を理解する。 <p>[養護教諭課程履修者]</p>
授業計画	<p>第 1 回： カウンセリングとは何か</p> <p>第 2 回： カウンセリングの基本姿勢</p> <p>第 3 回： カウンセリングの基本技法 聞き上手とは？</p> <p>第 4 回： クライアント中心療法</p> <p>第 5 回： 非言語的メッセージとカウンセリング</p> <p>第 6 回： カウンセリングの流れ</p> <p>第 7 回： 心理アセスメント(1)</p> <p>第 8 回： 心理アセスメント(2)</p> <p>第 9 回： 自己理解を深める演習</p> <p>第 10 回： 精神分析療法の視点から</p> <p>第 11 回： 家族療法の視点から(1)</p> <p>第 12 回： 家族療法の視点から(2)</p> <p>第 13 回： 遊戯療法・芸術療法の視点から</p> <p>第 14 回： 行動療法・認知行動療法の視点から</p> <p>第 15 回： 自己表現について学ぶ演習</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 70%、小テスト 30%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『これからの心の援助 役に立つカウンセリングの基礎と技法』川瀬正裕他著、ナカニシヤ出版
事前・ 事後学修	各回の後に、テキストの該当箇所を目を通すこと。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	解剖学 I
科目責任者	顧 寿智
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 1セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	解剖学は医学の最も基礎になる学問のひとつである。実際、正しい解剖の知識が無ければ、正しい医療は望むべくもないであろう。解剖学では下記の内容について要点を講義する。さらに、浜松医科大学での解剖実習見学を通して、人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成について述べることができる。 2. 運動器系の構造上の特徴を述べることができる。 3. 心臓血管系の構造と機能について述べるができる。 4. 内臓系の基本的な構造と機能について述べるができる。 5. 解剖実習では知識の確認だけでなく、生命倫理の基礎をつくることができる。
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション、解剖学総論（解剖学用語、人体の構成）</p> <p>第 2 回：組織学総論（細胞、組織）</p> <p>第 3 回：消化器系（消化管の管壁、口、咽頭、食道、）</p> <p>第 4 回：消化器系（胃、小腸、大腸）</p> <p>第 5 回：消化器系（肝臓、胆嚢、膵臓、腹膜）</p> <p>第 6 回：呼吸器系（上気道、下気道、胸膜・縦隔）</p> <p>第 7 回：脈管系（心臓の構造、心臓の血管、刺激伝道系）</p> <p>第 8 回：脈管系（血管の構造、循環路、リンパ系）</p> <p>第 9 回：泌尿器系（腎臓、尿管、膀胱、尿道）</p> <p>第 10 回：まとめ、中間テスト、実習見学の準備</p> <p>第 11 回：浜松医科大学での解剖学実習見学</p> <p>第 12 回：運動器系（基本構造、骨の連結、全身の骨、主な骨格筋）</p> <p>第 13 回：生殖器系（男性生殖器、女性生殖器）</p> <p>第 14 回：内臓系、運動器系</p> <p>第 15 回：まとめ</p> <p>参考図書</p> <p>『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂</p> <p>『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂</p> <p>受講のための事前準備：赤青鉛筆</p>

アクティブ ラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリの活用、模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験（70%）、レポート（10点）、小（中間）テスト10%、授業態度（10%）を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（1コマ当たり約40分以上）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（juchi-k@seirei.ac.jp）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	解剖学Ⅱ
科目責任者	顧 寿智
単位数他	1単位 (30時間) 必修 2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	解剖学Ⅱは、解剖学Ⅰに引き続いて、下記の内容について特に神経系を重点的に解説する。人体の構造をさらに深く理解することを目指す。そして看護学に必要な人体の正常な構造の知識を身につけさせる。専門科目履修のための基礎を築く。
到達目標	1. 神経系の構成と主な機能を述べることができる。 2. 内分泌器系、感覚器系の構造と機能を述べるができる。
授業計画	<p>第1回：前期のまとめ、神経組織 第2回：神経系（神経系の構成、脊髄） 第3回：神経系（脳幹） 第4回：神経系（小脳、間脳、大脳） 第5回：神経系（大脳、脳の血管） 第6回：神経系（脳室と脳脊髄膜） 第7回：神経系（脳神経） 第8回：まとめ、中間テスト 第9回：神経系（脊髄神経） 第10回：神経系（脊髄神経） 第11回：神経系（自律神経系） 第12回：内分泌器系（下垂体、甲状腺、上皮小体、膵島、副腎） 第13回：感覚器系（視覚器、平衡聴覚器、皮膚） 第14回：神経系、内分泌器系、感覚器系 第15回：まとめ</p> <p>参考図書 『ネッター 解剖学アトラス』相磯貞和訳、南江堂 『日本人体解剖学』金子丑之助著、南山堂</p> <p>受講のための事前準備：赤青鉛筆</p>

アクティブ ラーニング	Moodle の活用、タブレットアプリの活用、模型の活用、グループ学習など
評価方法	期末試験（70%）、小（中間）テスト20%、授業態度（10%） を総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	テストの解説、レポート・リアクションペーパーのコメント
指定図書	系統看護学講座『解剖生理学』坂井建雄、医学書院
事前・ 事後学修	各章の学習目標を参考し、教科書に目を通すことを前提に講義は進めます。講義内容、配布資料、演習課題などを参考し、事後学修して下さい。（1コマ当たり約40分以上）
オフィス アワー	所属学部：リハビリテーション学部 研究室：3404 研究室 時間等：毎週火曜日 12時～13時 上記以外でも随時受け付けます。不在の時にはメール（ juchi-k@seirei.ac.jp ）か、研究室前のボードで遠慮なくアポイントを取ってください。

科目名	生理学 I
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	2単位 (30 時間) 必須 1 セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 消化・吸収の意義とその機能について説明できる。 2. 呼吸運動とガス交換について説明できる。 3. 循環系の意義、心臓の機能、心電図、血管系の機能、循環調節について説明できる。 4. 血液と体液の組成とその機能について説明できる。 5. 腎臓の機能、尿の生成、排尿ならびに体液の調節機構について説明できる。 6. 体温の調節機構について説明できる。
授業計画	<p>第 1 回：ガイダンス・栄養の消化と吸収-1</p> <p>第 2 回：栄養の消化と吸収-2</p> <p>第 3 回：栄養の消化と吸収-3</p> <p>第 4 回：栄養の消化と吸収-4</p> <p>第 5 回：呼吸の生理学-1</p> <p>第 6 回：呼吸の生理学-2</p> <p>第 7 回：呼吸の生理学-3</p> <p>第 8 回：心臓・循環の生理学-1</p> <p>第 9 回：心臓・循環の生理学-2</p> <p>第10 回：心臓・循環の生理学-3</p> <p>第11 回：血液と体液-1</p> <p>第12 回：血液と体液-2</p> <p>第13 回：尿の生成とその排泄-1</p> <p>第14 回：尿の生成とその排泄-2</p> <p>第15 回：体温とその調節・まとめ</p>

アクティブ ラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答えは次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
事前・ 事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。

科目名	生理学Ⅱ
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1単位 (30時間) 必須 2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	生理学は生命現象のメカニズムについて学ぶ学問であり、将来看護師として、患者の健康状態を評価する上で欠くことのできないのが、この生理学の知識です。本科目は看護に必要な「人体の構造と機能」について、主に機能面を講義しますが、医学的な専門用語や知識を単に暗記するのではなく、生命活動との関連性を理解し、それらを連携・統合し看護に応用できる基礎力を身に付けることを目的とします。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 生体防御システムについて説明できる。 2. ホルモンの種類およびその作用・調節機構について説明できる。 3. 生殖、発生、成長、老化、それぞれのメカニズムについて説明できる。 4. 神経系の機能について説明できる。 5. 感覚系の機能について説明できる。 6. 筋系の機能および筋収縮について説明できる。
授業計画	<p>第1回：生体の防御機構</p> <p>第2回：内分泌系の機能と調節-1</p> <p>第3回：内分泌系の機能と調節-2</p> <p>第4回：内分泌系の機能と調節-3</p> <p>第5回：生殖と発生-1</p> <p>第6回：生殖と発生-2</p> <p>第7回：成長と老化</p> <p>第8回：神経機能の基礎</p> <p>第9回：自律神経系</p> <p>第10回：脊髄と脳-1</p> <p>第11回：脊髄と脳-2</p> <p>第12回：脳の高次機能</p> <p>第13回：感覚の生理学-1</p> <p>第14回：感覚の生理学-2</p> <p>第15回：筋肉の機能・まとめ</p>

アクティブ ラーニング	授業は小テストやリアクションペーパー作成のほか、授業中に学修した内容を学生同士で教え合うペアワークも取り入れながら進めます。
評価方法	定期試験（60%）、小テスト（30%）、授業への取り組み（10%）を総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	小テストは原則的に毎時間実施し、採点後の答えは次回の授業で返却し解説します。また、リアクションペーパーは毎時間提出してもらいますが、寄せられた質問、感想、コメントなどで重要なものは、次回の授業で回答したり紹介したりします。
指定図書	系統看護学講座 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院
事前・ 事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オフィス アワー	熊澤武志（1716 研究室:takeshi-ku@seirei.ac.jp） 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。

科目名	脳とこころの生理学
科目責任者	熊澤 武志
単位数他	1単位 (30時間) 選択 4セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	<p>生理学分野では、近年、脳に関する研究は大きな進歩を見せています。特に私たちヒトにとって重要な「こころ」の機能のいくつかは、脳の神経細胞の働きによるものであることが明らかになってきています。もちろん「こころ」は、心理学からの観点、文学からの観点、宗教学からの観点など、様々な視点から考察されるべきものですが、生理学的・神経科学的な観点からの考察も重要になってきていますし、それが不可能ではない時代になりつつあります。</p> <p>21世紀は「脳科学とこころ」の時代であるとの考えから、脳やこころに関する研究が積極的に推進されています。こうした点から、脳の動きと、それが私たちの「こころ」に結びつく点を、生理学的・神経科学的な観点から考察していきます。</p> <p>授業では高度な内容にも言及しますので、「生理学Ⅰ」「生理学Ⅱ」を良く理解していることを必要としますし、授業内容についてこられるだけの基礎的な力・理解力を必要とします。</p>
到達目標	1. 脳の動きと、それが私たちの「こころ」に結びつく点を、生理学的・神経科学的な観点から考察できる。
授業計画	<p>第1回：この授業の目的</p> <p>第2回：脳と心の哲学論争と現代脳科学 ニューロンについて</p> <p>第3回：静止電位・活動電位の発生機構</p> <p>第4回：シナプス伝達<伝達物質と受容体></p> <p>第5回：神経回路網と情報の流れ<視覚系>-1</p> <p>第6回：神経回路網と情報の流れ<報酬系と機能局在>-2</p> <p>第7回：「キレる脳」・「言葉をあやつる脳」</p> <p>第8回：脳と記憶（講義）／茂木健一郎の「脳科学」</p> <p>第9回：<精神病の仕組み> 精神病の仕組みに関わる神経伝達物質と受容体</p> <p>第10回：立花 隆「脳のサイボーグ」</p> <p>第11回：脳とホルモン <脳の発生学> <男と女の脳の違い></p> <p>第12回：前頭葉の働き／VTR「前頭葉のなぞ」</p> <p>第13回：認知症と脳の働き／「サバン」1</p> <p>第14回：まとめのレポート作り-1</p> <p>第15回：まとめのレポート作り-2</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	授業中に課題を課します。この課題を評価の対象とします。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
事前・ 事後学修	小テスト、リアクションペーパー作成等に参加して、内容の整理・理解に努めて下さい。また、授業の中で補足資料を配付したり、次回の授業で取り扱う資料を事前に配付したりしますので、事前・事後学修に活用して下さい。なお、この授業では小テストの勉強も含めて、事前学修に40分間程度、事後学修に1時間程度を費やします。
オフィス アワー	熊澤武志 (1716 研究室: takeshi-ku@seirei.ac.jp) 講義終了～18:00 まで質問を受け付けます。詳細は初回授業時に提示します。

科目名	生化学
科目責任者	青島 均
単位数他	1単位 (30時間) 必修 3セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「薬理学」に含まれる細胞の情報伝達系を分子・細胞レベルで扱う。また「生物学」に含まれる、核酸の分解と合成、その代謝異常、遺伝情報の複製、転写、翻訳および遺伝子工学と染色体異常や遺伝子疾患の入門的内容も扱う。疾病と関連させながら話すので、病態生化学の内容になる。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 細胞間、細胞内情報伝達系の基礎を説明できること 2. 核酸の代謝、複製・転写・翻訳、遺伝子病を理解し説明できること 3. 血液凝固系と関連する貧血・血栓症などの基礎を説明できること 4. 水および電解質代謝の基礎を説明できること
授業計画	<p>第1回：細胞間の情報伝達（シナプス、受容体）</p> <p>第2回：細胞内情報伝達の機構</p> <p>第3回：香りの科学（香り物質と機能性）</p> <p>第4回：核酸の合成と分解、プリン代謝異常（痛風）、細胞周期</p> <p>第5回：細胞死、DNAの複製、PCR、テロメアと細胞分裂</p> <p>第6回：DNAの修復、転写と翻訳</p> <p>第7回：遺伝子発現の調節、遺伝子操作</p> <p>第8回：遺伝子型、表現型、家系図、遺伝病</p> <p>第9回：染色体異常、遺伝子診断、遺伝子多型（SNP）</p> <p>第10回：がん遺伝子とがん抑制遺伝子、がん発症の機構、分子標的薬</p> <p>第11回：血液一般、血液凝固系とその制御</p> <p>第12回：出血性疾患と血栓症</p> <p>第13回：赤血球の分化、貧血</p> <p>第14回：体液・電解質代謝1（細胞外液、細胞内液、脱水）</p> <p>第15回：体液・電解質代謝2（金属イオン）</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 80%、レポート・課題提出 20%
課題に対する フィード バック	プリントを配布する。
指定図書	なし（プリントを配布する。）
事前・ 事後学修	プリントを読んでおくこと。演習問題を解き、不明なことは調べ質問すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	代謝・栄養
科目責任者	青島 均
単位数他	1単位 (30時間) 必修 2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	身体活動レベルに応じたエネルギー必要量の算定方法を学ぶ。三大栄養素（糖、脂質、タンパク質）の摂取割合を概観したのち、これらの消化吸収と代謝経路およびその調節系を学習する。代謝に関しては満腹時と空腹時および肝細胞と筋肉細胞の間での代謝の違いを理解する。生活習慣病と関連させながら、代謝異常症についても学習する。
到達目標	1. 日本人の食事摂取基準および身体活動に応じた消費エネルギーを説明できること 2. 三大栄養素（糖、脂質、タンパク質）の消化吸収・代謝の基礎を説明できること 3. ビタミンの作用と欠乏症について説明できること
授業計画	<p>第1回：異化と同化反応から成る代謝反応、食品の持つエネルギー</p> <p>第2回：基礎代謝とそれに影響する因子、日本人の食事摂取基準</p> <p>第3回：活動により消費されるエネルギー（メッツ、エクササイズ）</p> <p>第4回：日本人の食事摂取基準（糖、脂質、タンパク質の策定指標）</p> <p>第5回：嗜好品に含まれる生理活性物質とその作用</p> <p>第6回：糖の消化吸収、解糖系</p> <p>第7回：糖新生系、クエン酸回路、電子伝達系、ATPの生成機構</p> <p>第8回：ペントースリン酸回路、グリコーゲンの合成と分解、血糖値調節</p> <p>第9回：脂質の消化吸収、リポタンパク質代謝、脂質異常症</p> <p>第10回：トリグリセリドの代謝、ケトン体とケトアシドーシス、脂肪酸合成</p> <p>第11回：リン脂質の分解と合成、コレステロールの合成と排泄、ステロイドホルモン合成</p> <p>第12回：タンパク質の消化吸収、プロテアーゼの基質特異性、アミノ酸の異化と同化</p> <p>第13回：尿素サイクル、生理活性アミン、アミノ酸代謝異常症</p> <p>第14回：ビタミン欠乏症、水溶性ビタミン</p> <p>第15回：脂溶性ビタミン</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験 80%、レポート・課題提出 20%
課題に対する フィード バック	プリントを配布する。
指定図書	なし（プリントを配布する。）
事前・ 事後学修	プリントを讀んでおくこと。演習問題を解き、不明なことは調べ質問すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	微生物・感染
科目責任者	松尾 哲道
単位数他	1単位 (30時間) 必修 2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	感染症にかかった患者を看護する立場にある人々は感染症についての知識はもちろん、感染症の原因である病原微生物について十分な知識を持ち、これに基づいた適切な処置が必要である。また、感染症と深く関連性のある免疫学についての十分な知識も必要である。これらのことを学習目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の体系的な基礎知識とその特徴を学び、病原微生物と感染及び発病の概念が理解できるようにする。 2. 生体の種々の防御機構(特に免疫)を学び、病原微生物に対する適切な対応処置に関する知識を修得できるようにする。 3. 現在、問題になっている、院内感染、日和見感染について十分な知識を得る。
授業計画	<p>第1回：微生物・感染を学ぶ意義、微生物・感染の基礎知識、微生物の種類、感染と感染症の成り立ち、宿主と病原体の相互関係、日和見感染、菌交代症</p> <p>第2回：院内感染、滅菌と消毒、免疫学総論</p> <p>第3回：液性免疫と細胞性免疫、免疫担当細胞、Bリンパ球とTリンパ球、Tリンパ球の種類、主要組織適合性抗原（MHC）</p> <p>第4回：抗原侵入から抗体再生まで（プリント、ビデオ）、抗原、抗体、補体、免疫グロブリンの種類、リンホカイン</p> <p>第5回：免疫グロブリンの基本構造、抗原抗体反応、自己免疫疾患、細菌学総論</p> <p>第6回：ブドウ球菌、MRSA（メチリン耐性黄色ブドウ球菌）</p> <p>第7回：レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌、淋菌、髄膜炎菌、緑膿菌、セパシア、アシネトバクター、レジオネラ菌、コクシエラ、ブルセラ菌、野兔病菌、百日咳菌</p> <p>第8回：大腸菌、赤痢菌、サルモネラ、ペスト菌、セラチア、コレラ菌、腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、軟性下痢菌、カンピロバクター、ヘリコバクター、炭疽菌、リステリア</p> <p>第9回：ジフテリア菌、結核菌、非結核性抗酸菌、らい菌、放射菌、破傷風菌</p> <p>第10回：ボツリヌス菌、ガス壊疽菌群、ウエルシュ菌、ディフィシル菌、梅毒トレポネーマ、ボレリア、レプトスピラ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、ウイルス学総論</p> <p>第11回：単純ヘルペスウイルス1型、2型、水痘-帯状疱疹ウイルス、EBウイルス、サイトメガロウイルス、Bウイルス、アデノウイルス、ヒトパピローマウイルス、ヒトパルボウイルス、インフルエンザウイルス</p> <p>第12回：ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RSウイルス、狂犬病ウイルス、マールブルグウイルス、エボラウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス70、ライノウイルス、ロタウイルス、風疹ウイルス</p> <p>第13回：黄熱ウイルス、デングウイルス、日本脳炎ウイルス、ウエストナイルウイルス、SARSウイルス、MERSコロナウイルス、ノロウイルス、ハンタウイルス、ラッサウイルス</p> <p>第14回：レトロウイルス総論、ヒトTリンパ球性ウイルス1、ヒト免疫不全ウイルス</p> <p>第15回：肝炎ウイルス（A型、B型、C型、D型、E型）</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	筆記試験（免疫学、細菌学、ウイルス学）100%（定期試験）
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	『系統看護学講座 疾病のなりたちと回復の促進 [3] 微生物学』天児和暢、南嶋洋一著、医学書院
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	病理・病態	
科目責任者	大月 寛郎	
単位数他	1単位 (30時間) 必修 3セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	<p>病理学とは病気の原因や病変の成り立ち、その経過など疾病の本質について学んでいく分野である。「すりむいた傷が自然に治ってしまった」といった日常よくある現象は、病理学では「組織修復と再生」で説明することができ、臨床の現場でしばしば遭遇する「褥瘡」については、病理学で学ぶ皮膚の「循環障害」が基本的な原因となっている。脳卒中や心筋梗塞も脳、心臓の「循環障害」である。また、現在死亡原因の第1位である「がん」に関しては、病理学ではその発生原因、その後の経過について多くの研究がなされている。このように病理学では、病理学総論の「細胞障害と細胞増殖」「組織、細胞の修復と再生」「循環障害」「炎症」「腫瘍」「代謝異常」「遺伝と先天異常」を通じて、多くの疾患の発生機序や経過などを理解することができる。また、実際に病院で行なわれている病理診断、病理解剖についても紹介したい。講義資料を配布し、質問しながら講義を進める。授業中の講義はパワーポイントで作成したスライドを用いて行う。</p>	
到達目標	多くの疾患についての病理・病態を理解する。	
授業計画	<p>第1回：病理学とは何か？ 細胞障害と細胞増殖 <第1, 2章参照></p> <p>第2回：組織細胞の修復と再生（再生，化生，創傷治癒，異物の処理について） <第3章参照></p> <p>第3回：循環障害1（循環障害って何？心臓の循環障害） <第4, 12章参照></p> <p>第4回：循環障害2（高血圧症と動脈硬化症，脳の循環障害） <第4, 12章及び、第22章の脳血管障害の項目参照></p> <p>第5回：炎症1（炎症とは？ 急性炎症と慢性炎症） <第5章参照></p> <p>第6回：炎症2（様々な臓器における炎症） <第5章及び、第13, 14章の炎症の項目参照></p> <p>第7回：腫瘍1（腫瘍の形態，癌の発育と転移，良性腫瘍と悪性腫瘍，腫瘍の分化度） <第8章参照></p> <p>第8回：腫瘍2（細胞増殖、腫瘍発生の要因と癌遺伝子について） <第2, 8章参照></p> <p>第9回：老化と再生（老化と遺伝子、遺伝子修復、組織・細胞の再生について） <第2, 3章参照></p> <p>第10回：腫瘍3（癌の疫学、摘出された様々な腫瘍） <第8章参照></p> <p>第11回：骨（骨の吸収と形成，骨折の治癒，筋肉の萎縮と炎症，骨・軟部腫瘍） <第19章参照></p> <p>第12回：遺伝と先天異常（遺伝病、染色体異常症、遺伝子診断法について） <第9章参照></p> <p>第13回：代謝異常1（タンパク質・脂肪・糖質代謝異常の実際） <第10章参照></p> <p>第14回：代謝障害2（タンパク質・脂質・糖質の代謝異常のメカニズム） <第10章参照></p> <p>第15回：病理組織細胞診断（病理組織診断，細胞診断，病理解剖の実際） <第23章参照></p>	<p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>大月寛郎</p> <p>大月寛郎</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>岩下雄二</p> <p>華表友暁</p> <p>安見和彦</p> <p>安見和彦</p> <p>華表友暁</p> <p>安見和彦</p> <p>岩下雄二</p> <p>大月寛郎</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験（100%）にて評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	シンプル病理学 南江堂
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	健康障害論 I
科目責任者	岡 俊明
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	健康障害によっておこる疾患には、全身的にあるいは臓器や器官別にさまざまな種類がある。「健康障害論 I」では、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「健康障害論 I」では、①循環器系、②呼吸器系、③腎・泌尿器系の代表的な疾患、および④手術療法における麻酔法についても学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患の治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	<p>1. 呼吸器系の疾患 (三木良浩 5回) 呼吸器系の代表的な疾患と治療・予防および看護について講義する。 1-2) 基礎知識 (構造と生理・症状と病態生理・検査と治療・処置) 肺の構造と生理機能について復習しておいて下さい。 咳や痰など重要な呼吸器症状について教科書を予習しておいてください。</p> <p>3) 疾患の理解 I 感染症 (肺炎、抗酸菌感染を中心に) 4) 疾患の理解 II 気道疾患 (喘息、COPD を中心に)、間質性肺疾患 5) 疾患の理解 III 肺がん—終末期患者の看護を含めて</p> <p>2. 循環器系の疾患 (岡俊明 4回) 1) 循環器系の解剖、生理、血液循環のしくみ。 ①血液の役割 (白血球、赤血球、血小板) ②心臓の解剖 (心室、心房、肺動脈、大動脈心臓弁) ③心臓のポンプ作用 ④全身の血液循環、動脈と静脈の役割 2) 血圧の異常 (高血圧)、心不全と病態の検査・治療 ①高血圧の病態 ②心不全の病態 ③心不全の症状 ④心不全に対する検査・治療 3) 心臓弁膜症、不整脈 ①僧帽弁膜症 ②大動脈弁膜症 ③心電図の読み方 ④不整脈 4) 虚血性心疾患、先天性心疾患 ①狭心症と急性心筋梗塞 ②心臓カテーテル検査・カテーテル治療 ③先天性心疾患</p> <p>3. 腎・泌尿器系の疾患 (三崎太郎 4回) 科目概要：臨床の場において、腎泌尿器系疾患を理解し、患者への適切な看護を提供するために、基礎知識を習得することを目的とする。 目標 1. 生体活動における腎泌尿器系の重要性を説明できる。 2. 腎泌尿器の働きが損なわれた場合、生じる障害の内容と程度を説明できる。 3. 主な腎泌尿器疾患に対する検査、診断、治療法、予後、看護の要点を説明できる。 授業内容：第 1 回/ 看護を学ぶにあたって (テキスト第 1 章) 腎泌尿器系の構造と機能 (第 2 章) / 症状と病態生理 (第 3 章) 第 2 回/ 腎泌尿器疾患の検査と治療 (第 4 章) 第 3 回/ 腎泌尿器疾患の理解 (第 5 章) 第 4 回/ 腎泌尿器疾患の看護 (第 6 章)</p> <p>4. 手術と麻酔 (小久保荘太郎 2回) 【生命維持における酸素運搬の重要性とその測定法】 a) 酸素欠乏は瞬時に危機的→呼吸、循環そして局所へ b) 酸素運搬状況とバイタルサイン 呼吸数、血圧、脈拍、皮膚の色、体温そして意識状況 c) バイタルサインの測り方 (vital: vita=命の意味のラテン語) と意味 【痛覚と麻酔】 a) 痛覚の意味と科学的基礎 b) 痛覚の除去方法 【麻酔方法と臨床応用】 a) 侵襲的医療 (手術、検査など) には麻酔が必要 b) 麻酔法の分類とその臨床応用 (1) 局所麻酔 (2) 区域麻酔 (伝達麻酔、脊髄くも膜下麻酔、硬膜外麻酔) (3) 全身麻酔 c) 麻酔の注意点と合併症 d) 麻酔中の観察ポイント</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	浅野浩一郎他：『成人看護学2 『呼吸器』：医学書院（三木）、阿部光樹他：『成人看護学3 循環器』：医学書院（岡）、飯野京子他：『成人看護学4 血液・造血器』：医学書院（岡）、阿部信一他：『成人看護学8 腎・泌尿器』：医学書院（三崎）、青木照明他：『別巻1 臨床外科看護総論』：医学書院（小久保）
事前・ 事後学修	（三木）指定図書の各章の最後のページにある「ゼミナール（復習と課題）」を事前・事後に行う。 （三崎）1年次に履修した生理学Ⅰ・Ⅱ、解剖学Ⅰ・Ⅱは、本科目の前提となるので十分に復習して臨むこと。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	健康障害論Ⅱ
科目責任者	森 諭史
単位数他	1単位 (30時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	「健康障害論Ⅱ」は「健康障害論Ⅰ」に引き続き、健康の保持・増進、疾病の予防、疾病時における看護援助の必要性を理解するために、臓器・器官系統別に病態生理、診断、治療、予防について学習する。「健康障害論Ⅱ」では、①内分泌・代謝系、②消化器系、③骨・筋・運動器系、④脳・神経系の代表的な疾患を取り上げて学習する。
到達目標	1. 疾患の病態生理を説明できる。 2. 疾患に特有な症状について説明できる。 3. 疾患の診断、治療に必要な検査について説明できる。 4. 疾患に対する治療について説明できる。 5. 健康障害の予防について説明できる。
授業計画	<p>代表的な疾患と治療・予防</p> <ol style="list-style-type: none"> 内分泌・代謝系 (田港朝彦 2回) <ul style="list-style-type: none"> ①糖尿病 ②総論と各内分泌臓器 消化器系 (細田佳佐 2回) <ul style="list-style-type: none"> 消化器系の構造と機能・消化器疾患の診断と治療 ①消化管 ②肝胆膵 骨関節・筋肉・運動器系の疾患 (森諭史 8回) <ul style="list-style-type: none"> 運動器の病態生理を理解し、疾患に特有な症状、診断、治療について説明できることを目標とする。 第1回：運動器総論・構造と機能 第2回：運動器の病態生理 第3回：運動器疾患 外傷の診断と治療 (総論) 第4回：外傷 診断と治療 (各論) 第5回：下肢関節 診断と治療 (各論) 第6回：上肢関節 診断と治療 (各論) 第7回：脊椎 診断と治療 (各論) 第8回：代謝性骨疾患 診断と治療 (各論) 脳・神経系の疾患 (大橋寿彦 4回) <ul style="list-style-type: none"> 第1回：神経内科総論、脳血管障害 第2回：神経変性疾患 (アルツハイマー病、パーキンソン病、脊髄小脳変性症など) 第3回：その他の脳・脊髄疾患 (感染、脱髄、代謝性など) 第4回：末梢神経疾患、神経筋接合部の疾患、筋疾患 <p>神経疾患の理解を深めるとともに、障害を持つ方々と共に生きる姿勢を身につけて下さるきっかけになることを希望しています。</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 100%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	河合伸子他『成人看護学 6 内分泌・代謝』医学書院（田港） 金田智他『成人看護学 5 消化器』医学書院（細田） 『系統看護学講座 運動器 専門分野Ⅱ 成人看護学[10]』医学書院（森） 竹村信彦他 『成人看護学 7 脳・神経』医学書院（大橋）
事前・ 事後学修	（森）指定図書を授業に持参すること。各章末のゼミナール（復習と課題）設問を予習して授業にのぞむこと。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	薬理・薬剤	
科目責任者	塩川 満	
単位数他	1単位 (30時間) 必修 4セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	薬物治療の多くは、身体が正常なときの生理学的調整メカニズム、または病気の際の調節メカニズムのどこかに、薬物が介入して調節する形で行われる。本講では、薬物の生体に対する作用とその機構を人間の発達段階の特徴と疾患から理解する。また、人々の心身の治療のために行われる薬物療法について学び、医療専門職に求められる薬物療法の基礎的知識・技術・態度について学習する。	
到達目標	1. 主要な薬剤の作用機序と代表的な副作用を理解する。	
授業計画	<p>指定図書項目に従って下記のように授業を行います。</p> <p>第1回：1. 医薬品概論（医薬品とは、薬理作用と原理、体内動態など） 塩川 満</p> <p>第2回：1. 医薬品概論（副作用、相互作用、添付文書の読み方など） 塩川 満</p> <p>第3回：2. 主な生活習慣病に使用する薬 （生活習慣病、高血圧、狭心症、心筋梗塞、不整脈） 川村和美</p> <p>第4回：2. 主な生活習慣病に使用する薬 （心不全、脂質異常症、糖尿病、脳血管障害） 川村和美</p> <p>第5回：3. がん・痛みに使用する薬 塩川 満</p> <p>第6回：4. 脳・中枢神経系疾患に使用する薬（中枢神経系の働きと薬など） 川村和美</p> <p>第7回：4. 脳・中枢神経系疾患に使用する薬 （向精神病薬、アルツハイマー型痴呆症治療薬など） 川村和美</p> <p>第8回：5. 感染症に使用する薬 川村和美</p> <p>第9回：6. 救命救急時に使用する薬 塩川 満</p> <p>第10回：7. アレルギー、免疫不全状態の患者に使用する薬 川村和美</p> <p>第11回：8. 消化器系疾患に使用する薬 川村和美</p> <p>第12回：8. 消化器系疾患に使用する薬 川村和美</p> <p>第13回：9. その他の症状に使用する薬 川村和美</p> <p>第14回：9. その他の症状に使用する薬 川村和美</p> <p>第15回：テスト対策 川村和美</p>	

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	定期試験 90%、授業態度 10%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	疾病の成り立ち—臨床薬理学（ナーシング・グラフィカ） 古川 裕之（編集）、林正 健二（編集）、赤瀬 智子（編集）、メディカ出版, 2016, 1, 15 第4版
事前・ 事後学修	予習・復習をすること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	臨床栄養
科目責任者	原 梓
単位数他	1単位 (15時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	<p>臨床における栄養マネジメントは多種多様であり、個々人に適した栄養を考え、患者様の最も望む栄養マネジメントを模索し、オーダーメイドの栄養を提供することが求められている。</p> <p>そのためにチーム医療の臨床栄養サポートチーム (NST) が確立され、看護師の担う役割は大変大きい。</p> <p>本科目では分子栄養学と栄養マネジメントを実践するための知識を習得し、NST の一員として質の高いサポートが出来るスキルを身につけることを目的とする。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 分子栄養学・病態栄養を学び、疾病予防・治療・アフターケアについて理解する 2. 栄養マネジメントを学び、NST について理解する 3. 調理実習・食事介助等を体験し、患者様やご家族の立場を理解する
授業計画	<p>第 1 回：基礎栄養学、食品学</p> <p>第 2 回：栄養マネージメント、NST</p> <p>第 3 回：栄養療法の基礎</p> <p>第 4 回：静脈栄養法と経腸栄養法</p> <p>第 5 回：病態栄養①</p> <p>第 6 回：病態栄養②</p> <p>第 7 回：実習：特殊食品と栄養補助食品の試食、えんげ食の調理</p> <p>第 8 回：実習：特殊食品と栄養補助食品の試食、えんげ食の調理、まとめ</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	授業態度 20%、小テスト 30%、レポート 50%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	日本静脈経腸栄養学会編集 『日本静脈経腸栄養学会 静脈経腸栄養テキストブック』南光堂
事前・ 事後学修	「解剖学・生理学・生化学」について事前学習を行い、授業後は当日学習した内容をテキスト・ 当日配布した資料にて事後学習を行っていく。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	身体活動の科学
科目責任者	安田 智洋
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。
科目概要	健康な人生を過ごすための生活処方を身体活動 (運動・スポーツ)、栄養 (食事)、休養を総合的に学習し、特に身体活動による健康づくりを中心に健康寿命の延伸を考える。
到達目標	1. 専門基礎科目の学修を通して、看護学の基礎となる知識を修得できる。 2. 運動・栄養・休養を学習し、自分自身と周りの人の健康に関心をもつ。 3. 学習した科学知見を単なる知識として留めるのではなく、日常生活での実践につなげる。
授業計画	<p>第 1 回：ガイダンス</p> <p>第 2 回：健康と健康増進の概念 (国民健康づくり施策、健康日本 21)</p> <p>第 3 回：栄養摂取と運動 (健康と栄養、運動時のエネルギー源)</p> <p>第 4 回：肥満と痩せ (体脂肪の役割、肥満の原因、体脂肪率、BMI)</p> <p>第 5 回：ダイエットとリバウンド (痩せの問題、リバウンド現象)</p> <p>第 6 回：安静時代謝・METS (安静時代謝や運動の消費カロリー)</p> <p>第 7 回：微小重力・長期臥床 (特殊環境下での身体変化)</p> <p>第 8 回：加齢と体脂肪・筋・有酸素能 (加齢に伴う体脂肪や身体機能の変化)</p> <p>第 9 回：骨密度と生活習慣 (骨粗鬆症の危険因子や予防対策)</p> <p>第 10 回：筋機能 (ちからの決定因子やエリート選手と一般人との違い)</p> <p>第 11 回：有酸素能力 (エネルギー供給システムや能力の決定因子、男女の違い)</p> <p>第 12 回：筋肉痛と運動 (筋肉痛の原因、トレーニング効果、予防法)</p> <p>第 13 回：筋力トレーニング (適切な筋力トレーニングの条件や筋肥大のメカニズム)</p> <p>第 14 回：有酸素トレーニング (有酸素能力と生活習慣病、有酸素トレーニングの条件)</p> <p>第 15 回：生涯スポーツの理念 ・ まとめ</p>

アクティブ ラーニング	PBL、moodle の活用
評価方法	まとめ 50%、授業内小テスト 30%、授業態度 20%
課題に対する フィード バック	小テストの解説、リアクションペーパーへのコメント
指定図書	なし。
事前・ 事後学修	授業前には各テーマの内容を予習する（約 40 分）。授業後は新たに得た内容を確認し、自分で 関連事項を調べて理解を深める（約 40 分）。
オフィス アワー	<ul style="list-style-type: none"> ・【科目責任者】安田智洋 （看護学部、1206 研究室、tomohiro-y@seirei.ac.jp、火曜・金曜 13:00～18:00） ・必要な専門知識を幅広く身につけることが目的であるが、覚えるだけではなく、日々の健康 増進で活かすように心がける。 ・履修者は 80 名を上限とする。 ・授業には毎回筆記用具とノートを準備すること。 ・授業中、態度不良（私語、携帯電話の使用など）の学生には退室を促すことがある。

科目名	看護学原論
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 1 セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。
科目概要	「看護とは何か」「看護職者は何をするのか」「看護学とはどのような学問なのか」などの原理を探究し、看護の本質的な理解を深め、看護学の発展を担う創造性豊かな看護職者としての基礎を培う。これ以後に展開される看護学全体の学びの動機づけを図る。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護・看護学の独自性を理解する。 2. 看護の歴史の変遷を理解する。 3. 看護の対象とはいかなる人々をいうのかを理解する。 4. 看護技術の特性を理解する。 5. 看護における法と倫理に関する基礎知識を理解する。 6. 医療安全の重要性を理解する。 7. 看護実践におけるクリティカルシンキングの意義を理解する。 8. 看護過程の各構成要素について理解する 9. チーム医療の目的・意義を検討し、看護職の役割を理解する。 10. 看護職が専門職であることを理解する。 11. 看護・看護学における専門性の進化・拡大を理解する。 12. 「看護とは何か」に関する自己の考えを表現する。
授業計画	<p>【看護とは】</p> <p>第 1 回：看護の本質</p> <p>第 2 回：看護の歴史</p> <p>第 3 回： 変化している看護、地域基盤の看護と看護の継続性</p> <p>【看護の対象となる個人・家族・地域の理解】</p> <p>第 4 回： 統合体としての人間、生活者としての人間、健康とウェルネス</p> <p>第 5 回： 家族とその機能、地域と健康、国際社会と健康</p> <p>【看護実践の基盤】</p> <p>第 6 回： 看護実践における技術</p> <p>第 7 回： 看護実践と倫理</p> <p>第 8 回： 看護と法</p> <p>第 9 回： 医療安全</p> <p>【看護の展開】</p> <p>第 10 回： 看護実践とクリティカルシンキング、看護過程(1)</p> <p>第 11 回： 看護過程(2)、報告・記録</p> <p>【チーム医療と看護】</p> <p>第 12 回： チーム医療とは、保健・医療・福祉における看護、多職種の連携・協働と看護職の役割</p> <p>【専門性の探求】</p> <p>第 13 回： 専門性への道程、看護の専門職性、専門領域の確立と展望</p> <p>【看護・看護学の展望】</p> <p>第 14 回： 看護における実践・研究・理論、看護実践と研究、看護実践と理論、看護・看護学の展望と課題</p> <p>第 15 回： フォーラム「看護とは何か」</p>

アクティブ ラーニング	グループワーク：授業中に 30 分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
評価方法	授業への取り組み 30%、課題レポート 20%、定期試験 50%
課題に対する フィード バック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 看護学テキスト NiCE 看護学原論(改定第 2 版)、南江堂、2017 2. 手島恵監修：看護者の基本的責務 定義・概念／基本法／倫理
事前・ 事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オフィス アワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の 12:00 から 12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp

科目名	看護コミュニケーション論
科目責任者	水野 美香
単位数他	1単位 (30時間) 必修 1セメスター
科目の位置付	(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	看護コミュニケーション論の学修は、【看護の専門家としての対人関係を築くために必要なコミュニケーション技法】【看護の対象を生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法】から構成される。 これらのコミュニケーション技法を学修することで、患者中心の看護に必要な解釈モデルを聴くことの重要性を理解し、学生間のロールプレイや模擬患者とのセッションを通して、看護師に求められる態度を形成する。
到達目標	1. 看護の専門家に求められるコミュニケーション技法について説明できる。 2. 看護の対象を生物心理社会モデルでとらえることができる面接技法について説明できる。 3. 看護の専門家に求められる態度を形成する。
授業計画	<p>第1回：コミュニケーションとは</p> <p>第2回：看護におけるコミュニケーション</p> <p>第3回：良好なコミュニケーションに必要な技法 (1) 質問技法</p> <p>第4回：良好なコミュニケーションに必要な技法 (2) 関係構築の技法</p> <p>第5回：コミュニケーション技法演習</p> <p>第6回：看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法 (1) 患者中心の看護に必要な面接技法</p> <p>第7回：看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法 (2) 患者中心の面接と医療者中心の面接</p> <p>第8回：看護の対象を生物心理社会モデルでとらえるための面接技法 (3) 統合された面接技法</p> <p>第9・10回：看護コミュニケーション技法の実際 ①模擬患者とのセッション</p> <p>第11回：看護コミュニケーション技法の振り返り</p> <p>第12・13回：看護コミュニケーション技法の実際 ②模擬患者とのセッション</p> <p>第14回：生物心理社会領域への看護介入と看護コミュニケーション</p> <p>第15回：良好な患者-看護師関係を構築するための看護コミュニケーション</p> <p>*第9回・10回・12回・13回のみ、水野美香、新實夕香理、檜原理恵、炭谷正太郎、佐久間佐織、柴田めぐみ</p>

アクティブ ラーニング	毎回授業終了時に提出するリアクションペーパーを用いて授業内容で重要だと考えた点、疑問に思った点を確認し、次回授業時にフィードバックします。ロールプレイと模擬患者とのセッションを行い、看護コミュニケーション技法の活用を経験します。
評価方法	授業への取り組み 25% (模擬患者参加型演習への取り組み、小テストなど)、課題レポート 25%、筆記試験 50%、計 100%
課題に対する フィード バック	課題レポートに対する全体へのフィードバックを授業中に行います。
指定図書	篠崎恵美子・藤井徹也：看護コミュニケーション 基礎から学ぶスキルとトレーニング、医学書院、2016.
事前・ 事後学修	事前にテキストの該当箇所を熟読して授業に臨んでください (20 分程度)。事後学修として、各章の確認テストによる復習 (20 分程度) と、日常生活の中で意識的に看護コミュニケーション技法を活用することを通してスキルトレーニングをしましょう。模擬患者とのセッションでは録画した映像を見て振り返ることができます。
オフィス アワー	水野美香：看護学部、1306 研究室 (時間については初回授業時に提示します) メールアドレス mika-m@seirei.ac.jp

科目名	基礎看護技術論 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 2 セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	看護活動は、人間に対する深い理解と科学的な思考、熟達した看護技術が一体となって実践されます。本科目では、さまざまな健康の段階、発達段階にある人々の看護の基盤になる生活行動に関わる援助方法について、基礎的な知識を修得することを目的とします。本科目は、基礎看護技術演習 I、基礎看護学実習 I と並行して開講しており、看護の専門的知識と技術を統合し、状況に合わせた課題を解決する実践力につなげることを目指します。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本的な技術について理解する 2. 生活行動を援助するための基本的な看護技術について理解する 3. 看護技術の原理・原則、根拠を理解する 4. 能動的な学修態度を身に着ける
授業計画	<p>第 1 回 : 科目ガイダンス 佐久間 佐織 看護技術の位置づけと概要</p> <p>第 2 回 : 看護過程における看護技術 佐久間 佐織</p> <p>第 3 回 : 感染予防の技術 檜原 理恵</p> <p>第 4・5 回 : 療養環境調整の技術 佐久間 佐織</p> <p>第 6・7 回 : バイタルサインの観察 佐久間 佐織</p> <p>第 8・9 回 : 活動・休息の援助技術 佐久間 佐織</p> <p>第 10・11 回 : 清潔・衣生活の援助技術 佐久間 佐織</p> <p>第 12・13 回 : 食事の援助技術 佐久間 佐織</p> <p>第 14・15 回 : 排泄の援助技術 水野 美香</p> <p>授業は、基礎看護技術演習 I と並行して進行します。 授業計画は、科目ガイダンスで詳しく説明します。</p>

アクティブ ラーニング	<p>*moodle の事前課題をもとに授業を進行します。</p> <p>ミニテストの解説を授業内で行います。</p> <p>事前に提示された課題について、授業内でグループディスカッションを行います。</p> <p>*リアクションカードの質問に対して moodle で回答します。</p>
評価方法	<p>定期試験 90%</p> <p>課題提出物 10%</p>
課題に対する フィード バック	<p>*事前課題のミニテストについては、授業で解説をします。</p> <p>*ディスカッション課題については、授業内でグループディスカッションを実施し、内容をまとめます。</p>
指定図書	<p>茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術 I， 医学書院， 2015.</p> <p>任和子他：系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術 II， 医学書院， 2017.</p> <p>(参考図書は授業内で随時提示します)</p>
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>*单元ごとに moodle で課題（ミニテスト、ディスカッション課題）を掲示します。</p> <p>ミニテストは、テキストの該当箇所を読み、実施してください。</p> <p>ディスカッション課題は、課題に対する自分の意見を記述します。</p> <p>*テキスト、ナーシングスキル (https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン) の動画視聴</p> <p>【事後学修】</p> <p>授業内容、テキストの振り返りをします。提出課題はありません。</p>
オフィス アワー	<p>佐久間佐織：看護学部， 1618 研究室 （時間については初回授業時に提示します）</p> <p>連絡先 saori-s@seirei.ac.jp</p>

科目名	基礎看護技術演習 I
科目責任者	佐久間 佐織
単位数他	2単位 (60 時間) 必修 2 セメスター
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	看護活動は、人間に対する深い理解と科学的な思考、熟達した看護技術が一体となって実践されます。本科目では、さまざまな健康の段階、発達段階にある人々の看護の基盤になる生活行動に関わる援助方法について、基礎的な技術・態度を修得することを目的とします。本科目は、基礎看護技術論 I、基礎看護学実習 I と並行して開講しており、看護の専門的知識と技術を統合し、状況に合わせた課題を解決する実践力につなげることを目指します。
到達目標	看護場面に共通する安全・安楽を守るための基本的な技術を修得する 生活行動を援助するための基本的な看護技術を修得する ロールプレイングを通して、生活行動に援助が必要な対象の気持ちを考える 実施した看護技術についてグループで意見交換し、安全、安楽の視点で評価する 看護職者としてふさわしい態度を身につける
授業計画	<p><担当教員名> 佐久間佐織、新實夕香理、樫原理恵、炭谷正太郎、水野美香、柴田めぐみ 他</p> <p>第 1 回 : 科目ガイダンス 実習室オリエンテーション、ボディメカニクス</p> <p>第 2・3 回 : 感染予防の技術 — 衛生的手洗い、個人防護具 (PPE) 着脱 —</p> <p>第 4~7 回 : 療養環境調整の技術 — ベッドメイキング、臥床患者のシーツ交換 —</p> <p>第 8~10 回 : バイタルサインの観察 — 体温・脈拍・呼吸・血圧測定 —</p> <p>第 11~14 回 : 活動・休息の援助技術 — 車いす・ストレッチャーの移乗・移送、 体位変換、体位保持 —</p> <p>第 15~22 回 : 清潔・衣生活の援助技術 — 全身清拭、寝衣交換、足浴、洗髪 —</p> <p>第 23 回 : 中間まとめ</p> <p>第 24・25 回 : 食事の援助技術 — 食事介助、口腔ケア —</p> <p>第 26~29 回 : 排泄の援助技術 — 床上排泄、おむつ交換、陰部洗浄 —</p> <p>第 30 回 : まとめ</p> <p>授業は、基礎看護技術論 I と並行して進行します。 授業計画は、科目ガイダンスで詳しく説明します。</p>

アクティブ ラーニング	<p>演習は、演習計画書、演習ノートに沿って進めます。教員デモンストレーション後、患者役、看護師役、観察者役を交代で実施するため、授業前に演習計画書で内容、準備物品などを確認し、演習ノートを完成させてください。</p> <p>ロールプレイングで看護師役、患者役、観察者役を経験し、実施後にグループで学びをフィードバックします。</p>
評価方法	<p>実技試験 60% （実技試験の合格は、単位認定の必須条件です）</p> <p>事前課題、授業への取り組み、態度 20%</p> <p>事後課題、課題レポート 20%</p>
課題に対する フィード バック	<p>事前課題については、授業で内容を確認し、質問や疑問に対応します。</p> <p>事後課題は、内容、提出状況を評価します。</p>
指定図書	<p>茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学2 基礎看護技術Ⅰ， 医学書院， 2015.</p> <p>任和子他：系統看護学講座 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ， 医学書院， 2017.</p> <p>（参考図書は授業内で随時提示します）</p>
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <p>演習計画書の熟読、演習ノートの作成</p> <p>ナーシングスキルの動画視聴（ナーシングスキル：https://nursingskills.jp エルゼビアジャパン）</p> <p>【事後学修】</p> <p>演習の振り返り（ moodle で提出）</p> <p>*技術の習得には、授業時間外でのセルフトレーニングが必要です。</p>
オフィス アワー	<p>佐久間佐織：看護学部、1618 研究室 （時間については初回授業時に提示します）</p> <p>連絡先 saori-s@seirei.ac.jp</p>

科目名	基礎看護技術論Ⅱ
科目責任者	新實 夕香理
単位数他	1単位(30時間) 必須 3セメスター
科目の位置付	(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	本授業では、1年次の基本看護技術Ⅰで獲得した看護場面に共通する技術、日常生活援助技術を活用しつつ、診療に伴う援助を実施する上で必要な専門的知識について学修します。対象の安全・安楽を重視し、根拠に基づいた援助のあり方について説明します。 基礎看護技術演習Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱと並行して開講しているため、実習体験を通じての専門知識と専門技術の統合を目指しています。
到達目標	1. 診療に伴う援助に関する基礎知識を理解する。 2. 診療に伴う援助を安全・安楽に実施するための基本技術を理解する。 3. 診療に伴う援助を実施するための根拠・原理を理解する。 4. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を身につける。 5. 診療に伴う援助のあり方について、広い視野から検討し、考察する。
授業計画	第1・2回：無菌操作－無菌操作に必要な基礎知識 第3回：排泄困難への援助①－導尿法に必要な基礎知識 第4回：排泄困難への援助②－浣腸法に必要な基礎知識 第5・6回：検査・検体採取の援助－検査・検体採取（採血を含む）の援助に必要な基礎知識 第7回：与薬①－経口与薬、吸入、点眼、経皮的与薬、直腸内与薬に必要な基礎知識 第8回：与薬②－点滴静脈内注射に必要な基礎知識 第9回：与薬③－筋肉注射に必要な基礎知識 第10回：安楽な呼吸への援助①－酸素吸入に必要な基礎知識 第11回：安楽な呼吸への援助②－吸引に必要な基礎知識 第12・13回：栄養管理－栄養管理に必要な基礎知識 第14回：創傷ケア－創傷および褥瘡ケアに必要な基礎知識 第15回：電法－冷電法および温電法に必要な基礎知識

アクティブ ラーニング	復習テスト、過去の看護師国家試験問題の提示
評価方法	定期試験 80%、小テスト 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	復習テストの解説、小テストの解答例の提示
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2016. 任和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2015.
事前・ 事後学修	1. 授業内容に関連した教科書の章や動画を事前に 40 分程度かけて学修してから出席してください。 2. 小テストや定期試験は、講義や基礎看護学演習 II で説明した重要事項について出題するため、事後学修として 40 分程度かけて整理しておいてください。
オフィス アワー	看護学部、1 号館 6 階 1614 研究室、随時 不在の場合は、メール (yukari-ni@seirei.ac.jp) にて問い合わせてください。

科目名	基礎看護技術演習Ⅱ
科目責任者	新實 夕香理
単位数他	1単位(30時間) 必須 3セメスター
科目の位置付	(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	本授業では、1年次の基本看護技術Ⅰで獲得した看護場面に共通する技術、日常生活援助技術を活用しつつ、診療に伴う援助を実施する上で必要な専門的知識について学修し、さらに技術を習得できるよう演習を行います。患者・看護師のロールプレイングを通して、人間の尊厳を敬い、援助的対人関係を理解するとともに、患者・看護師双方の安全・安楽を考慮した援助方法を修得できるよう支援します。また、その根拠や原理について考えられるよう教授します。基礎看護技術論Ⅱおよび基礎看護学実習Ⅱと並行して開講しているため、実習体験を通じての専門知識と専門技術の統合を目指しています。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 診療に伴う援助に関する基礎知識を説明する。 2. 診療に伴う援助を安全・安楽に実施するための基本技術を修得する。 3. 診療に伴う援助を実施するための根拠・原理を理解した上で、実践する。 4. 看護技術の実践を通して人間の尊厳について理解する。 5. 看護専門職者としての基本的姿勢と態度、および主体的・探求的な学修態度を実践する。 6. 看護技術実践中のグループ議論を通じて、より良い看護技術の提供について考察する。
授業計画	<p>第1回：無菌操作—無菌操作の実際</p> <p>第2・3回：排泄困難への援助①—導尿法の実際</p> <p>第4・5回：排泄困難への援助②—浣腸法の実際</p> <p>第6・7・8回：検査・検体採取の援助—静脈血採血の実際</p> <p>第9・10回：与薬①—点滴静脈内注射の実際</p> <p>第11・12回：与薬②—筋肉注射の実際</p> <p>第13・14・15回：安楽な呼吸への援助—酸素吸入・口腔内吸引の実際</p> <p><担当教員名> 新實夕香理、櫻原理恵、炭谷正太郎、水野美香、佐久間佐織、柴田めぐみ</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。
評価方法	技術試験 70%、課題提出物（レポート） 30%、計 100%
課題に対する フィード バック	演習のまとめの際の担当教員からのコメント。 レポートの返却およびレポートへのコメント。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I、医学書院、2016. 任和子他：系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II、医学書院、2015.
事前・ 事後学修	<ol style="list-style-type: none"> 1. 演習の詳細については別途資料を配布します。各演習開始前に学修内容に関する資料と教科書の関連する章をよく読んでから出席してください。 2. 事前学修課題の実施（40 分程度必要）、評価表の評価項目内容の把握、演習技術の動画視聴をして演習に臨むようにしてください。 3. 看護技術の修得には繰り返し実施することが必要です。学修計画を立て、セルフトレーニングをしてください。
オフィス アワー	看護学部、1 号館 6 階 1614 研究室、随時 不在の場合は、メール（yukari-ni@seirei.ac.jp）にて問い合わせてください。

科目名	フィジカルアセスメント
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1単位 (30時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	フィジカルアセスメントは、身体上の問題を明らかにするため系統別に査定することである。この科目では、看護におけるヘルスアセスメントの一つのアセスメントツールとして、フィジカルアセスメントを位置付け、既修した専門基礎科目の知識を活用し身体上の系統別に査定するために必要な知識・技術を習得する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. フィジカルイグザミネーションに必要な技術を理解する。 2. 系統別フィジカルアセスメントに必要な技術、正常・異常所見について理解できる。 3. 対象者（事例）の生活行動における問題点をフィジカルアセスメントの知識を用いて議論し、考察することができる。
授業計画	<p>第1回 講義：本科目の授業の趣旨と目的、問診・インタビュー</p> <p>第2回 講義：フィジカルイグザミネーションに活用可能な感覚器とその実際</p> <p>第3回 講義：筋・骨格系のフィジカルアセスメント</p> <p>第4回 講義：神経系のフィジカルアセスメント</p> <p>第5回 講義：口腔、鼻腔、唾液腺、頸部のフィジカルアセスメント</p> <p>第6回 講義：視聴覚系のフィジカルアセスメント</p> <p>第7回 講義：胸部、呼吸器のフィジカルアセスメント</p> <p>第8回 講義：心臓と循環器系のフィジカルアセスメント</p> <p>第9回 講義：腹部と消化器系のフィジカルアセスメント</p> <p>第10回 講義：腎・泌尿器系、生殖器系のフィジカルアセスメント</p> <p>第11回 講義：日常生活行動の問題点を判断するためのフィジカルアセスメント (活動、睡眠、食事、排尿、排便)</p> <p>第12回 講義：症状・徴候から展開するフィジカルアセスメント (頭痛、胸痛、腹痛、呼吸困難、咳嗽、動悸、浮腫、吐血、意識消失)</p> <p>第13・14・15回 講義：フィジカルアセスメントを用いた看護過程の展開</p>

アクティブ ラーニング	事例に対する考察やグループメンバーとの議論をとおして、主体的に問題解決に臨む姿勢を培う。
評価方法	筆記試験 80%、課題提出物（リアクションペーパー） 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの回答、講評を次の授業内にて行う。
指定図書	藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第2版，学習研究社，2014. 山内豊明訳：ベイツ診察法ポケットガイド，メディカル・サイエンス・インターナショナル，2015.
事前・ 事後学修	解剖学I・II，生理学I・II，代謝・栄養，微生物・感染，身体活動の科学での履修内容が重要となります。受講前には1時間あたり20分程度、関連知識の復習を必ず行って下さい。また、学修した知識は次回の受講に活用できるよう1時間あたり20分程度、事後学修して下さい。
オフィス アワー	炭谷正太郎：1216 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。

科目名	フィジカルアセスメント演習
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1単位 (30時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	フィジカルフィジカルイグザミネーション (アセスメントに必要なテクニック) である問診、視診、触診、打診、聴診および測定器具を使用した測定方法と得られた結果に対しての記録、判断、考察ができることを目的とする。
到達目標	1. フィジカルイグザミネーションに必要な技術を実践し、対象の問題を考察できる。 2. 系統別フィジカルアセスメントに必要な技術を実践し、対象の問題を考察できる。
授業計画	<p><担当教員名> 桎原理恵、炭谷正太郎、新實夕香理、佐久間佐織、柴田めぐみ、水野美香</p> <p><授業内容・テーマ等> 第1回 演習：問診・インタビュー、視診、聴診、打診、触診 第2回 演習：筋・骨格系の観察 第3回 演習：神経系の観察 第4回 演習：口唇、歯など口腔内の観察、甲状腺の観察 第5回 演習：視聴覚の観察 第6回 演習：胸部の観察 第7回 演習：呼吸の観察 第8回 演習：心臓の観察 第9回 演習：末梢循環、表在リンパ節の観察 第10回 演習：腹部の観察 第11・12回 演習：日常生活行動の問題点を判断するためのフィジカルアセスメント (活動、睡眠、食事、排尿、排便) 第13・14回 演習：症状・徴候から展開するフィジカルアセスメント (頭痛、胸痛、腹痛、呼吸困難、咳嗽、動悸、浮腫、吐血、意識消失) 第15回 演習：実技試験の講評、まとめ</p>

アクティブ ラーニング	事例に対する考察やグループメンバーとの議論をとおして、主体的に問題解決に臨む姿勢を培う。シミュレーターを用いたフィジカルイグザミネーションを実施し、体験的に身体の正常・異常所見を理解する。
評価方法	実技試験 80%、課題提出物 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの回答、講評を次の授業内にて行う。
指定図書	藤崎郁：フィジカルアセスメント完全ガイド第2版，学習研究社，2014. 山内豊明訳：ベイツ診察法ポケットガイド，メディカル・サイエンス・インターンショナル，2015.
事前・ 事後学修	受講前には，関連内容を必ず指定図書・CD-ROM で1時間あたり20分程度、事前学修を行って下さい。また，演習で修得した技術・知識は次回を受講に活用できるよう1時間あたり20分程度、事後学修して下さい。解剖学 I・II，生理学 I・II で学んだ必要な知識を受講前に復習して下さい。
オフィス アワー	炭谷正太郎：1216 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。

科目名	基礎看護学実習 I
科目責任者	榎原 理恵
単位数他	1単位 (45時間) 必修 2セメスター
科目の位置付	(3)様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	看護の対象となる人々の施設における生活環境の実際を知ると共に、看護の役割について考える。また、看護職に必要な基本的態度を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の施設における生活環境を知る。 2. 看護師が行う看護実践を見学して、看護の役割について考え、自分の看護観を培うことができる。 3. 看護職に必要な基本的な態度を学ぶことができる。
授業計画	<p><担当教員名> 榎原理恵、炭谷正太郎、新實夕香理、佐久間佐織、柴田めぐみ、水野美香</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院 浜松医療センター、浜松労災病院 2. 実習期間 9月～11月 3. 実習展開 学内実習：オリエンテーション 臨地実習：施設オリエンテーション、 臨地実習 実習のまとめ

アクティブ ラーニング	実習
評価方法	自己評価に基づく面接 40%、実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 30% 実習記録 10%、課題レポート 20%
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に、担当教員と面談の時間をもち、自己の課題と解決方法について フィードバックを行う。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I，医学書院，2016. 任和子他：系統看護学講座 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II，医学書院，2015. ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、基礎看護技術論 I・基礎看護技術演習 I で学修して いる内容を復習します。また、看護過程の学修では事例を展開するために 1 時間あたり事前 20 分、事後 20 程度、1 年次に学修した解剖学、生理学の学修が必要です。
オフィス アワー	極原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。

科目名	基礎看護学実習Ⅱ
科目責任者	檜原 理恵
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 3セメスター
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	受け持ち患者への看護実践活動を通し、患者の療養生活を理解し、援助のための基本的な看護技術と看護過程の基礎を学修する。また、対象者に必要な日常生活援助のための計画を立案し、看護技術を実践する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者の日常生活援助における基本的な援助技術を理解し、実践できる。 2. 患者の情報を整理・統合し、日常生活の援助を中心とした援助計画を立案することができる。 3. 看護職に必要な態度を持ち、主体的に行動できる。
授業計画	<p><担当教員名> 檜原理恵、炭谷正太郎、新實夕香理、佐久間佐織、柴田めぐみ、水野美香</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 聖隷三方原病院、聖隷浜松病院、浜松市リハビリテーション病院 浜松医療センター、浜松労災病院 2. 実習期間 4月～7月 3. 実習展開 学内実習：オリエンテーション、看護過程講義、グループワーク自己学修 臨地実習：①② 実習のまとめ：学生カンファレンス

アクティブ ラーニング	実習
評価方法	自己評価に基づく面接 40%、実習への取り組み姿勢・カンファレンスへの参加度 30% 実習記録 10%、課題レポート 20%
課題に対する フィード バック	実習当日に実習記録等を基に、担当教員と面談の時間をもち、自己の課題と解決方法について フィードバックを行う。
指定図書	茂野香おる他：系統看護学講座 基礎看護学 (2) 基礎看護技術 I，医学書院，2016. 任和子他：系統看護学講座 基礎看護学 (3) 基礎看護技術 II，医学書院，2015. ナーシングスキル： https://nursingskills.jp/ ，エルゼビアジャパン
事前・ 事後学修	実習オリエンテーションの内容を基に、基礎看護技術論 I・基礎看護技術演習 I で学修してい る内容を復習します。また、看護過程の学修では事例を展開するために 1 時間あたり事前 20 分、 事後 20 程度、1 年次に学修した解剖学、生理学の学修が必要です。
オフィス アワー	極原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。

科目名	成人看護学概論	
科目責任者	荒川 靖子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 3 セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。	
科目概要	成人期の特徴をふまえ、家庭や職場・地域社会でさまざまな役割をもつ人々の生活および健康、健康障害に対する理解を深め、成人期にある人々を支援する看護について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 成人期にある人々の成長・発達過程および各期の特徴、発達課題を説明できる。 2. 成人期に生じやすい健康問題を人々の生活習慣と関連づけて説明できる。 3. 成人期の健康や健康障害に対する人々の心身の反応と看護の特徴を説明できる。 	
授業計画	<p>第 1 回：成人の特徴：成人期にある人々の身体的、心理・社会的特徴</p> <p>第 2 回：成人の特徴：成人期にある人々の生活と健康</p> <p>第 3 回：成人看護の基本：看護実践の倫理と意思決定支援</p> <p>第 4 回：ヘルスプロモーションと看護</p> <p>第 5 回：ライフスタイルと健康生活</p> <p>第 6 回：健康レベルと看護の特徴(1)急性期にある人の特徴と看護</p> <p>第 7 回：健康レベルと看護の特徴(2)慢性的な健康障害をもつ人の特徴と看護</p> <p>第 8 回：健康レベルと看護の特徴(3)障がいをもつ人の特徴と看護</p> <p>第 9 回：健康レベルと看護の特徴(4)終末期にある人の特徴と看護</p> <p>第 10 回：成人を支援する看護技術(1)主体的な健康管理を促す看護</p> <p>第 11 回：成人を支援する看護技術(2)苦痛、苦悩の理解と安楽への看護</p> <p>第 12 回：成人を支援する看護技術(3)治療の影響と回復への看護</p> <p>第 13 回：成人を支援する看護技術(4)症状マネジメントと看護</p> <p>第 14 回：成人を支援する看護技術(5)退院を支援する看護</p> <p>第 15 回：成人を支援する看護技術(6)がん患者の理解と看護</p>	<p>荒川靖子</p> <p>荒川靖子</p> <p>荒川靖子</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>荒川靖子</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>小池武嗣</p> <p>藤浪千種</p> <p>藤浪千種</p> <p>藤浪千種</p> <p>小池武嗣・鈴木夏奈子</p> <p>荒川靖子</p>

アクティブ ラーニング	毎回、指定された部分の教科書（または、指定された資料）を読んで、理解できた点、理解が難しい点、疑問点のメモをもって授業に臨んでください。学生の実習前学習を中心に授業を展開していきます。
評価方法	定期試験：80% 指定された提出物：10% ミニテストの結果：10%
課題に対する フィード バック	毎時間、前回までの学修内容を確認するためのミニテストを実施し内容や結果について解説します。意見や疑問は、適宜、授業中やリアクションペーパーで受けて授業中の解説やMoodle上でフィードバックしていきます。 定期試験については、試験結果の公表後に解説の機会を設けます。
指定図書	小松浩子他『成人看護学総論』医学書院
事前・ 事後学修	既習の心理学、倫理学や生涯発達の授業内容を復習しよく理解した上で授業に臨んで下さい。 予習として指定された教科書のページを読んでくること（約15分）、授業後には、学修した内容を成人期にある自分自身や家族の状況と照らし合わせ、講義で学んだことを具体的なイメージとして理解しながら授業内容のノートを整理（約25分）してその後の学修や実習で活かせるような学修を習慣としてください。
オフィス アワー	月曜Ⅱ時限目を基本的なオフィスアワーとしますが、いつでも相談にのりますのでメールで連絡してください。 荒川靖子 1211研究室： yasuko-a@seirei.ac.jp 小池武嗣：1214研究室： takeshi-k@seirei.ac.jp 藤浪千種：1210研究室： chigusa-f@seirei.ac.jp 鈴木夏奈子：1619研究室： kanako-s@seirei.ac.jp

科目名	成人看護援助論 I	
科目責任者	森 一恵	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	手術という侵襲的治療を受ける成人や慢性疾患とともに生活する成人についての理解を深めるとともに、さまざまな健康障害状況に応じた看護の基本および必要な看護援助について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術を受ける患者の身体的、心理的な反応を解剖学・生理学をもとに説明できる。 2. 術前、術中、術後の看護の特徴を説明できる。 3. 手術を受けた患者がもとの生活に復帰する際の課題を説明できる。 4. 成人期にある人々の担う役割や生活習慣が、疾病の発症とその後の経過に及ぼす影響について発達理論などを用いて説明できる。 5. 慢性的な健康障害に伴う症状、検査、治療における看護援助の方法を説明できる。 	
授業計画	<p>第 1 回： 1. 手術と看護</p> <p>1) 手術療法と患者の身体的、心理的反応</p> <p>第 2 回： 2) 術前看護</p> <p>第 3 回： 3) 周術期看護</p> <p>第 4 回： 4) 術後看護：手術後患者の看護(1)術後合併症の発生機序と種類</p> <p>第 5 回： 術後看護：手術後患者の看護(2)術後回復過程と患者・家族への看護</p> <p>第 6 回： 術後看護：手術後患者の看護(3)起こりやすい合併症の予防と看護</p> <p>第 7 回： 術後看護：リハビリテーションと生活復帰のための看護</p> <p>第 8 回： 2. 慢性的な健康障害と看護</p> <p>1) 慢性的な健康障害をもつということ</p> <p>第 9 回： 2) 生活習慣の改善を促すセルフケア支援</p> <p>第 10 回： 3) 糖尿病患者と看護 (1)糖尿病看護の基礎知識</p> <p>第 11 回： 糖尿病患者と看護 (2)食事療法・運動療法の具体的展開</p> <p>第 12 回： 糖尿病患者と看護 (3)薬物療法と自己管理支援</p> <p>第 13 回： 4) 心臓病患者と看護 (1)虚血性心疾患患者の看護</p> <p>第 14 回： 心臓病患者と看護 (2)心不全患者の看護</p> <p>第 15 回： 心臓病患者と看護 (3)不整脈疾患患者の看護</p>	<p>森 一恵</p> <p>森 一恵</p> <p>森 一恵</p> <p>森 一恵</p> <p>森 一恵</p> <p>大石ふみ子</p> <p>大石ふみ子</p> <p>木下 幸代</p> <p>木下 幸代</p> <p>木下 幸代</p> <p>木下 幸代</p> <p>山本 真矢</p> <p>小池 武嗣</p> <p>小池 武嗣</p> <p>小池 武嗣</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> 各授業の事前学習を Moodle で予め提示し、事前学修の内容を学生に確認しながら授業を進める。 事前学修の内容をもとに一部、反転授業の方法を用いて学生が授業に主体的に取り組む。 事後学修で深めた課題をレポート（糖尿病食事療法・運動療法を実践・記録し振り返る）としてまとめ、評価の一部とする。
評価方法	定期試験 90%、課題レポート 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> 定期試験の解答例の提示 リアクションペーパーの質問や疑問については次回以降の授業内で回答するか、Moodle での解答の開示・共有を行う
指定図書	<p>※1. 矢永勝彦他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院（「健康障害論Ⅰ」で購入済み）</p> <p>2. 日本糖尿病学会編『糖尿病治療の手びき』日本糖尿病協会・南江堂</p> <p>3. 日本糖尿病学会編『糖尿病食事療法のための食品交換表、第7版』文光堂</p> <p>4. 黒江ゆり子他『成人看護学6 内分泌・代謝』医学書院</p> <p>※5. 上塚芳郎他『成人看護学3 循環器』医学書院（「健康障害論Ⅰ」で購入済み）</p>
事前・ 事後学修	<p><事前学修>解剖学・生理学、健康障害論（とくに手術と麻酔、循環器、内分泌・代謝）等で学んだ解剖生理、症状と病態生理、診断・治療等の基礎知識について再確認しておく。Moodle で事前課題が出る場合は内容を予習して授業に臨む。（約 20 分）</p> <p><事後学修>配布資料や教科書の指定ページを確認し授業内容を復習する。専門基礎領域科目や基礎看護学で学習した知識が基盤になるので、十分に復習しておく。（約 20 分）</p>
オフィス アワー	<p>臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。</p> <p>森一恵(1217 研究室:kazue-m@seirei.ac.jp)水曜日 12:00~13:00</p> <p>木下幸代(5705 研究室:sachiyo-k@seirei.ac.jp)</p> <p>大石ふみ子(初回授業に紹介する)</p> <p>小池武嗣(1214 研究室:takeshi-k@seirei.ac.jp)</p>

科目名	成人看護援助論Ⅱ
科目責任者	松井 謙次
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	成人期に特有な健康問題によって手術療法を受ける人々が、身体・心理的・社会的危機を乗り越え、自己管理に向かう過程に必要な看護援助について学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 手術が身体・心理的および社会的役割に与える影響を説明できる。 2. 術前に必要な観察と援助内容を説明できる。 3. 術中・術後の回復過程に必要な看護を説明できる。 4. 退院後の生活の変化を予測し、生活支援に向けた看護を説明できる。
授業計画	<p>第1回：腎・泌尿器（腎臓・膀胱・前立腺）疾患で手術を受ける患者の看護(1) 松井謙次</p> <p>第2回：腎・泌尿器（腎臓・膀胱・前立腺）疾患で手術を受ける患者の看護(2) 松井謙次</p> <p>第3回：消化器（胃）疾患で手術を受ける患者の看護（1） 藤浪千種</p> <p>第4回：消化器（胃）疾患で手術を受ける患者の看護（2） 藤浪千種</p> <p>第5回：女性生殖器(乳腺)疾患で手術を受ける患者の看護 氏原恵子</p> <p>第6回：運動器(膝関節)疾患で手術を受ける患者の看護 氏原恵子</p> <p>第7回：運動器(股関節・骨折)疾患で手術を受ける患者の看護 氏原恵子</p> <p>第8回：呼吸器(肺)疾患で手術を受ける患者の看護（1） 氏原恵子</p> <p>第9回：呼吸器(肺)疾患で手術を受ける患者の看護（2） 氏原恵子</p> <p>第10回：女性生殖器(卵巣・子宮)疾患で手術を受ける患者の看護 氏原恵子</p> <p>第11回：消化器（大腸）疾患で手術を受ける患者の看護（1） 藤浪千種</p> <p>第12回：消化器（大腸）疾患で手術を受ける患者の看護（2） 藤浪千種</p> <p>第13回：運動器(脊椎)疾患で手術を受ける患者の看護 松井謙次</p> <p>第14回：脳・血管（大脳）疾患で手術を受ける患者の看護（1） 松井謙次</p> <p>第15回：脳・血管（大脳）疾患で手術を受ける患者の看護（2） 松井謙次</p>

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業時に提示される事前学修課題を中心に事前学習を行ったうえで授業に参加する。 ・授業は事前学習の内容を踏まえ進行される。 ・授業後はMoodleに掲載される復習問題を中心とした事後学修を行う。 ・事前学修課題は評価の一部とするため、授業最終回の際に提出する。 ・リアクションペーパー等で寄せられた質問・感想等への回答を行う。
評価方法	定期試験 90%、事前学修課題 10%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に関する質問はリアクションペーパー、e-mail等を使って回答する。 ・定期試験の解答例の提示をする。
指定図書	<p>1. 末岡 浩他『成人看護学9 女性生殖器』医学書院、2016年度改訂版 <※購入済みテキスト></p> <p>※2. 矢永 勝彦他『別巻 臨床外科看護総論』医学書院</p> <p>※3. 川邊 博史他『成人看護学8 腎・泌尿器』医学書院</p> <p>※4. 松田 明子他『成人看護学5 消化器』医学書院</p> <p>※5. 川村 雅文他『成人看護学2 呼吸器』医学書院</p> <p>※6. 加藤 光宝他『成人看護学10 運動器』医学書院</p> <p>※7. 竹村 信彦他『成人看護学7 脳・神経』医学書院</p> <p>※8. 奈良 信雄『別巻 臨床検査』医学書院</p>
事前・ 事後学修	<p>【事前学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回授業の際に各講義に関連する事前課題を提示する。関連する箇所の課題を整理したうえで講義に臨む(学習目安時間20分)。なお、事前学習課題は第15回授業の際に回収する。 <p>【事後学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復習問題をMoodleに掲載する(学習目安時間20分)。 ※授業成人看護援助論I(手術と看護)、健康障害論I・II(麻酔法、各器官系統別)授業資料を活用し事前・事後学修を行う。 ※提示される事前・事後学修の他、各自主体的に追加学修を行うことが望ましい。
オフィス アワー	<ul style="list-style-type: none"> ・実習・会議等で不在となることがあるため、質問や相談等がある際は事前にG-mailでアポイントをお願いします。 <p>松井 kenji-m@seirei.ac.jp (1218研究室), 藤浪 chigusa-f@seirei.ac.jp (1210研究室) 氏原 keiko-u@seirei.ac.jp (1618研究室)</p>

科目名	成人看護援助論Ⅲ	
科目責任者	豊島 由樹子	
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。	
科目概要	慢性疾患を抱えて生きる成人期の人々に特有な健康問題や関連する諸要因を理解し、患者と家族におけるQOLの向上・充実にむけた看護援助について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性疾患を抱える成人期の患者の代表的な健康障害について説明できる。 2. 慢性疾患を抱えて生活している患者の身体・心理・社会面の療養上の特徴を体系的に説明できる。 3. 侵襲の大きい治療(薬物療法・放射線療法・透析療法など)を受ける患者に対する看護援助が説明できる。 4. 患者が生涯にわたり慢性疾患と上手につき合うためのセルフケアを促す看護援助について説明できる。 	
授業計画	<p>第1回：慢性疾患を抱えて生きる患者・家族の生活の特徴</p> <p>第2回：化学療法と看護</p> <p>第3回：放射線療法と看護</p> <p>第4回：血液疾患患者と看護（血球異常のある患者の看護）</p> <p>第5回：血液疾患患者と看護（輸血療法と看護）</p> <p>第6回：自己免疫疾患患者と看護</p> <p>第7回：肝疾患患者と看護(肝臓の病態生理)</p> <p>第8回：肝疾患患者と看護(肝硬変・肝臓がん患者の看護)</p> <p>第9回：慢性閉塞性肺疾患患者と看護（COPDの病態）</p> <p>第10回：慢性閉塞性肺疾患患者と看護（COPD患者の看護）</p> <p>第11回：慢性腎不全患者と看護（慢性腎臓病患者の看護）</p> <p>第12回：慢性腎不全患者と看護（透析療法と看護）</p> <p>第13回：脳血管疾患患者と看護（発症早期から回復期の看護）</p> <p>第14回：脳血管疾患患者と看護（運動麻痺・高次脳機能障害患者の看護）</p> <p>第15回：神経難病患者と看護</p>	<p>豊島由樹子</p> <p>井上菜穂美</p> <p>井上菜穂美</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>井上菜穂美</p> <p>井上菜穂美</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p> <p>豊島由樹子</p>

アクティブ ラーニング	事前学修課題の内容を踏まえて、授業を進めていきます。 授業に関する情報（講義で使用するスライドデータや関連 HP）を Moodle に掲載しています。 Moodle を活用して主体的に学習に取り組みましょう。
評価方法	定期試験 80 %、授業内小テスト(3 回) 20 % (授業過程における提出物不備の場合減点あり)。
課題に対する フィード バック	講義ごとの予習課題内容は、授業後の質問等の記載を加えた上で用紙を回収し、フィードバックを行います。授業に対する質問等については、質問用紙へのコメント、または Moodle にて返答します。 授業内小テスト後には解答を提示し、正答率の低い問題については解説を行います。また、定期試験後にも解答の提示を行います。
指定図書	「健康障害論 I・II、薬理学、微生物学、成人看護学概論、成人看護援助論 I・II、成人看護援助論演習」などでの使用テキスト（※ 全て購入済み） ※ 1. 小松 浩子他『成人看護学 1 成人看護学総論』医学書院 ※ 2. 川村 雅文他『成人看護学 2 呼吸器』医学書院 ※ 3. 飯野 京子他『成人看護学 4 血液・造血器』医学書院 ※ 4. 松田 明子他『成人看護学 5 消化器』医学書院 ※ 5. 竹村 信彦他『成人看護学 7 脳・神経』医学書院 ※ 6. 河邊 博史他『成人看護学 8 腎・泌尿器』医学書院 ※ 7. 矢永 勝彦他『別巻 1 臨床外科看護総論』医学書院 ※ 8. 奈良 信雄他『別巻 臨床検査』医学書院
事前・ 事後学修	臨地看護実習・国家試験に向けて重要な科目ですので、事前学習として、講義ごと事前に配布する予習課題（これまで学んできた解剖学、生理学、健康障害論、成人看護学等の知識内容）を、受講前に各自学習して、関連知識の復習を行ってください(約 15 分)。 また授業後には、配布資料の空欄部を教科書を参考に埋め、授業内容の復習を行きましょう(約 25 分)。
オフィス アワー	詳細は初回授業時に提示します。実習や会議により変更の可能性もあるため、事前に単元教員に e-mail で連絡してください。 ・豊島由樹子（看護学部）1209 研究室： yukiko-t@seirei.ac.jp（17:30 以降は比較的在室） ・井上菜穂美（看護学部）1208 研究室： nahomi-i@seirei.ac.jp

科目名	成人看護援助論演習
科目責任者	井上 菜穂美
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	看護過程演習を通して、健康障害をもつ成人に関する様々な情報を整理し、情報の解釈・分析・統合により看護診断を導き、看護問題の優先度を考えた看護計画の立案を学修する。看護技術演習を通して、健康障害をもつ成人の治療や療養を支えるために必要な看護援助を学修する。臨床の場面で必要な医療安全の知識、技術について学修する。
到達目標	1. アセスメントに基づいて看護診断を導き、優先度を判断した看護計画を立案できる。 2. 成人看護学に必要な看護技術の原理・原則を理解し、留意点を守って実践できる。 3. 安全な看護を提供するための医療安全の必要性を説明できる。
授業計画	<p>[第1回～第9回：紙上事例による看護過程演習]</p> <p>第1回：オリエンテーション/看護過程・看護診断とは 井上菜穂美</p> <p>第2回：看護診断分類法Ⅱを用いた情報の整理/事例の補足説明 井上菜穂美・小池武嗣</p> <p>第3回：関連図の作成とアセスメントの実際 井上菜穂美</p> <p>第4-5回：関連図の作成と全体像の理解 ①・②【グループワーク】 成人看護学領域教員</p> <p>第6回：看護計画の立案と評価 井上菜穂美</p> <p>第7-8回：情報の解釈・分析・統合 ①・②【グループワーク】 成人看護学領域教員</p> <p>第9回：看護問題の明確化/演習記録の記載方法 成人看護学領域教員</p> <p>[第10回～第13回：看護技術演習]</p> <p>第10回：看護技術演習①（講義：深部静脈血栓症の予防、身体診察の留意点、薬物療法管理） 氏原恵子・小池武嗣・井上菜穂美</p> <p>第11回：看護技術演習②（講義：BLS 一次救命法と ACLS 二次救命法） ゲストスピーカー</p> <p>第12回：看護技術演習③（演習：輸液管理、状況設定した療養環境整備） 成人看護学領域教員</p> <p>第13回：看護技術演習④（演習：BLS 一次救命法の実施） 成人看護学領域教員</p> <p>[第14回～第15回：医療安全]</p> <p>第14回：臨床における医療安全について ① 井上菜穂美</p> <p>第15回：臨床における医療安全について ②/本科目のまとめ 井上菜穂美</p> <p>※グループワーク、看護技術演習はグループ別に進行するため、具体的なスケジュールは配布資料を確認して下さい。</p>

アクティブ ラーニング	<p>第1回～第9回の看護過程演習はPBLで進めます（事前学習課題を初回講義で配布します）。</p> <p>また、講義・演習に関する資料をMoodleに適宜掲載します（Moodle→「成人看護学」→「成人看護援助論演習」）。資料を活用して主体的に課題に取り組んでください。</p> <p>※講義のレジュメの穴埋め箇所（講義中に各自で記入）はMoodleには掲載しません。</p>
評価方法	<p>看護過程演習レポート（事前学習課題、グループワークの取り組み・態度を含む）60%、看護技術演習ワークシート（演習への取り組み・態度、技術チェック内容を含む）30%、医療安全に関する提出物 10%</p> <p>※提出物は達成状況により再提出を課すことがあります。</p> <p>※原則的に全出席とします。遅刻・欠席の場合は講義開始前に井上まで連絡して下さい。</p>
課題に対する フィード バック	<p>看護過程レポートおよび看護技術ワークシートは、グループワーク担当教員が内容を確認し、提出物へのコメントや個別指導によりフィードバックを行いません。</p> <p>また、リアクションペーパーで寄せられた質問については講義で解説を行なうほか、適宜掲示板やメールを用いて連絡しますので、各自で確認して下さい。</p>
指定図書	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本看護診断学会監修『NANDA-I 看護診断：定義と分類 2015-2017』医学書院 2. 奈良信雄他『系統看護学講座 別巻 臨床検査』医学書院 3. 飯野京子他『系統看護学講座 血液・造血器』医学書院（購入済） 4. 松田明子他『系統看護学講座 消化器』医学書院（購入済）
事前・ 事後学修	<p>臨地看護学実習に向けて非常に重要な科目です。これまでに学習してきた知識、技術が基盤となるため、事前学習課題として、①看護過程演習ワークブック、②事例の情報整理、③看護技術演習ワークシートを配布します。講義の進捗に合わせて計画的に課題に取り組んで下さい。</p> <p>所要時間は、①2時間程度、②4時間程度、③2時間程度の見込みです。</p> <p>※事前学習が不十分な場合は、グループワーク・演習に参加できないことがあります。</p> <p>※事後学修として、臨地看護学実習に必要な看護技術について成人看護実習室で自主練習に取り組むとともに、返却された看護過程レポートのコメントを確認し、自己の課題を明確にしたうえで臨地看護学実習に臨みましょう。</p>
オフィス アワー	<p>詳細は初回授業時に提示します。実習や会議などで不在の場合があるので、メールで連絡して下さい。グループワーク担当教員への連絡方法については、オリエンテーション時にお知らせします。</p> <p>科目責任者：井上菜穂美（1208研究室） メールアドレス：nahomi-i@seirei.ac.jp</p>

科目名	急性期看護学実習
科目責任者	荒川 靖子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	急性期にある患者、家族を総合的に理解し、看護実践に必要な能力および態度を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 患者・家族に対して積極的な関心を持ち、適切な援助関係を築くことができる。 2. 急性期にある患者の個別的な状況を踏まえた看護を実践できる。 3. 看護実践に看護過程、看護診断を活用できる。 4. 患者の権利を擁護し、看護専門職としての倫理観を身につけることができる。 5. 患者に関わる医療従事者間の連携をはかることができる。 6. 緊急時における看護職の果たす役割が理解できる。 7. 看護の概念を深めることができる。 8. 看護学生として責任ある実習態度がとれる。
授業計画	<p><担当教員名> 荒川靖子、森一恵、大石ふみ子、松井謙次、氏原恵子、藤浪千種 ほか</p> <p>実習期間：3週間</p> <p>実習施設：聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の成人外科系病棟、手術室、ERなど</p> <p>実習方法：手術を受ける患者を受け持って患者と家族に対する術前、手術中（手術室）、術後の看護を実践する。</p> <p>詳細は『急性期看護学実習オリエンテーション要綱』をもとに、実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	実習評価表（実習における看護実践、実習記録、実習への取り組み）をもとに、実習目標の達成度によって評価します（100%）
課題に対する フィード バック	実習前学修、日々の計画、実践、記録、週毎の自己評価、自己学習、実習への取り組みに対し、話し合いやカンファレンスでのコメント、記録へのコメント等で個人およびグループに対して成果や課題等をフィードバックしていきます。
指定図書	1. 小松浩子他『成人看護学総論』医学書院（購入済み） 2. 矢永勝彦他『臨床外科看護総論』医学書院（購入済み） *その他、実習病棟に応じて健康障害論や成人看護学で使用した教科書を使用します。
事前・ 事後学修	手術患者さんの看護には、解剖学、生理学、健康障害論をはじめ成人看護学の授業で学んだすべての内容を活用する必要があります。1年次からの学修の振り返りと事前学習ワークブックで知識の確認をするとともに、患者ケアに必要な技術を再確認しておいてください。手術患者さんの状態変化は非常にはやいので事前準備の内容が実習成果に大きく影響します。 日々の実習では、実習の記録と振り返り・まとめ、自身の課題の確認<約 60 分>、知識、技術の再確認、看護過程の展開、翌日の行動計画立案<約 120 分>など少なくとも毎日の 3 時間の自己学修を習慣にしてください。
オフィス アワー	月曜Ⅱ時限目を基本的なオフィスアワーとしますが、いつでも相談にのりますのでメールで連絡してください。（荒川靖子 1211研究室、 yasuko-a@seirei.ac.jp ） 各実習担当者への連絡方法は、オリエンテーション時にお知らせします。

科目名	慢性看護学実習
科目責任者	豊島 由樹子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	慢性疾患を抱える患者と家族を総合的に理解し、看護実践に必要な能力および態度を養う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 慢性疾患を抱える患者と家族に対して積極的な関心を持ち、適切な関係を築くことができる。 慢性疾患を抱える患者の健康状態を考慮して、個別的状況を総合的に理解できる。 慢性疾患を抱える患者の理解に基づき、看護上の問題・患者のニーズを特定し、看護計画を立てることができる。 慢性疾患を抱える患者と家族のよりよいセルフケアに向けて、日常生活および診療時の看護を実践できる。 患者の権利を擁護し、看護専門職としての倫理観を身につけることができる。 慢性疾患を抱える患者・家族のセルフケア能力を高めるために、関係従事者との連携の重要性が理解できる。 看護チームの一員としての自覚を持ち、学生間においてメンバー・リーダーの役割を担うことができる。 緊急時における看護職の果たす役割が理解できる。 慢性疾患を抱える患者と家族に対する看護実践を通して、看護の概念を深めることができる。 看護学生として責任ある実習態度をとることができる。
授業計画	<p><担当教員名>：豊島由樹子、樺澤三奈子、井上菜穂美、小池武嗣、鈴木夏奈子</p> <p>実習期間：3週間</p> <p>実習施設：聖隷浜松病院、聖隷三方原病院の成人内科系病棟、画像診断外来、</p> <p>実習方法：慢性疾患を抱える患者を受け持ち、患者・家族に対する看護を実践する。</p> <p>詳細は「臨地看護実習の手引き」を参照してください。 また、実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。 (授業に関する情報は、Moodle「成人看護学」→「慢性看護学実習」に掲載してあります)
評価方法	実習における看護実践(対人関係・看護技術・連絡報告) 45 % 実習記録(患者理解・看護過程展開、経過記録、等) 40 % 実習の取り組み・態度 15 %
課題に対する フィード バック	事前学習課題については、実習初日に各教員が確認する、および学内演習内でフィードバック します。実習記録は担当教員が毎日確認し、看護技術についても実践場面、学内演習、カンフ ァレンス等も含めて、個人・グループに対して成果や課題をフィードバックしていきます。
指定図書	「成人看護学概論、成人看護援助論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、成人看護援助論演習」で使用した教科書 ※ 小松 浩子他「成人看護学1 成人看護学総論」医学書院 「成人看護学2～8」医学書院 ※ 矢永 勝彦他『別巻1 臨床外科看護総論』医学書院 ※ 日本看護診断学会監修『NANDA-I 看護診断：定義と分類 2015-2017』医学書院 ※ 奈良信雄他『系統看護学講座 別巻 臨床検査』医学書院 など
事前・ 事後学修	看護を実践するためには、解剖学、生理学、健康障害論、および成人看護学の授業で学んだ内 容を活用する必要があります。配布する事前学習課題に各自実習前に取り組み、関連する知識 を確認するとともに、実習で必要な看護技術についても実習室で自己練習してください。 日々の学修目安としては、1日の実践内容の振り返り記録、翌日の行動計画立案(約90分)、患 者の全体像のアセスメント・具体的な看護介入の確認(約90分)を、自己学習として習慣づけま しょう。 実習後は、理解が不十分であった内容について国家試験に向けて各自復習を行ってください。
オフィス アワー	科目責任者：豊島由樹子(看護学部)1209研究室： yukiko-t@seirei.ac.jp (17:30以降は比較的在室していますが、会議等により変更の可能性もあるため、事前にe-mail で連絡してください。) 各実習担当教員への連絡方法は、初日オリエンテーション時にお知らせします。

科目名	老年看護学概論	
科目責任者	大村 光代	
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 3セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。	
科目概要	老年期にある人の特徴を加齢変化から理解し、取り巻く社会の動向や社会問題について知り、老年看護の役割について理解できることを目的とする	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期にある人の身体・心理・社会的特徴を生涯発達の視点、加齢変化から説明できる 2. 老年期にある人を取り巻く社会背景について述べられる 3. 老年看護の理念、役割、専門性について述べられる 4. 介護保険制度におけるサービスについて理解し、多職種との連携について考えることができる 5. 生活機能を重視した ICF モデルの考え方を学習し、高齢者・家族を対象とした看護過程を展開する為の基本的知識を学ぶ 6. 高齢者の人権と倫理的問題、尊厳について説明できる 	
授業計画	<p>第1回： 老いるということ</p> <p>第2回： 人口の高齢化現象と課題</p> <p>第3回： 高齢社会における保健・医療・福祉の動向</p> <p>第4回： 老年看護の理念と役割</p> <p>第5回： 家族介護の多様化と支援</p> <p>第6回： ライフステージとしての老年期の特徴</p> <p>第7回： 加齢変化と身体 (身体の特徴その1)</p> <p>第8回： 加齢変化と身体 (身体の特徴その2)</p> <p>第9回： 加齢変化とこころ (知能と記憶 老性自覚 死に対する見方)</p> <p>第10回： 加齢変化と社会 (役割 経済的基盤 生活パターン)</p> <p>第11回： 高齢者の人権と倫理問題</p> <p>第12回： 高齢者虐待・拘束</p> <p>第13回： 介護保険制度と地域包括ケアシステム</p> <p>第14回： 高齢者との対話からの学びと発表</p> <p>第15回： 老年看護に特徴的な概念と理論 (ICF モデルの考え方)</p>	<p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>野崎玲子</p> <p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>大村光代</p> <p>野崎玲子</p> <p>大村光代</p>

アクティブ ラーニング	<p>1. 事前課題として、講義内容について具体的事象を想起しやすいよう授業テーマに関連した時事問題を提示しておき、授業時に学生自身の感想・考えを述べる機会を設定します。</p> <p>2. 高齢者を理解するために、学生の身近にいる高齢者にインタビューを行いレポートにまとめます。またその内容をクラスで発表し意見交換を行います。</p>
評価方法	<p>定期試験 90%</p> <p>課題提出物 10%</p>
課題に対する フィード バック	<p>1. 毎回の授業で、質問・感想・要望・改善点等についてリフレクションペーパーを記述してもらい、質問・要望・改善点について次回以降の授業での回答や対応に努めます。</p> <p>2. 全授業のうち3回程度小テストを実施し、その場で自己採点してもらいます。成績の傾向から、試験対策として授業の中で弱点の強化（復習）を15分程度行っていきます。</p> <p>3. インタビューのレポートに対しては、個々にはコメントを記入して返却します。また発表会での意見交換時にもコメントを述べフィードバックします。</p>
指定図書	<p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院</p> <p>系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院</p>
事前・ 事後学修	<p>事前課題は、2～3日前にmoodleにupしておきます。授業テーマに関連した時事問題についてインターネット等で概要を調べ、感想や考えを発表できるようにまとめておいてください。 (20分程度)</p> <p>授業で用いたパワーポイント資料は、授業後moodleにupしておきます。授業で配布する資料の空欄に書き込み切れなかった内容を閲覧したり、授業の復習を行ってください。(20分程度)</p>
オフィス アワー	<p>大村光代：1612 研究室 e-mail: mitsuyo-o@seirei.ac.jp (平日16:00以降)</p> <p>※あらかじめメール予約をしてもらえれば確実です。</p>

科目名	老年看護援助論	
科目責任者	野崎 玲子	
単位数他	1単位 (30時間) 必修 4セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。	
科目概要	1. 老年期の健康障害が日常生活に及ぼす影響を知り、家族を含めた老年看護の実践方法について学習する。 2. 健康障害を持つ高齢者の検査・治療や療養を支える具体的な看護援助について学習する。	
到達目標	1. 老年期にある人の健康・健康障害の段階に適した援助方法を自立支援の視点から理解する。 2. 検査・治療を受けている高齢者の援助に必要な基礎的知識・技術が理解できる。 3. ライフステージの最終段階に迎える死の過程を学び、QOLについて考えることが出来る。	
授業計画	第1回：日常生活行動自立への援助：高齢者の健康に及ぼす環境の影響と援助 (加齢に伴う変化や健康障害の現れ方の特徴含む)	野崎玲子
	第2回：日常生活行動自立への援助：高齢者とコミュニケーション	野崎 玲子
	第3回：日常生活行動自立への援助：水分・食事 (脱水・誤嚥を伴う場合の援助を含む)	松元 由香
	第4回：日常生活行動自立への援助：排泄 (失禁・排泄障害を含む)	野崎 玲子
	第5回：日常生活行動自立への援助：清潔と個人衛生 (ドライスキン含む)	野崎 玲子
	第6回：日常生活行動自立への援助：移動と自立への援助 (転倒含む)	野崎 玲子
	第7回：日常生活行動自立への援助：活動と休息 (生活のリズム・睡眠障害含む)	野崎 玲子
	第8回：日常生活行動自立への援助：グループワーク 日常生活行動自立に向けての高齢者の課題 (転倒・誤嚥・褥瘡など)	野崎 玲子
	第9回：日常生活行動自立への援助：グループワーク・発表	野崎 玲子
	第10回：検査・治療を受けている高齢者の援助：検査・薬物療法	松元 由香
	第11回：検査・治療を受けている高齢者の援助：手術療法	松元 由香
	第12回：検査・治療を受けている高齢者の援助：リハビリテーション看護	松元 由香
	第13回：医療施設における高齢者看護	小山沙都美
	第14回：介護保険施設における高齢者看護	大村 光代
	第15回：高齢者の終末期看護	大村 光代

アクティブ ラーニング	日常生活行動自立に向けての高齢者の課題（転倒・誤嚥・褥瘡など）について、 グループワークを行います。
評価方法	定期試験 90% 課題提出物 10%
課題に対する フィード バック	グループワークの課題に対するフィードバックは、発表時に助言・指導を行います。 課題レポートに対するフィードバックは、レポートの指導の中で行います。
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院
事前・ 事後学修	事前学習の具体的内容は授業ごとにプリントを配布します。 特に基礎看護学で学んだ 日常生活の援助や老年看護学概論で学んだ高齢者の身体的・心理的・ 社会的特徴などです。
オフィス アワー	野崎玲子：看護学部 研究室：2704 研究室 e-mail: reiko-n@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があります、 主に実習終了後の16時30分以降になります。

科目名	老年看護援助論演習	
科目責任者	松元 由香	
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5セメスター	
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	老年期に特徴的な疾患と、看護方法について学修する。看護過程の展開を通し、疾患や障害を有している高齢者の病態と生活機能の視点から高齢者に必要な看護について学修する。	
到達目標	1. 老年期に特徴的な疾患に関する基本的知識が理解できる。 2. 老年期に特徴的な疾患を抱える高齢者とその家族を対象とした看護方法が理解できる。 3. 事例をもとに看護過程を展開し、老年期に必要な看護の特徴を表現できる。	
授業計画	第1回：糖尿病 日置先生 第2回：前立腺肥大、皮膚疾患 日置先生 第3回：心疾患、肺炎、呼吸不全 日置先生 第4回：認知症、脳血管疾患 日置先生 第5回：骨折（骨粗鬆症を含む） 日置先生 第6回：脳血管疾患：脳梗塞・脳出血の看護 松元由香 第7回：呼吸器疾患：老人性肺炎・呼吸不全の看護 松元由香 第8回：循環器疾患：心不全の看護 松元由香 第9回：運動器疾患：骨折の看護（大腿骨頸部骨折を中心に） 松元由香 第10回：感染症疾患：インフルエンザ・MRSA・疥癬の看護 野崎玲子 第11回：認知症の看護 野崎玲子 第12回：認知症の看護 野崎玲子 第13回：高齢者を対象とした看護過程（事例紹介） 大村光代 第14回：事例演習（情報の解釈・分析） 大村・野崎・松元・小山 第15回：事例演習（課題の明確化と計画立案） 大村・野崎・松元・小山	

アクティブ ラーニング	事例をもとに、教員と学生間で協議をし、老年看護過程を展開します。
評価方法	提出物（老年看護過程）10%、定期試験結果90%
課題に対する フィード バック	授業中に、事前課題に対する解答（例）を提示します。老年看護過程の展開では、授業中に複数名の教員が教室内を巡回しながら学生と協議します。 授業終了後に提出された看護過程は、老年看護学実習Ⅱの開始時に実習担当教員が個別にフィードバックします。
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版 鳥羽研二 医学書院 2014 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 第8版 北川公子 医学書院 2014
事前・ 事後学修	事前学習は授業担当教員が原則授業開始1週間前に提示します。授業中に提出してください。
オフィス アワー	松元由香 1707 研究室 オフィスアワーは初回授業で提示します 連絡先 yuka-m@seirei.ac.jp

科目名	老年看護学実習 I
科目責任者	松元 由香
単位数他	1 単位 (45 時間) 必修 4 セメスター
科目の位置付	(3) 様々な立場や意見を尊重しながら、自らの意見を伝達し、説得できるコミュニケーション力を身につけている。。
科目概要	介護保険サービスを利用している高齢者とのコミュニケーションを通して、老年期を生きる人々への理解を深め、高齢者の尊厳や自立について学修する 介護保険サービスを提供する施設での実習を通して、介護保険制度を理解する
到達目標	1. 高齢者に関心を持ち、対象者に合わせたコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる 2. 高齢者が生きてきた時代背景を踏まえ、老年期を生きる人々の生活歴を理解できる 3. 介護保険（デイサービス・デイケア）を利用する高齢者が受けるサービス内容について説明できる
授業計画	<p>担当教員名 大村光代 野崎玲子 松元由香 小山沙都美</p> <p>内容 実習オリエンテーション デイサービス・デイケアでの実習 全体意見交換会（学内）</p> <p>実習施設 指定されたデイサービス デイケア</p> <p>実習期間 平成 30 年 3 月の指定された 1 週間</p> <p>詳細は老年看護学実習 I 実習要項参照</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習目標の到達度 90% (実習要項の実習評価表参照) ・実習に臨む態度 10% (事前学習内容、意見交換会での発言等)
課題に対する フィード バック	提出された実習記録に、担当教員がコメントを記載し、本人へ返却する
指定図書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 第4版 鳥羽研二 医学書院 2014 系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 第8版 北川公子 医学書院 2014
事前・ 事後学修	別記
オフィス アワー	松元由香：1707 研究室 時間はオリエンテーション時に説明します 連絡先 yuka-m@seirei.ac.jp

科目名	老年看護学実習Ⅱ
科目責任者	野崎 玲子
単位数他	3単位 (135時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	高齢者施設で生活する高齢者の援助の実践を通して、高齢者看護に必要な基本的知識・技術・態度を身につけることを目的とする。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者に関心を持ち、適切なコミュニケーションの方法を用いて関係を築くことができる。 2. 老化による身体的・心理的变化及び社会的役割の変化を理解することができる。 3. 疾病や障害を持ちつつ自立を目指しながら生きる高齢者についての理解を深められる。 4. 高齢者の身体的・精神的・心理的・社会的な特徴をふまえ、健康上・生活上の課題のアセスメントができる。 5. 入居者を1名担当し、個別性の考慮・自立を目指した高齢者の生活支援を計画することができ、根拠に基づく適切な技術の実践及び評価ができる。 6. 高齢者と家族を取り巻く保険・医療・福祉システムの現状を知り、看護の役割が理解できる。 7. 高齢者に対し、尊厳ある態度を身につけ、老年観を発展させることができる。
授業計画	<p>【担当教員名】 大村光代 野崎玲子 松元由香 小山沙都美</p> <p>【実習期間】 臨地実習3週間 (実習前学内演習含む)</p> <p>【実習施設】 介護老人福祉施設 介護老人保健施設 介護付き有料老人ホーム</p> <p>【実習方法】 実習初日 : 学内でのオリエンテーション 実習2日目: 演習 (高齢者疑似体験) 実習3日目: 施設内オリエンテーション・受け持ち対象者の決定・情報収集 実習4日目以降 高齢者1名を受け持ち、看護過程を展開し、実践し評価する。 Shadow Nursing: 実習第2週目・半日。(午前または午後 施設で異なる)</p> <p>日程は祭日などで変更することがあります</p> <p>【記録・課題レポート】 実習前の事前学習レポート 実習前の学内演習レポート 実習中の看護実践・記録 (看護過程・日々の学びと振り返り) 実習後のレポート (老年看護学実習を通しての学びと課題)</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です 施設ごとに毎日カンファレンスを行い、実習最終日は各施設での学びの内容を発表し 全体で意見交換を行います
評価方法	1. 目標達成度 90% 老年看護学実習Ⅱの実習評価参照（実習記録・実習態度含む） 2. 実習前学習 10% （事前学習課題レポート・演習及び演習レポート）
課題に対す るフィード バック	・実習記録へのコメントの記載、カンファレンスでの指導・助言、個別面談を行います ・実習終了後（記録提出時）に個別で面談しフィードバックを行います
指定図書	系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護学」医学書院 系統看護学講座専門分野Ⅱ「老年看護 病態 疾患論」医学書院 参考書等は、随時紹介します
事前・ 事後学修	事前課題は実習オリエンテーションで説明します。 *実習前学内演習は、高齢者体験装具を着用し疑似体験します。
オフィス アワー	野崎玲子：看護学部 研究室：2704 研究室 e-mail: reiko-n@seirei.ac.jp 時間については、各担当教員の授業や会議などで変更の可能性があるため、領域の 初回オリエンテーション時に提示します

科目名	母性看護学概論
科目責任者	藤本 栄子
単位数他	1単位 (30時間) 必修 3セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」(性と生殖に関する健康と権利)の観点から女性と家族の健康問題に積極的関心を持ち、母性看護の役割と今後の課題について理解を深める。また、看護実践に必要な基礎的知識および思考過程を理解するために、母性看護の対象理解や看護の提供に関する基本的な考え方(理論、概念、根拠等)を学ぶ。
到達目標	1. 「母性・父性」「親になること」について理解を深める。 2. 女性の健康における意志決定について理解できる。 3. セクシュアリティについて理解できる。 4. 母性看護の理念と役割、倫理的看護実践について理解できる。 5. 妊娠・分娩・子育てに伴う女性の心理・社会的変化とその援助について理解できる。
授業計画	<p>第1回：母性看護とは 藤本栄子</p> <p>1) 母性とは？父性とは？ 2) 産むこと・産まないこと・産めないこと（女性の意思決定について考える） 3) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ</p> <p>第2回：親になるとは？ ー妊婦さんの体験談から学ぶー 藤本栄子</p> <p>第3回：人間の性と生殖 命の誕生と性の分化について考える 藤本栄子</p> <p>1) 性分化のメカニズム 2) 人間の性の特徴、人間の性行動、性アイデンティティ</p> <p>第4回：セクシュアリティ 村松美恵・藤本栄子</p> <p>1) 思春期・青年期の性の特徴と看護 2) 成熟期の性の特徴と看護 3) 性周期とホルモン</p> <p>第5回：セクシュアリティ 家族計画と避妊、避妊法の実際（演習） 村松美恵・藤本栄子</p> <p>第6回：女性生殖器、STD、性周期とホルモンによる身体の変化 黒野智子</p> <p>第7回：「妊娠期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第8回：「胎児期～新生児期」ってどんな時期？ー児からの視点ー 室加千佳</p> <p>第9回：「産む」ってどんなこと？ 神崎江利子</p> <p>第10回：「産褥期・育児期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第11回：不妊の女性の看護を考える（母性看護における倫理的課題を含む） 藤本栄子</p> <p>・事例をもとに考えながら、展開する。</p> <p>第12回：「更年期」ってなに？ 黒野智子</p> <p>第13回：母性看護に関する法律と施策 藤本栄子</p> <p>・自分の身近かな人に関わること、社会的問題として取り上げられて いることなどを授業で考えながら、展開する。</p> <p>第14回：看護者とセクシュアリティ 黒野智子</p> <p>第15回：母性看護学概論のまとめ 藤本栄子 他</p>

アクティブ ラーニング	① 教室内でのグループ・ディスカッションを行い、全体での意見交換を行う。 ② セクシュアリティの演習では、グループ・ワークを行う。
評価方法	① 定期試験 90%、②授業中の課題レポート 10% ②の総合点で不可の場合には1回の再試験を行う。
課題に対する フィード バック	・毎回の授業の最期にリアクションペーパーで、学生の皆さんの理解度や意見を書いてもらい、次の担当授業の前、あるいはMoodleを使って、疑問点に応える等の対応をする。 ・必要事、日程等調整の上、個別の疑問にも対応する。
指定図書	森恵美他編『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』医学書院 森恵美他編『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』医学書院
事前・ 事後学修	・Moodle または授業の最後に、次回授業までの課題を提示する。 ・事後学習は、授業の最後またはMoodle で授業内容を問うミニテストを出題する。 ※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明する。
オフィス アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 藤本栄子 (eiko-f@seirei. ac. jp) 黒野智子 (tomoko-k@seirei. ac. jp), 神崎江利子 (eriko-k@seirei. ac. jp) 村松美恵 (mie-t@seirei. ac. jp) 室加千佳 (chika-mu@seirei. c. jp)

科目名	母性看護援助論
科目責任者	神崎 江利子
単位数他	1単位 (30時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	女性のライフステージにおける妊娠期・分娩期・育児（産褥）期・新生児期の母子の生理的な変化とその特徴を生物学的側面と心理社会的側面および日常生活的側面との関連性の中で学修する。また母子とパートナーおよび家族に対しての看護援助（正常からの逸脱の予防を含む）を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「親になること」について心理・社会的側面から理解できる。 2. 妊娠期・分娩期・産褥（育児）期の女性の意思決定を支える支援について理解できる。 3. 妊婦、産婦、褥婦および胎児、新生児についてイメージできる。 4. 妊娠、分娩、産褥という現象を生理学的に理解できる。 5. 妊娠、分娩、産褥という現象が父親と家族に与える心理・社会的変化について理解できる。 6. 妊娠期・分娩期・産褥（育児）期の母子の健康の状態に応じた看護の必要性を認識し、正常からの逸脱を予防する日常生活に着眼した方法について理解できる。 7. 育児期の母子やパートナーおよびその家族の退院後の日常生活をイメージできる。 8. 母性看護の変遷をもとに母性看護の現況を理解し、今後の課題について考えることができる。
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション 母性看護援助論の対象ってどんな人？ 神崎江利子・黒野智子</p> <p>第2回：「妊婦さん」ってどんな人？ 村松美恵</p> <p>第3回：妊婦さんと家族とともに考える妊娠期の看護援助 村松美恵</p> <p>第4回：「産む」ことと「生まれること」の関係 神崎江利子</p> <p>第5回：産婦さんと家族とともに考える分娩期の看護援助 神崎江利子</p> <p>第6回：「こんにちは、赤ちゃん！」 室加千佳</p> <p>第7回：「褥婦さん」ってどんな人？ 神崎江利子</p> <p>第8回：これまでの振り返り／「産褥期・育児期」ってどんな時期？ 神崎江利子</p> <p>第9回：産褥期の観察と母乳育児支援をイメージする（演習） 黒野智子</p> <p>第10回：授乳支援（演習） ロールプレイ 神崎江利子</p> <p>第11回：赤ちゃんのお風呂（沐浴）（演習） 室加千佳・村松美恵</p> <p>第12回：授乳支援／褥婦さんと家族とともに考える赤ちゃんのいる生活 神崎江利子</p> <p>第13回：母性看護の歴史的変遷と母子保健統計 黒野智子・藤本栄子</p> <p>第14回：出生前診断 黒野智子</p> <p>第15回：母性看護援助論のまとめ 神崎江利子</p> <p>※講義および課題学修は1クラス、演習は3クラスに分けて実施予定。 ※具体的な計画は、第1回目の授業で配布する授業進度を参照して下さい。 ※演習は状況により日程変更する場合があります。講義前に必ず moodle で確認して下さい。 ※母性看護学概論で配布した資料を使用することがありますので、忘れずに持参してください。</p>

アクティブ ラーニング	ロールプレイでは、事前学修を元にグループ・ワークやグループ・ディスカッション、全体での発表等をおこないます。演習ではグループワークをおこないます。
評価方法	①定期試験(筆記試験)80% ②産婦看護、授乳支援、沐浴課題レポート、事前・事後学修 (moodle ミニテスト等) への参加度 20% ①、②の総合点で不可の場合は1回の再試験をおこないます。
課題に対する フィード バック	学生から質問があれば、次回の講義、またはmoodle やリアクションシート等にてフィードバックします。また、必要時には面談で対応します。
指定図書	『系統看護学講座 専門 24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門 25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院 ※母性看護学概論と同じテキストを使用いたします。
事前・ 事後学修	・事前学修は、moodle または授業の最後にて、次回授業までの課題を提示します。 ・事後学修は、授業の最後またはmoodle で授業内容を問う回答期限付きミニテストやレポートを出題します。(事前学修は60分程度、事後学修は30～40分程度の時間を要する) moodle へのミニテストの掲載は決められた期間以外にはいたしませんので、必要があればノートの作成を行ってください。 ※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明します。 ※母性看護援助論のお知らせはmoodle を活用しますので、各自で必ず確認するようにしてください。
オフィス アワー	看護学部 1710 研究室 時間については、オリエンテーション時に提示します。 講義内容に関わらず質問があれば、いつでも気軽に e-mail 等で連絡ください。 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、黒野 智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 村松 美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、室加 千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本 栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)

科目名	母性看護援助論演習	
科目責任者	黒野 智子	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター	
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の母子の異常に陥るメカニズムとその母子および家族に対する看護について学修する。また、母子の正常からの逸脱を予防する具体的な看護の方法や母親および家族の意志決定を支える援助について学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊娠期・分娩期・産褥(育児)期・新生児(胎児)期の異常と看護援助(正常からの逸脱を予防する援助を含む)について理解できる。 2. 母子の健康が、母親とそのパートナーの『親になること』に与える影響を考察できる。 3. 妊産婦に関わる看護師、助産師、保健師の役割および多職種との連携を含めた看護援助が理解できる。 4. 母性看護援助を系統的に行うために、看護過程を用いた看護の展開方法を理解できる。 5. 母性看護に特有な看護技術を習得し、どのように実践に応用するかを考察できる。 	
授業計画	<p>第1回：オリエンテーション、出生前診断</p> <p>第2回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護 (1) ～妊娠高血圧症候群、常位胎盤早期剥離の特徴とその看護～</p> <p>第3回：妊娠中におこる危険な出来事とその看護 (2) ～切迫流・早産、耐糖能異常 等の妊娠合併症とその看護～</p> <p>第4回：分娩期におこる危険な出来事とその看護</p> <p>第5回：帝王切開分娩の看護</p> <p>第6回：ハイリスク新生児～新生児の呼吸障害～</p> <p>第7回：退院後の生活をイメージする (演習)</p> <p>第8回：母性看護領域における看護過程展開の手がかり (演習)</p> <p>第9回：母性看護の技 リラクゼーションの支援 (演習)</p> <p>第10回：産褥期の異常</p> <p>第11回：産褥期の辛い出来事とその看護</p> <p>第12回：ハイリスク新生児とその家族の看護 (1) ～ハイリスク新生児の特徴～</p> <p>第13回：ハイリスク新生児とその家族の看護 (2) ～母乳育児支援、Developmental Care、Family centered Care～</p> <p>第14回：母性看護技術の実践への応用</p> <p>第15回：母性看護援助論演習のまとめ</p>	<p>黒野智子、神崎江利子</p> <p>黒野智子</p> <p>黒野智子</p> <p>神崎江利子、黒野智子</p> <p>黒野智子</p> <p>大木茂</p> <p>特別講師：宇田公美子</p> <p>黒野智子</p> <p>村松美恵</p> <p>成瀬寛夫</p> <p>村松美恵、黒野智子</p> <p>室加千佳、黒野智子</p> <p>室加千佳、黒野智子</p> <p>村松美恵、室加千佳、黒野智子</p> <p>黒野智子</p>
	<p>※演習は、3 グループに分かれて実施するため、進度の順序が変わることがある。 詳細は、第1回オリエンテーションで説明する。</p>	

アクティブ ラーニング	第9回、第14回は、会得した看護技術をどのように実際の臨床場面でどのように活かせるか、ディスカッションを通して考える。 第12回は、事前学修を元に、でひすかッションを通して、学生同士の学びを深める。
評価方法	定期試験（筆記試験）90%、事前・事後学修（課題レポートを含む）10% 不可の場合は1回の再試験をおこなう。
課題に対する フィード バック	授業の中で質問に答えるか、リアクションシートで質問に答える。また、リアクションシートの質問内容で多いものや大事だと思う内容については、次回の授業またはMoodle上で回答する。
指定図書	『系統看護学講座 専門24 母性看護学[1]』森恵美編、医学書院 『系統看護学講座 専門25 母性看護学[2]』森恵美編、医学書院
事前・ 事後学修	・Moodle上または授業の最後に、次回授業までの課題を提示する。 ・事後学修は、授業の最後またはMoodle上で授業内容を問う回答期限付きミニテストまたは課題を提示する。 ※事前・事後学修は、それぞれ45分程度分程度の時間を要する。 ※詳細は、第1回のオリエンテーションで説明する。
オフィス アワー	看護学部、1709研究室。 時間については、初回の授業で提示するが、いつでも予めメールで問い合わせいただければ、可能な限り対応します。 E-Mail : ;tomoko-k@seirei.ac.jp

科目名	母性看護学実習
科目責任者	村松 美恵
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	妊婦・産婦・褥婦と夫（パートナー）、夫および家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護家庭を用いて、親となって（あるいは新たな役割を引き受けて）新たな家族形成を必要とする人々に対する看護を学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）の特徴を理解できる。 2. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）、夫および家族に対して積極的な関心を持ち、適切な対人関係のもとに看護の展開ができる。 3. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）の理解に基づき、現在の健康状態を明らかにし、経過に適したニーズの特定、看護計画の立案、実施、評価することができる。 4. 妊産婦と胎児もしくは新生児（低出生体重児を含む）と夫、およびその家族の権利を擁護し、看護者としての倫理を実践できる。 5. 母性看護に特有な看護技術を適切に実践できる。 6. 妊産婦と新生児（低出生体重児を含む）、夫および家族に必要な関係職種との専門性を生かした連携・協同、看護職に期待されている役割が理解できる。 7. 自ら進んで、労を厭わず多面的な経験をし、看護の概念の理解を深めることができる。 8. 学生間でメンバー・リーダーの役割を担うだけでなく、保健・医療・福祉チームの一員としての役割と責任が自覚できる。 9. 緊急時の看護職の果たす役割を理解できる。 10. 自己の健康管理を行い、看護専門職となるため自己を律して責任ある実習態度をとることができる。
授業計画	<p><担当教員名> 村松美恵、黒野智子、神崎江利子、室加千佳、藤本栄子</p> <p>実習方法：実習場所は、聖隷三方原病院、聖隷浜松病院の2つの施設と地域での子育て支援ひろば等を使用して行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 産褥・新生児看護実習：1組の母子を1～2名の学生で、継続して受け持つ。 2. 産婦看護実習：選択実習で、事前に課題レポートを提出すること。Moodleで、選択の有無の調査および課題内容の提示を行う。帝王切開分娩を受け持つこともある。 3. 産婦看護実習・子育て（育児）支援実習：助産外来、出産準備クラス（母親学級など）、母乳外来、地域の子育て支援事業等に参加し、妊娠中や退院後の母児（およびその家族）の理解につなげると共に、看護者と関連職種との連携についても学習する。 4. 低出生体重児看護実習：聖隷浜松病院NICU・GCUにて、シャドーイング実習を行う。 5. 妊産婦の栄養について具体的な献立・調理を通して、保健指導案を作成する。 6. 緊急時（災害も含む）における妊産婦への支援について考えることができる。 <p>※実習スケジュールの詳細は、Moodleに掲載された日程にg-mail配信します。また、実習に関する様々な情報は、moodleまたはg-mailで配信しますので、必ず確認して下さい。</p>

アクティブ ラーニング	自ら進んで、労を厭わず多面的な経験をし、学ぶ実習科目である。
評価方法	事前・事後学修（技術練習・レポート）15% 実習姿勢・実習記録（自己評価表に記載された項目参照）85%
課題に対する フィード バック	学生の疑問に対しては、日々のカンファレンスにて行う。必要時、個別面談を行う。
指定図書	母性看護学概論、母性看護援助論、母性看護援助論演習（2・3年次）で使用した教科書
事前・ 事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・「母性看護 楽しい自己学習ノート!!」、「母性看護実習 事前学習ワークブック」の設問は実習までに全て完成させておくこと。講義時の配布資料も活用すること。 ・母性看護実習室（母性領域側）の沐浴槽は、学生が自主的に練習できるように準備している。使用希望時間を予約表に記載し、使用手順をよく読み、実習前までに必ず練習すること。使用方法、後片付けの方法は、Moodle に掲示している。 ・実習期間中に各自 1 冊ずつ実習に関するファイルを貸し出す。また、事前に実習でどのようなことをするのか確認したい場合は、実習室の中でのみ閲覧可能な同様のファイルがあるため、必要時活用すること。 ・1 日の実習終了後、振り返りやアセスメント、翌日の実習行動計画の記載などに 2～3 時間要する。
オフィス アワー	看護学部、2711 研究室。時間については、オリエンテーション時に提示する。 村松美恵 (mie-t@seirei.ac.jp)、黒野智子 (tomoko-k@seirei.ac.jp) 神崎江利子 (eriko-k@seirei.ac.jp)、室加千佳 (chika-mu@seirei.ac.jp) 藤本栄子 (eiko-f@seirei.ac.jp)

科目名	小児看護学概論	
科目責任者	市江 和子	
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 3セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	看護や養護の対象である小児の特性を、子どもを取り巻く環境と成長・発達 の側面から学ぶ。また、健全な発達を支援する小児保健に関する施策の意義と内容を、保健医療、福祉、教育の面から検討し、発達段階別の生活と養護について理解する。さらに、小児の各発達段階に応じた健康の維持増進を支援する小児看護の機能と役割について理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児の成長・発達について学び、身体的・精神的・社会的特徴を理解する。 2. 小児保健の動向をとらえ、小児における保健・医療・福祉について理解する。 3. 小児期における基本的な生活習慣、健康診査、予防接種について学び、小児とその家族の健康をまもるための支援を理解する。 4. 小児期特有の事故について学び、安全教育の必要性を知り、事故対策および救急法の具体的な援助を理解する。 5. 子どもの権利と小児看護における倫理的問題を理解する。 6. 小児医療と小児看護における看護職の果たす役割を理解する。 	
授業計画	<p>第1回 小児の概念と小児看護の理念および役割 成長・発達に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第2回 小児の成長・発達の概観① (成長・発達の原則、影響要因)</p> <p>第3回 小児の成長・発達の概観② (形態的成長・発達)</p> <p>第4回 小児の成長・発達の概観③ (機能的発達)</p> <p>第5回 小児の成長・発達の概観④ (心理社会的発達・発達の評価)</p> <p>第6回 基本的な生活習慣の発達とその援助① (新生児、乳児)</p> <p>第7回 基本的な生活習慣の発達とその援助② (幼児、全般)</p> <p>第8回 基本的な生活習慣の発達とその援助③ (離乳食について)</p> <p>第9回 事故の予防と安全教育 (救急法を含む)</p> <p>第10回 小児保健の動向① (小児を取り巻く社会環境、小児保健に関する統計)</p> <p>第11回 小児保健の動向② (小児をめぐる法律と施策)</p> <p>第12回 予防接種</p> <p>第13回 乳幼児期の健康診査と保健指導</p> <p>第14回 子どもの人権と倫理的問題 権利・倫理的問題に関するワークシートと学習の進め方</p> <p>第15回 小児看護・医療の変遷と展望</p>	<p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>宮谷 恵</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p>

アクティブ ラーニング	授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や全体・個別メール、ムードルで返答する。 「基本的な生活習慣の発達とその援助③（離乳食について）」においては、離乳食に関する演習を実施する。
評価方法	筆記試験 90%、課題 10%だが、授業への参加状況等も加味して総合的に評価する。
課題に対する フィード バック	学習内容に関するワークシートを課題とし、学習の進め方を随時説明する。授業の関係する講義内容時に、課題についてフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』、オーム社、2014 厚生労働統計協会編：『国民衛生の動向』2016/2017、厚生労働統計協会、2016
事前・ 事後学修	成長・発達、小児保健に関するワークシートで、1回の講義に40分程度、事前学修を進めてください。担当教員が、適宜、ミニテスト等を実施しますので、事後学修として復習してください。
オフィス アワー	市江和子：金曜日午前（1712 研究室） Kazuko-i@seirei.ac.jp 宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp

科目名	小児看護援助論 I																															
科目責任者	小出 扶美子																															
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター																															
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。																															
科目概要	小児期の特徴的な疾病について学修する。また、健康障害・入院が小児と家族に及ぼす影響について学び、健康を障害された子どもとその家族を理解し、子どもの成長・発達段階、健康レベル及び子どもと家族の権利をふまえた看護援助の方法を学ぶ。																															
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期におこりやすい疾患の病理、病態および治療を理解する。 2. 小児期におこりやすい健康障害のさまざまな症状に対する看護の方法を理解する。 3. 健康障害および入院が子どもとその家族に及ぼす影響を理解する。 4. 子どもと家族の権利をふまえた看護援助として、プレパレーションの必要性とその方法及び内容を理解する。 5. 健康障害および入院が子どもとその家族に及ぼす影響を理解し、その影響を最小限とするための看護援助を考えることができる。 																															
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護</td> <td>小出扶美子</td> </tr> <tr> <td>第2回： 外来における子どもと家族の看護</td> <td>小出扶美子</td> </tr> <tr> <td>第3回： 子どもの疾患① (出生前・新生児疾患)</td> <td>大木 茂</td> </tr> <tr> <td>第4回： 子どもの疾患② (外来でよくみる疾患・呼吸器疾患)</td> <td>松林 正</td> </tr> <tr> <td>第5回： 子どもの疾患③ (子どもの感染症)</td> <td>松林 正</td> </tr> <tr> <td>第6回： 子どもの疾患④ (子どものがん)</td> <td>松林 正</td> </tr> <tr> <td>第7回： 子どもの疾患⑤ (子どもの循環器疾患)</td> <td>松林 正</td> </tr> <tr> <td>第8回： 子どもの疾患⑥ (子どもの消化器疾患、腎疾患)</td> <td>岡田真人</td> </tr> <tr> <td>第9回： 子どもの疾患⑦ (子どもの神経疾患)</td> <td>岡田真人</td> </tr> <tr> <td>第10回： 子どもとプレパレーション① (入院している子どもにとっての遊びの意義、プレパレーションとは)</td> <td>小出扶美子</td> </tr> <tr> <td>第11回： 子どもとプレパレーション② (子どもの権利とプレパレーション、プレパレーションの方法と内容)</td> <td>小出扶美子</td> </tr> <tr> <td>第12回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① (発熱、脱水)</td> <td>山本智子</td> </tr> <tr> <td>第13回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② (呼吸困難、痙攣、発疹、他)</td> <td>山本智子</td> </tr> <tr> <td>第14回： 急性期にある子どもと家族の看護</td> <td>小出扶美子</td> </tr> <tr> <td>第15回： 慢性期にある子どもと家族の看護</td> <td>小出扶美子</td> </tr> </table>		第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	小出扶美子	第2回： 外来における子どもと家族の看護	小出扶美子	第3回： 子どもの疾患① (出生前・新生児疾患)	大木 茂	第4回： 子どもの疾患② (外来でよくみる疾患・呼吸器疾患)	松林 正	第5回： 子どもの疾患③ (子どもの感染症)	松林 正	第6回： 子どもの疾患④ (子どものがん)	松林 正	第7回： 子どもの疾患⑤ (子どもの循環器疾患)	松林 正	第8回： 子どもの疾患⑥ (子どもの消化器疾患、腎疾患)	岡田真人	第9回： 子どもの疾患⑦ (子どもの神経疾患)	岡田真人	第10回： 子どもとプレパレーション① (入院している子どもにとっての遊びの意義、プレパレーションとは)	小出扶美子	第11回： 子どもとプレパレーション② (子どもの権利とプレパレーション、プレパレーションの方法と内容)	小出扶美子	第12回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① (発熱、脱水)	山本智子	第13回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② (呼吸困難、痙攣、発疹、他)	山本智子	第14回： 急性期にある子どもと家族の看護	小出扶美子	第15回： 慢性期にある子どもと家族の看護	小出扶美子
第1回： 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護	小出扶美子																															
第2回： 外来における子どもと家族の看護	小出扶美子																															
第3回： 子どもの疾患① (出生前・新生児疾患)	大木 茂																															
第4回： 子どもの疾患② (外来でよくみる疾患・呼吸器疾患)	松林 正																															
第5回： 子どもの疾患③ (子どもの感染症)	松林 正																															
第6回： 子どもの疾患④ (子どものがん)	松林 正																															
第7回： 子どもの疾患⑤ (子どもの循環器疾患)	松林 正																															
第8回： 子どもの疾患⑥ (子どもの消化器疾患、腎疾患)	岡田真人																															
第9回： 子どもの疾患⑦ (子どもの神経疾患)	岡田真人																															
第10回： 子どもとプレパレーション① (入院している子どもにとっての遊びの意義、プレパレーションとは)	小出扶美子																															
第11回： 子どもとプレパレーション② (子どもの権利とプレパレーション、プレパレーションの方法と内容)	小出扶美子																															
第12回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護① (発熱、脱水)	山本智子																															
第13回： さまざまな症状を示す子どもと家族の看護② (呼吸困難、痙攣、発疹、他)	山本智子																															
第14回： 急性期にある子どもと家族の看護	小出扶美子																															
第15回： 慢性期にある子どもと家族の看護	小出扶美子																															

アクティブラーニング	第 11 回目の講義時に、プレパレーションの方法と内容について、採血などの検査や処置を例にあげて具体的に考える。その講義をふまえ、課題で、いくつかの検査や処置のプレパレーションの内容を考え、提出する。
評価方法	筆記試験 95%、課題 5%だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	プレパレーションの課題は、提出後評価し、内容に対するコメントをつけたのち、返却する。また、講義時に課題にあげたプレパレーションのフィードバックを行う。
指定図書	市江和子編：『小児看護学』オーム社 2014 奈良間美保編『系統看護学講座 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』医学書院
事前・事後学修	講義予定表に記載してある授業テーマと関連する教科書の章を読むこと。また、看護に関する講義は自己学習のノートを配布するので、講義後に講義内容の要点をノートで復習する。医師による講義は、講義で取り上げた疾患を教科書で事後学修する。 1 コマあたりの時間の目安は予習 20 分、復習 20 分。
オフィスアワー	小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室）fumiko-k@seirei.ac.jp 山本 智子：月曜日午後（2707 研究室）tomoko-y@seirei.ac.jp

科目名	小児看護援助論Ⅱ	
科目責任者	宮谷 恵	
単位数他	1単位(30時間) 必修 5セメスター	
科目の位置付	(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	小児の発達段階と健康レベルをふまえ、健康障害および発達障害をもつ小児および家族への看護援助を理解し、基本的な技術と態度を学ぶ。小児看護学概論、小児看護援助論Ⅰで学習した知識、技術を、事例展開や演習を活用して実践し、小児と家族へのより適切な援助や養護の重要性の理解を深める。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 小児期におこりやすい健康障害をもつ小児とその家族への看護の方法を理解する。 2. 健康障害および発達障害が小児とその家族に及ぼす影響を理解する。 3. 小児看護を実践するために、基本的な看護過程及び特有な看護技術を理解する。 4. 他領域も含め学んできた知識を用いて、健康障害および発達障害をもつ小児とその家族の特性を考慮した看護援助について考察することができる。 	
授業計画	<p>第1回： 腎臓に障害をもつ子どもと家族の看護</p> <p>第2回： 循環器に障害をもつ子どもと家族の看護</p> <p>第3回： 悪性新生物の子どもと家族の看護</p> <p>第4回： 心身障害をもつ子どもと家族の看護</p> <p>第5回： 障害をもち在宅生活する子どもと家族の看護</p> <p>第6回： 周手術期の子どもと家族の看護</p> <p>第7回： 検査・処置を受ける子どもの看護① (検査・処置を受ける子どもと家族の体験と援助)</p> <p>第8回： 検査・処置を受ける子どもの看護② (採血、与薬、輸液方法等の検査・処置について)</p> <p>第9回： 小児の看護過程①(看護過程の基本と看護診断)</p> <p>第10回： 小児の看護過程② (事例を用いた看護過程の展開の実際：健康障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第11回： 小児の看護過程③ (事例を用いた看護過程の展開の実際：障害をもつ子どもと家族の看護)</p> <p>第12回： 小児のフィジカル・アセスメント① (総論、一般状態、頭部・頸部、胸部・背部、リンパ系、皮膚等)</p> <p>第13回： 小児のフィジカル・アセスメント② (腹部、四肢、臀部等、心臓・血管系、筋・骨格系、神経系)</p> <p>第14回： 小児看護技術演習①(オリエンテーション)</p> <p>第15回： 小児看護技術演習②(実技演習)</p>	<p>宮谷 恵</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>宮谷 恵</p> <p>宮谷 恵</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>小出扶美子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>市江和子</p> <p>山本智子</p> <p>山本智子</p> <p>宮谷 恵</p> <p>宮谷 恵、市江和子、小出扶美子、山本智子</p>

アクティブラーニング	第 15 回目に実技演習を行う。また授業ごとにリアクションペーパーでの質問、意見には授業時や個別メール、ムードルで返答する。
評価方法	筆記試験 100% だが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価する。
課題に対するフィードバック	ワークシートへの回答は、授業時に提示する。
指定図書	市江和子編：『看護系標準教科書 小児看護学』、オーム社、2014 奈良間美保編：『系統看護学講座 23 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論』、医学書院
事前・事後学修	事前学習としては、その日の授業内容（テーマ）をあらかじめ確認し、小児看護学関連だけでなく他の授業科目の内容でも、すでに学習している関連事項について復習する。事後学習はその日のうちに、配布資料等を見直してわからなかったことを調べ、学びを定着させる。1 コマあたりの時間の目安は事前学習 20 分、事後学習 20 分。
オフィスアワー	宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp 小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp 市江和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp 山本智子：月曜日午後（2707 研究室） tomoko-y@seirei.ac.jp

科目名	小児看護学実習
科目責任者	小出 扶美子
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	臨地における実習を通して小児看護に必要な知識と技術を学び、小児看護についての理解を深め、基礎的な看護が実践できる能力と態度を養うことを目的とする。目的を達成するために、3つの実習を行う。こども園実習Ⅰは乳幼児とかかわることにより日常生活の実際を知り、小児への理解を深め、小児とのコミュニケーションの取り方を学ぶ。こども園実習Ⅱ（保育園含む）は健康な小児の保育に参加し、日常生活の援助の実際を通して、小児に適した援助の方法を学ぶ。病院実習は健康を障害した小児や、発達に障害をもつ小児を受け持ち、看護過程を展開し、小児とその家族を総合的に理解し、小児とその家族への看護を学ぶ。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. こども園実習Ⅰ <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴を考慮することができる。 2) 小児との関わり方を学ぶことができる。 2. こども園実習Ⅱ (保育園含む) <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴が理解できる。 2) 家庭・地域社会など小児をとりまく状況が理解できる。 3) 小児に適した生活援助を実践することができる。 3. 病院実習 <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の成長・発達の特徴が理解できる。 2) 小児の現在の健康レベルが理解できる。 3) 健康障害・発達障害や入院・受診が小児と家族に及ぼす影響を理解できる。 4) 小児と家族の理解に基づき看護過程が展開できる。 5) 小児と家族の状況に応じた看護援助が実践できる。 4. 全体を通して <ol style="list-style-type: none"> 1). 小児と家族との適切な関係をもつことができる。 2) 小児への安全な技術を提供し、適切な対応が理解できる。 3) 小児と家族の権利の擁護および、看護者の倫理を学ぶ。 4) 社会の動きをとらえ、関連職種の活動を理解し、看護職の役割を実践できる。 5) 看護学生としてふさわしい態度で実習できる。
授業計画	<p><担当教員名>小出扶美子、宮谷 恵、市江和子、山本智子</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習場所 <ul style="list-style-type: none"> ・こども園実習Ⅰは、聖隷クリストファー大学附属クリストファーこども園で行う。 ・こども園実習Ⅱ（保育園含む）は、浜松市内の聖隷こども園わかば、聖隷こども園桜ヶ丘、聖隷こども園ひかりの子、和光こども園、なごみこども園、ひばり保育園のうち、いずれか一ヶ所で行う。 ・病院実習は、聖隷浜松病院・聖隷三方原病院の小児病棟（病棟の状況によって小児科外来またはPICUの見学を含む）、聖隷浜松病院小児科外来、聖隷おおぞら療育センター（重症心身障害児者の施設）のうち、いずれか一ヶ所で行う。 2. 実習期間：臨地実習は2週間行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・学内実習日（実習オリエンテーション、記録の整理等）2日間 ・こども園実習Ⅰ 1日間 ・こども園実習Ⅱ（保育園含む）2日間 ・病院実習5日間

	<p>3. 実習計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園実習Ⅰは、小児看護学実習の導入実習である。こども園実習Ⅱ（保育園含む）と病院実習に先行した時期の10月から11月、2月から3月のいずれかで行う。 ・こども園実習Ⅱ（保育園含む）と病院実習の実習計画は、事前に配布する小児看護学実習配置表に記載している。 <p>4. 実習内容</p> <p>それぞれの実習の内容についての詳細は、実習オリエンテーションで説明をする。</p>
アクティブ ラーニング	実習科目。
評価方法	各実習目標の達成度を評価票の評価基準にそって評価する。
課題に対する フィード バック	事前学習課題及び実習中の課題は実習中にその都度確認し、個々にフィードバックを行う。
指定図書	実習中に提示をする。
事前・ 事後学修	<p>Moodle 内にある小児看護学HPの実習用事前学習課題にそい、小児の成長・発達や小児看護実践に必要な知識と看護技術について事前学習をする。また、HPに記載してある「子どもに慣れるための方法・ヒント」を読み、子どもとの関わり方を参考にする。</p> <p>実習中の学修は教員の指示にそい、実習記録を進めていく。</p> <p>実習用事前学習課題は4時間程度、実習中の日々の事前学習1時間、事後学習(実習の振り返り、看護過程の展開)は1～2時間程度とする。</p>
オフィス アワー	<p>小出扶美子：月曜日午後（2713 研究室） fumiko-k@seirei.ac.jp</p> <p>宮谷 恵：月曜日午後（1713 研究室） megumi-m@seirei.ac.jp</p> <p>市江 和子：金曜日午前（1712 研究室） kazuko-i@seirei.ac.jp</p> <p>山本 智子：月曜日午後（2707 研究室） tomoko-y@seirei.ac.jp</p>

アクティブ ラーニング	当事者の主観的体験をふまえた看護をおこなうための視座を養うために、自己理解および、対象理解のための演習をおこないます。結果は全体に対して解説し、それを受けて課題レポートを作成し Moodle にて提出します。これまでの自分自身のありようや、物事に対する考え方や構え、捉え方の癖などについてあらためて振り返り、「自分の言葉」で「自分の考え」を表現することから始める必要があります。適宜課せられる指定図書による予習・復習および、学んだことや疑問を整理して記述するリアクションペーパーへの言語化は各単元の理解を深める上で特に重要です。
評価方法	定期試験 100%ですが、課題レポート、リアクションペーパーの内容も加味して、総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	演習及び課題レポートの結果については、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクションペーパーの記述、質問については個人が特定されない形で適宜資料にて全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけとします。
指定図書	「精神疾患の治療と看護」安西信雄・青木民子編集、南江堂（2008） 「看護のための精神医学」中井久夫・山口直彦 医学書院 第2版（2004）
事前・ 事後学修	事前・事後学習：授業内容に関連する資料は毎回配布します。適宜指定図書および、配布資料内から 40 分程度で可能な事前・事後学修を課します。
オフィス アワー	入江は看護学部の所属（3403 研究室 taku-i@seirei.ac.jp）です。授業内容に関する質問や面談を希望する場合は、メールにてアポイントを取るか、講義後に声をかけてください。時間調整をして応じます。

科目名	精神看護援助論 I	
科目責任者	小平 朋江	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 4 セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	精神看護学の枠組みや看護援助のための知識を踏まえ、看護過程など臨床で精神疾患を持った対象者に対してどのように治療的に関わっていくか、その援助のあり方を具体的に学びます。精神疾患を抱えながら生きる対象者は、どのような体験をしているのかに関心を持てることが大切です。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神看護学で必要とされている知識と技術を理解できる。 2. 精神疾患を抱えながら生きる対象者が体験していることと呈する症状・状態を関連させて看護援助について記述できる。 3. 精神看護学で使用する各種の理論とそのアプローチの方法を理解できる。 4. 精神保健福祉および精神医療体制の現状を理解できる。 5. 「入院している場」と「生活している場」とを結び付けてイメージできる。 	
授業計画	<p>第 1 回：精神看護学の概観①精神医療の概念枠組み</p> <p>第 2 回：精神看護学の概観②精神看護学の看護過程</p> <p>第 3 回：精神科臨床の流れ</p> <p>第 4 回：統合失調症をもつ人の体験世界</p> <p>第 5 回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（急性期）</p> <p>第 6 回：統合失調症をもつ人の心の理解と看護（慢性期）</p> <p>第 7 回：神経症性障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 8 回：パーソナリティ障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 9 回：気分（感情）障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 10 回：摂食障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 11 回：アルコール使用障害をもつ人の心の理解と看護</p> <p>第 12 回：薬物療法と看護</p> <p>第 13 回：精神科リハビリテーションと地域におけるサポートシステム</p> <p>第 14 回：精神看護における援助的人間関係とは</p> <p>第 15 回：まとめ</p>	<p>入江 拓</p> <p>入江 拓</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p> <p>清水隆裕</p> <p>清水隆裕</p> <p>小平朋江</p> <p>小平朋江</p>

アクティブ ラーニング	授業後のリアクションペーパーでは、疾患や障害の特徴を踏まえて自分はどうな関わりや看護援助をしたいか具体的に考え、記述することを通して、学生なりの看護援助を説明する経験を積み重ねていきます。授業の中で活用する「ナラティブ教材」(病いや障害の語りの教材)を参照し、授業進行中の期間にナラティブに関連の資料を本学の図書館などで探してみます。このような資料に触れることで、学生自身の気づきや学びを手がかりに、病いの体験を知ることが大切です。そして、授業の終盤で2~3人の小さなグループで話し合う時間を持ち、当事者視点の病いの体験について考えます。
評価方法	定期試験 100%ですが、授業への参加状況・授業内に提出するリアクションペーパーの提出状況も加味して総合的に評価します。
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーに記述される気づきや学び、疑問を講義でフィードバックして共有しながら、授業を進めていきます。
指定図書	川野雅資編「精神看護学Ⅱ 精神臨床看護学 第6版」NOUVELLE HIROKAWA 田中美恵子編著「精神看護学 第2版 学生-患者のストーリーで綴る実習展開」医歯薬出版
事前・ 事後学修	指定図書を活用して毎回の授業内容に関連したページを具体的に指示します。その指示された部分を事前・事後学修として良く読んで授業に出席すること。加えて、授業時、配布する資料を用いての事前・事後学修についても指示します。事前・事後学修時間の目安は40分程度です。配布資料は実習でも活用するため保管しておくこと。
オフィス アワー	科目責任者 小平朋江 (3401 研究室:tomoe-k@seirei.ac.jp) 精神看護学実習で実習病院に出向いている時間帯が多いため、面接予約などは早めにメールで連絡を入れて下さい。

科目名	精神看護援助論Ⅱ
科目責任者	式守 晴子
単位数他	1単位 (30時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療の歴史および関連法規の変遷がその社会背景をふまえて説明できる。 2. ライフサイクル各期における精神保健の課題が説明できる。 3. 地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識を理解し、説明できる。 4. 精神疾患により入院治療中の対象者の理解と、看護過程の展開に必要な方法を、実習記録フォーマットに沿って整理することができる。
到達目標	ライフサイクル各期における精神保健の課題について精神保健上の意味を再検討し、さらに地域で暮らす精神障がい者への精神保健指導、生活支援に必要な基本的な知識と方法を学修する。さらにこれまでの学習をもとに、精神看護の看護過程を展開する際に必要な知識と方法について整理し、理解を深める。
授業計画	<p>第1回：神医療の歴史と看護、関連法規・政策の変遷</p> <p>第2回：精神看護における倫理と関連法規の復習（行動制限）</p> <p>第3回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（こども・学校）</p> <p>第4回：ライフサイクル各期の精神保健の課題（職場・高齢者・自殺）</p> <p>第5回：精神保健関連法規・地域精神保健活動Ⅰ（退院支援他）</p> <p>第6回：地域精神保健活動Ⅱ（就労支援など地域の資源）</p> <p>第7回：精神看護におけるアセスメント技法</p> <p>第8回：精神看護における看護診断・看護計画の立て方</p> <p>第9回：精神看護における患者・看護師の関係（プロセスレコード）</p> <p>第10回：精神看護における全人的理解のための試み</p> <p>第11回：精神看護実習における情報の整理と活用</p> <p>第12回：薬物療法①（薬理作用等の復習）</p> <p>第13回：薬物療法②（精神看護と薬物療法）</p> <p>第14回：看護過程の展開と評価（実習にむけて）</p> <p>第15回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	地域精神保健活動における課題、プロセスレコードなどグループで課題をまとめ発表する。 学生と質疑応答しながら講義を進めるため、予習・復習が必要です。
評価方法	定期試験 80% レポート 20%を基本としますが授業への参加状況・授業内に提出するリアクシ ョンペーパーの提出状況も加味して、総合的に評価します。
課題に対す るフィード バック	演習及び課題レポートについては、全体に対して資料および、講義内で解説します。リアクシ ョンペーパーの記述、質問については全体に対してフィードバック、共有し、学習の動機づけ とします。
指定図書	川野雅資：精神看護学 I 精神保健学 第 6 版、Nouvelle HIROKAWA, 安西信雄・青木民子編集 「精神疾患の治療と看護」南江堂 (2008) 中井久夫・山口直彦 「看護のための精神医学」医学書院 第 2 版 (2004)
事前・ 事後学修	毎回、指定図書および配布資料等から 40 分程度で可能な課題を事前・事後学修として提示しま す。
オフィス アワー	式守は看護学部の所属 (3411 研究室 haruko- s@seirei. ac. jp) です。質問や面談を希望する場 合は、メールにてアポイントを取り、おいでください。

科目名	精神看護学実習
科目責任者	清水 隆裕
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	精神医学的問題を抱える、または精神看護的アプローチを必要とする患者・クライアント（以下対象者とする）への看護を実践を通じて学ぶ。それは対象者の置かれた状況に応じた看護過程を使った看護展開を行うことにより学修する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 対象者の全人的理解ができる。記録類の活用および対象者との対応等を通じ、対象者を身体/生物学的側面・精神/心理学的側面・文化/社会学的側面・実存/人間学的側面から説明ができる。 2. 精神看護診断を行うことができる。精神看護診断の手続きを実行、表記することができる。 3. 看護計画を立てることができる。インフォームド・コンセントに留意しながら、個々の対象者に対応した援助計画を立てることができる。可能な限り対象者の同意を得た看護計画とする。 4. 計画に基づいた日常生活の援助ができる。精神力動に留意しながら看護計画に基づいた日常生活の援助を実施することができる。 5. 得られた結果から看護の評価、修正を行うことができる。ISOAP で看護過程を記載することにより、柔軟に情報の補充・修正、看護計画の修正を行うことができる。 6. 治療的環境としての自己活用ができる。ペプロウの理論を参照しながら、出会いから別れまでを丁寧に営み、治療的な対人関係の基本を体験学習するとともに治療的環境としての看護師のあり方を下記を通じ学ぶ。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 自己の内面にある偏見や価値観との葛藤を、学生のカンファレンスや教員との面接で言語化することができる。 2) 必要時、プロセスレコードを利用し治療的態度や距離を吟味しながら、対象者へ看護を行うことができる。 7. 記録の記述、整理および活用ができる。 8. 対象者の体験、語りを尊重した対人理解ができる。
授業計画	<p>担当教員／清水隆裕、式守晴子、入江拓、小平朋江</p> <p>実習場所は聖隷三方原病院精神科急性期閉鎖病棟(C6 病棟)、精神科身体合併症閉鎖病棟(C5 病棟)朝山病院一般病床閉鎖病棟(3 病棟)、精神一般病床準開放病棟(4 病棟)精神一般病床閉鎖病棟(5 病棟)の 5 箇所のうち 1 箇所にて 2 週間おこなう。</p> <p>詳細は実習オリエンテーションで説明します。</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習態度 40% (言葉遣い、スタッフ・患者への挨拶、積極性など) 実習内容 40% (対象者に対するかかわり、コミュニケーション、看護ケア) 実習記録 20% (提出期限や内容)
課題に対する フィード バック	日々の記録物や自己学習課題へのコメント、実習の内容を振り返る面接セッション
指定図書	精神看護学概論・精神看護援助論Ⅰ・精神看護援助論Ⅱで使用した教科書。
事前・ 事後学修	授業内容を復習して、実習に臨むこと。事後学修は適宜教員から示された課題を含め、記録や知識の整理等、毎日 120 分程度の自己学習を習慣づけてください。
オフィス アワー	清水隆裕：看護学部 1214 研究室 e-mail : takahiro-sh@seirei.ac.jp 時間や各実習担当教員への連絡方法については、実習オリエンテーション時にお知らせします。

科目名	在宅看護学概論	
科目責任者	酒井 昌子	
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 5セメスター	
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。	
科目概要	1. 在宅看護の基本的な理念や変遷を知り在宅看護の基本的な考え方を理解する。 2. 在宅看護支援の基盤となる介護保険や医療保険などの制度とそのしくみを理解する。 3. 在宅看護における支援の基本を理解する。ぶ	
到達目標	人々が自分の暮らしの場で医療や介護を受けたいと思ったとき、その望みをかなえる専門職として、訪問看護師をはじめとした在宅ケアに関わる看護職の役割が重要であり、その発展が期待されています。ここでは在宅看護の特徴や基本的な知識、考え方を学び、看護活動の対象や場、支援のあり方を深める。	
授業計画	<p>第 1 回：在宅ケアを必要とする背景</p> <p>第 2 回：在宅看護の目的と位置づけ (定義、目的、位置づけ、提供機関)</p> <p>第 3 回：在宅看護の基本理念</p> <p>第 4 回：在宅看護の対象の理解</p> <p>第 5 回：在宅看護を支える制度 医療保険制度、介護保険制度、障害者支援に関する制度</p> <p>第 6 回：在宅看護の制度と機能 (訪問看護のしくみ、機能、実施形態、)</p> <p>第 7 回：訪問看護の実際</p> <p>第 8 回：ケアマネジメント (ケアマネジメントとは何か、社会資源、連携)</p> <p>第 9 回：退院支援</p> <p>第 10 回：家族看護論① 家族を支援するための理論 (家族発達、家族システム)</p> <p>第 11 回：家族看護論② 家族を支援するための理論 (家族ストレス対処)</p> <p>第 12 回：家族看護論③ 家族看護アセスメント</p> <p>第 13 回：在宅看護過程の展開 (目的、特徴、在宅看護計画案の実際)</p> <p>第 14 回：在宅看護におけるリスクマネジメント (リスクマネジメントの概念、在宅におけるアクシデントの特徴、リスクマネジメントの実際)</p> <p>第 15 回：地域包括ケアシステムと看護</p>	<p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>訪問看護 ST 所長</p> <p>酒井昌子</p> <p>聖隷三方原病院 大木純子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>山村江美子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p> <p>酒井昌子</p>

アクティブ ラーニング	ワークブックと moodle を活用し学修を進めます。
評価方法	「定期試験 70%、小（中間） 10%、授業態度 10%、課題提出 10%、計 100%」
課題に対する フィード バック	筆記試験の解答例の提示、小（中間）テストの解説、リアクションペーパーのコメントや、講義の進行に合わせたワークブックの提出によってフィードバックします。
指定図書	河原加代子著者代表（2017）. 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第 5 版、医学書院
事前・ 事後学修	ワークブックは、1 単元毎に事前学修（計 40 分程度）の内容を提示します。授業および Moodle を通じて模範回答を提示していきますので、ワークブックによる事前学修をして授業に臨むこと。
オフィス アワー	講義終了後の休憩時間に研究室に待機します。臨地実習等により変更があるためメールにて在室の確認を行って下さい。酒井昌子（3410 研究室；masako-s@seirei .ac.jp） 山村江美子(3412 研究室;emiko-y@seirei.ac.jp)

科目名	在宅看護援助論
科目責任者	山村 江美子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 5セメスター
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	在宅という生活の場において実践される在宅看護の特性を理解するために、在宅看護の知識および具体的な訪問看護技術を学び、事例演習を通して在宅看護過程の展開を理解する。在宅看護の対象である、療養者と家族のセルフケア機能が発揮される看護援助のあり方を学習する。
到達目標	1. 在宅看護過程の展開方法を学び、生活の場ならではの視点を説明することができる。 2. 生活の場における看護実践の特性と、訪問看護技術を理解し説明することができる。 3. 療養者・家族の健康段階に合わせた看護職の支援のあり方と役割について説明できる。 4. 終末期にある療養者と看取る家族の体験を理解し、看護援助方法について説明できる。 5. 事例演習を通して、根拠に基づいた在宅看護過程の展開を行い、その学びを説明できる。
授業計画	<p>第 1 回：在宅看護過程の展開 山村江美子 ①展開のポイント ②展開の時期別の特徴 (移行期、導入期、安定期、終末期) ③展開方法 情報収集の項目・アセスメントの側面・ 目標計画立案 ④在宅における連携の特徴 社会資源との連携 医療機関との連携</p> <p>第 2 回：在宅における高齢者の日常生活援助① 山村江美子 ・脳梗塞後遺症療養者と家族の事例 ・脳梗塞後遺症による日常生活に与える影響 ・療養者とともに暮らす家族の理解</p> <p>第 3 回：在宅における高齢者の日常生活援助 山村江美子 (認知症高齢者、独居高齢者と家族の事例) ・療養者の心理と行動を理解 ・療養者の日常生活への支援のあり方 ・地域で安全に生活を継続するための方法 ・家族への援助</p> <p>第 4 回：在宅リハビリテーションとチームケア 雨宮 悟 ・生活の場におけるリハビリテーションの実際 理学療法士と看護師の連携 ・移動動作の援助、移動補助用具の種類と選択方法、社会参加</p> <p>第 5 回：在宅における難病療養者への支援 (ALS 療養者とその家族の事例) 山村江美子 ・難病療養者の訪問看護に必要なアセスメントの視点 ・医療依存度が高い療養者への支援、家族への支援 ・災害時の対応 人工呼吸器装着療養者</p> <p>第 6 回：在宅における終末期看護の展開① 細田 修 ・在宅医療、ターミナルケア、疼痛コントロール、在宅での看取りの看護</p> <p>第 7 回：在宅における終末期看護の展開② 山村江美子 ・終末期にある療養者と看取る家族の体験、訪問看護師の役割、緩和ケア</p> <p>第 8 回：在宅における小児看護の実際 宮谷 恵</p> <p>第 9 回：事例演習オリエンテーション 山村江美子 在宅酸素療法 DVD 視聴 5～6 人のグループ編成 グループ学習開始</p> <p>第 10～11 回：事例演習 ①グループワークによる事例分析 山村・酒井 ・事例のアセスメント 情報を 4 つの側面の視点で分析 ・家族構成図作成 ・関連図の作成により全体像の把握</p> <p>第 12～13 回：事例演習 ②グループワークによる事例展開 山村・酒井 ・療養者、家族の意思を尊重した看護計画の立案</p> <p>第 14 回：事例演習 ③グループワークによる事例展開まとめ 山村・酒井 ・計画した看護計画を掲示して、グループ間で協議 ・事例演習を通してのグループでの学び、個人の学びを記述</p> <p>第 15 回：事例演習講評 在宅看護援助論まとめ 山村 ・事例に対する在宅看護過程展開の視点 ・生活の場での看護実践について</p>

アクティブ ラーニング	第9回～第13回は、事例による看護過程の展開を、5～6人編成のグループ学修として取り組みます。ジェノグラムの作成、事例のアセスメント、関連図作成、看護計画の作成を行います。第14回では、看護計画をグループごとにポスター掲示を行い、グループ間での討議を行います。
評価方法	◆定期試験 70% ◆事例演習 30% (第9回～第14回) : (事前事後学修 10%、グループワーク取り組み 10%、課題提出 10%)
課題に対する フィード バック	第1回～第8回の事前事後学修およびアクションペーパーにおいて、対応が必要な内容へのフィードバックについては、次回の講義の中で説明します。第9回～第14回については、担当教員がグループ活動を支援しますので、その場で質問をしてください。
指定図書	河原加代子著者代表 (2017). 系統看護学講座、統合分野、在宅看護論第5版、医学書院
事前・ 事後学修	第1回～第8回は、講義の事前学修項目を掲載したワークブックを配布します。あらかじめ事前学修を行い講義に臨んで下さい。第9回～第14回は、グループワークに臨むため、個人事前事後学修ワークブックを配布します。事前事後学修を行い、積極的にグループワークに参加しましょう (事前・事後学修 40分程度になります)。
オフィス アワー	講義・事例演習終了後の休憩時間に研究室で待機します。その後は在宅看護学実習指導のため実習施設へ移動することが多くあります。 メールにて面談の予約をしてください。日程調整いたします。 山村江美子 (3412研究室) emiko-y@seirei.ac.jp 酒井昌子 (3410研究室) masako-s@seirei.ac.jp

科目名	在宅看護学実習
科目責任者	山村 江美子
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 6・7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	在宅看護の対象である療養者と家族の理解に努め、生活の場における看護実践の特性と看護過程を理解し、生活の場における看護技術の専門性を考察する実習を行う。在宅療養者の生活の質の向上に向けた法や制度の活用を理解し、地域包括ケアシステムの重要性、多職種の連携・協働を学ぶ実習を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の対象である療養者と家族を総合的に捉えることができる。 2. 療養者・家族の療養生活のアセスメントを行い、課題解決に向けての援助方法を考える。 3. 訪問看護の実際を学び、療養者と家族の生活に応じた援助方法を理解する。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護の継続性や多職種の連携の実際を学び、療養者・家族を支える社会資源の活用について理解する。 5. 看護学生としての礼節を重んじ専門職種としての態度・姿勢・行動を行うことができる。
授業計画	<p>担当教員名：山村江美子 酒井昌子</p> <p>実習期間：2週間</p> <p>実習施設：訪問看護ステーション住吉、住吉第2、浅田、貴布祢、高丘、細江、三方原 坂の上ファミリークリニック訪問看護 聖隷ケアプランセンター和、浜松、いなさ、いなさ南部、浜北、細江、三方原 地域包括支援センター高丘 坂の上在宅医療支援医院</p> <p>実習方法：実習時間は8:30～17:00である。</p> <p>現地実習6日間（1日約2件 スタッフとともに同行訪問を行う） 学内実習（訪問宅1件を選択し関連図の作成、在宅看護計画の立案） カンファレンス ミニカンファレンス毎日 16:30～17:00（現地にて学生間） 最終カンファレンス（現地指導者、学生、教員） 学内のまとめ（最終日 9:00～12:00 学びの共有）</p> <p>課題レポート 2週間の実習を通し、2点について論じる（1200文字以上A4用紙2枚まで）</p> <ol style="list-style-type: none"> ①在宅看護の対象である療養者とその家族に対する理解 ②「生活の場」における看護実践の特性と看護師の専門性

アクティブ ラーニング	実習科目です
評価方法	実習目標の達成度 20% 日々の記録・看護過程展開（関連図、看護計画）・課題レポート 60% 実習に取り組む姿勢や態度、記録物提出の状況 20%
課題に対する フィード バック	「毎日の記録」2枚は、担当教員に提出しフィードバックを受けた後、同行訪問スタッフに提出しコメント欄の記載によってフィードバックを受ける。関連図・看護計画の作成過程において、担当教員の個人指導によりフィードバックを受けて提出用に完成をさせる。
指定図書	河原加代子（著者代表、2017）：系統看護学講座 統合分野 在宅看護論第5版 医学書院
事前・ 事後学修	学年全体実習オリエンテーション時に、実習を履修するにあたっての事前課題を提示します。実習記録の「学習記録用紙」に事前課題をまとめ、実習中に資料として活用します。毎日毎回違うお宅に同行訪問をするため、同行訪問後の事後学修が必要となります。疾患や内服薬の学修、利用している社会サービスなどです。毎日の事後学修も、「学習記録用紙」に記述します。
オフィス アワー	科目責任者：山村江美子（3412 研究室）emiko-y@seirei.ac.jp 学外での実習指導に従事していることが多いため、メールでの連絡をいただければこちらから返信いたします。

科目名	看護倫理	
科目責任者	森 一恵	
単位数他	1単位 (15時間) 必修 8セメスター	
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。	
科目概要	生命倫理、看護倫理の歴史と主要な概念を学習し、対象者の人権を尊重し擁護した看護実践について考える。看護実践で直面する倫理的ジレンマに対する倫理意思決定の方法を学び、専門職としての倫理規定について考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護倫理および生命倫理について説明できる。 2. 看護実践に関わる倫理原則、概念を説明できる。 3. 実習での経験を振り返り自らの専門性における倫理的責務を説明できる。 4. 倫理的意思決定のプロセスを説明できる。 5. 受精から終末期における看護に関わる倫理的課題を説明できる。 	
授業計画	<p>第1回 看護倫理と倫理の基本原則</p> <p>看護倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護と倫理 ・看護専門職と職業倫理 (日本看護協会倫理綱領) <p>生命倫理とは</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生命倫理の研究領域 <p>倫理上の基本原則</p> <p>看護における倫理的問題・ジレンマ</p> <p>第2回 倫理的意思決定のプロセス</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理的判断のよりどころ <p>倫理的意思決定のプロセス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ビデオを用いた演習 <ol style="list-style-type: none"> 3. 看護学生 (看護師) としての倫理的責務 <p>第3回 患者の権利と倫理に関する基本概念</p> <p>患者の権利に関するリスボン宣言</p> <p>倫理に関する基本概念</p> <p>アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持</p> <p>第4回 母性看護における倫理的課題</p> <p>第6回 在宅看護における倫理的課題</p> <p>第5回 精神看護における倫理的課題</p> <p>第7回 公衆衛生看護における倫理的課題</p> <p>第8回 成人看護における倫理的課題</p>	<p>森 一恵</p> <p>森 一恵</p> <p>森 一恵</p> <p>藤本 栄子</p> <p>山村 江美子</p> <p>入江 拓</p> <p>鈴木 知代</p> <p>森 一恵</p>

アクティブ ラーニング	授業内でのグループ演習、Moodle による事前学修課題の提示と授業内でのフィードバックを行い、専門職としての責務と実習での内省を促していく。
評価方法	最終課題レポート 40%、毎回のレポート 60%
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーや毎回のレポートで対応が必要なコメントや質問については、Moodle を用いて回答し、共有する。
指定図書	日本看護協会監修(2013). 新版 看護師の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 日本看護協会出版会.
事前・ 事後学修	Moodle または授業の最後に、次回授業までの課題を提示する（事前・事後学修 40 分程度）。最終学年の授業のため、領域別の各看護実習や統合実習などで体験した事例を事前に復習して参加する。また、授業終了時のレポートにおいて看護倫理について考えを深めて提出する。
オフィス アワー	臨地看護学実習などの予定により変更がある可能性があるため、事前にメールで在室の確認を行ってください。 森一恵(1217 研究室:kazue-m@seirei.ac.jp)、水曜日 12:00~13:00 藤本栄子 (1714 研究室: eiko-f@seirei.ac.jp)、入江拓(3403 研究室: taku-i@seirei.ac.jp)、 山村江美子 (3412 研究室: emiko-y@seirei.ac.jp) 、鈴木知代 (1215 研究室:tomoyo-s@seirei.ac.jp)

科目名	看護管理論
科目責任者	鶴田 恵子
単位数他	1単位 (15時間) 必修 8セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	看護の対象者となる人々に、有限な資源を有効に活用して最善で良質な看護を提供するための「しくみ」について学び、その内容や方法について理解を深める。看護師としてのメンバーシップとリーダーシップを理解するとともに、看護をマネジメントできる基礎能力を培う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 看護管理の概念について理解する。 2. 看護サービスを提供するための組織内のしくみについて理解する。 3. チームにおける看護と他職種の協働・連携について理解する。 4. 社会人になって組織の一員として、自覚と責任ある行動をとり、自らの役割を果たす重要性を理解する。 5. 医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について理解する。 6. 看護の質向上に向けて看護師として専門性を発揮させていく重要性について理解する。
授業計画	<p>第1回： 看護を取り巻く諸制度</p> <p>第2回： 看護のマネジメント</p> <p>第3回： マネジメントに必要な知識と技術</p> <p>第4回： 看護ケアのマネジメント</p> <p>第5回： 看護のリスクマネジメント <特別講師 鎌田裕子></p> <p>第6回： 看護サービスのマネジメント</p> <p>第7回： 新人看護師のワークライフ・バランス <特別講師 吉村浩美></p> <p>第8回： 看護の質の向上に向けた活動</p>

アクティブ ラーニング	グループワーク：授業中に30分程度、グループワークの時間をとる。提示したテーマに関してグループおよび全体で意見交換を行う。 講義内容の振り返り：授業終了時に配布される用紙に、授業への質問、意見、感想を記入する。
評価方法	授業への取り組み50%、課題レポート50%
課題に対する フィード バック	1. レポートにコメントを記載して返却 2. 講義終了時に回収する用紙へのフィードバックは、次回からの講義内容に反映する。
指定図書	1. 上泉和子他著：系統看護講座 統合分野 看護管理 看護の統合と実践①、医学書院、最新版
事前・ 事後学修	1. 初回講義時に「ガイダンス資料」にて提示します。 2. 授業の時に、次の授業の事前課題を提示する。授業は事前課題に基づいて展開するので、課題に基づいた予習を必ずしていること
オフィス アワー	鶴田恵子：看護学部、1617 研究室（授業開講日の12:00 から12:45） 連絡先 keiko-t@seirei.ac.jp

科目名	国際看護論
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 4・8セメスター
科目の位置付	(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	世界の健康格差を看護の視点からとらえ、国際協力としての看護の役割を考えることができる。また、国内における国際看護を在日・在留外国人患者へのケアを通して考えることができる。
到達目標	1. 国際的な健康課題とその背景を理解できる。 2. 国際協力における看護の取組みについて理解できる。 3. 国内における国際看護について、外国人模擬患者を通して考えることができる。
授業計画	<p>導入 第1回：世界の健康格差と国際看護を学ぶ意義 仲村秀子</p> <p>国内における国際看護 第2回：ブラジル日系社会及び浜松市在日ブラジル人の理解 蒲美幸 第3回：医療通訳の立場から見た国際看護 松田愛香 第4-5回：外国人模擬患者とのコミュニケーション体験 平野美津子・Linda Matsui</p> <p>国際協力の実際 第6回：インドでのボランティア活動から 小川美農里 第7回：中国における病院での活動（JICA）から 田中綾子</p> <p>まとめ 第8回：看護師の国際移動の背景と課題 仲村秀子</p>

アクティブ ラーニング	外国人模擬患者とのコミュニケーション体験では、英語でロールプレイを行う。
評価方法	各授業の事前課題 40%、総合レポート 60%
課題に対する フィード バック	次の授業前に、個々ではなく全体にフィードバックします。
指定図書	南裕子監修『国際看護学 グローバルナーシングに向けての展開』中山書店
事前・ 事後学修	初回に提示します。
オフィス アワー	実習等で不在にすることが多いので、特定の曜日や時間帯を設けておりません。研究室（1212室）に明かりが点いているときには、ノックしてください。その時に応じることができない場合には、次に来ていただく日時をその場で決めます。または、事前にメールでアポイントを取ってください。hdeko-n@seirei.ac.jp

科目名	災害看護論
科目責任者	松井 謙次
単位数他	1単位 (15時間) 選択 8セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	<p>1. 災害時に役立てることができる知識・技術を学修をする。発災期における看護役割として以下の知識技術を習得する。 救出、トリアージ (緊急度判断)、担架搬送、応急手当 (止血、固定、消毒など)</p> <p>2. 救援活動として緊急避難から復興までの支援活動として以下の知識技術を習得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緊急避難所の支援、被災地域住民への支援 ・静岡県の災害医療救護体制、実際の災害支援 ・被災者および救援者のこころの問題とその予防策
到達目標	<p>1. 災害時初動活動における他職種の種類と役割を述べるができる。</p> <p>2. 県の医療救護体制と災害サイクルに応じた看護活動の基本を述べるができる。</p> <p>3. 災害時初動活動における救出・トリアージ・搬送・応急手当ができる。</p> <p>4. 避難所・仮設住宅での二次的健康障害の予防策を述べるができる。</p> <p>5. 被災者と支援者のストレスを学び、こころのケア (予防策と対処) を述べるができる。</p>
授業計画	<p>第1回 災害看護論の概要説明、災害時の他職種との連携と看護 松井謙次</p> <p>第2回 静岡県災害時医療救護体制について ゲストスピーカー</p> <p>第3回 被災者のこころとケア、支援者のストレス ゲストスピーカー</p> <p>第4回 災害時の病態と看護 松井謙次</p> <p>第5・6回 <演習>救出・搬送・トリアージ・手当て 松井謙次・小池武嗣 氏原恵子・鈴木夏奈子</p> <p>第7・8回 <演習>災害時の初動活動 実践編 松井謙次・小池武嗣 氏原恵子・鈴木夏奈子</p>

アクティブ ラーニング	第1回～4回まで講義形式である。テキストの関連する章を読み、積極的に講義時の質問を期待する。また県の医療救護体制や地域防災マップを県の防災ホームページを参照する。 第5回～8回 シミュレーション演習 応急手当など技術習得していることが重用である。積極的なセルフトレーニングを期待する。 (三角巾、包帯法、固定法など)
評価方法	レポート 80%、演習への取り組み 20% 演習の評価は態度、技術の習熟度を評価する。
課題に対する フィード バック	講義内容に対する質問は、e-mail 等による回答、演習時ではその都度の解説とフィードバックを行う。
指定図書	酒井明子・他「ナーシング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護、メディカ出版
事前・ 事後学修	【事前学修】 災害時の災害時の病態とトリアージは、テキストをよく読む。 模擬患者役ではシナリオをよく読み、病態を踏まえた演技を行えるようする。また応急手当での三角巾固定やシーネ固定など練習し、実践できるようにする。目安時間 (20分) 【事後学修】 トリアージ判断の不足や応急手当の原則を再度、技術練習および病態理解を復習する。目安時間 (20分)
オフィス アワー	集中開講のため意見・質問などある場合は、研究室に放課後VI限に来室してください。 松井 (1218 研究室) メールでの問い合わせ先 : kenji-m@seirei.ac.jp

科目名	災害看護論
科目責任者	入江 晶子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 8セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	<ol style="list-style-type: none"> 1. 災害の定義及び災害時活動の目的について理解し、他職種との連携協働について理解できる。 2. 都道府県や市町の災害時活動の制度及び体制について理解できる。 3. 災害発生時の応急対策期の基礎的知識（救出・トリアージ等）について理解できる。 4. 災害時における二次的健康障害の概要を学び、その予防方法と対応について理解できる。 5. 災害時における避難所・仮設住宅等での生活支援活動について理解できる。 6. 災害復旧時・復興対策期のコミュニティ再構築への支援について理解できる。
到達目標	災害看護とは、災害が人々の健康と生活に及ぼす被害を可能な限り少なくする看護活動であり、平常時の災害活動、災害応急対策期の活動、災害復旧時や復興対策期の活動等、時期に応じた活動がなされます。授業では、特に平常時の災害活動と災害復旧時・復興対策期の活動に焦点をあて、災害看護の基礎的な知識を理解することができるように授業を展開します。
授業計画	<p>第1回：災害看護概論 災害看護とは、災害の種類と災害サイクル、災害医療に関する国の政策と法律</p> <p>第2回：災害応急対策期の活動1 入江晶子 <ol style="list-style-type: none"> 1) 被災外傷患者の救出と手当（トリアージ等） 2) 緊急支援活動のマネジメント </p> <p>第3回：災害応急対策期の活動1 入江晶子 <ol style="list-style-type: none"> 1) 避難所・災害弱者に対する支援活動 </p> <p>第4回：災害応急対策期の活動2：避難所シミュレーション演習 入江晶子</p> <p>第5回：災害応急対策期の活動3：避難所シミュレーション演習 入江晶子</p> <p>第6回：災害復旧・復興期の被災者と災害支援者のケア 入江晶子 <ol style="list-style-type: none"> 1) 被災者の二次的健康障害の予防と対策 2) 職員及び災害支援者の心身の健康管理 </p> <p>第7回：災害復旧・復興期における保健・衛生管理・感染症対策 外部講師</p> <p>第8回：災害復旧・復興期の対策・防災マネジメント・まとめ 入江晶子</p>

アクティブ ラーニング	第4回・5回の授業は、演習形式で、避難所設営のシミュレーション演習を行う
評価方法	演習参加 20%、定期試験 80% 合計 100%
課題に対する フィード バック	事前学習課題については、課題提出週の事業内に解説する。
指定図書	酒井明子 長田恵子 三澤寿美(編) ,看護の統合と実践(3) 災害看護 第4版 メディカ出版 2017年
事前・ 事後学修	事前学習 授業内容と密接に関連する下記の項目はについて、授業進度に応じて、各授業時に1回40分 程度の事前学習課題を提示します。課題は、授業前日までに提出していただき、授業開始前に 返却します。 ①災害に関する法律 ②災害時要配慮者について ③避難所・福祉避難所について ④トリアージについて ⑤ASD・PTSD・サバイバーズギルトについて ⑥災害に関連する感染症について ⑦減災教育について 事後学習 授業終了時に、授業内容に応じた確認用のチェック問題を提示し、授業の振り返りを行いま す。
オフィス アワー	科目責任者所属学部：看護学部 1207 研究室 毎水曜日 18時以降 (水曜日以外でも可) お願い：可能な限り、あらかじめメールにて面談の予約をお願いします。 (syoko-i@seirei.ac.jp)

科目名	高度実践看護論	
科目責任者	樺澤 三奈子	
単位数他	1単位 (15時間) 選択 8セメスター	
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。	
科目概要	慢性疾患看護・がん看護領域における卓越した看護実践に触れ、慢性的な健康障害を持つ人、がん治療を受ける人、終末期にある人とその家族への理解を深め、人々を看護するために必要な関連職種との連携および看護の役割について、総合的に学修する。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 慢性的な健康障害を持つ人、がん治療を受ける人、終末期にある人とその家族の体験について説明できる。 2. 治療期・終末期にあるがん患者とその家族に対する看護の役割と、多職種との連携に基づく看護援助について説明できる。 3. 慢性的な経過をたどる患者・家族に対する看護の役割と、多職種との連携に基づく看護援助について説明できる。 3. 病気とともに生活する人に必要なシステムや資源を活用した看護援助について説明できる。 4. 慢性疾患看護・がん看護に関連する研究機関・学会等の情報源やキャリア形成方法を参考に、専門性を深めるための主体的・継続的な研鑽の見通しについて説明できる。 	
授業計画	<p>第1回： がん患者・家族を取り巻く現状と看護の基本</p> <p>第2回： がん集学的治療を受ける患者の看護</p> <p>第3回： 全人的アプローチと看護の実践</p> <p>第4回： 終末期にある患者とその家族への看護</p> <p>第5回： 慢性疾患とともに生活する人々のセルフケアへの支援</p> <p>第6回： 地域・在宅医療との連携に携わる看護師の役割と実践</p> <p>第7回： がん看護・慢性疾患看護における今後の課題 ・トピックス：若年がんサバイバーを取り巻く課題と支援 ・がん看護・慢性疾患看護に関連する情報源とその活用方法</p> <p>第8回： グループディスカッション — 複雑な問題を抱える患者や家族への専門的な看護実践 — ・身体的かつ心理社会的に複雑な問題を抱える患者や家族の事例に関する討議を通して、患者・家族の思いと優先度の高い看護上の問題を明確にし、患者・家族の望ましい姿（長期目標）を具体的に検討する。 ・グループでの検討に先立ち、4事例から担当事例を選定し、個人でディスカッションポイントに沿って事前学修を行う。</p>	<p>樺澤三奈子</p> <p>特別講師</p> <p>特別講師</p> <p>大石ふみ子</p> <p>木下 幸代</p> <p>特別講師</p> <p>樺澤三奈子 木下 幸代 大石ふみ子</p> <p>樺澤三奈子 木下 幸代 大石ふみ子</p>

アクティブ ラーニング	授業内容に関わる事前課題や、授業後の復習ポイントの提示に moodle を活用します。 また複雑な問題を抱える患者・家族の事例を分析・検討するグループ学修を行います。
評価方法	筆記試験 50%、授業中の提出物 30%・課題レポート 20%、計 100%
課題に対する フィード バック	個人または履修者全体に対し、課題・提出物へのコメントの記載や moodle へのコメントの掲載、 グループディスカッション時の意見・助言を通して、課題とその成果に対するフィードバック を行います。
指定図書	小松 浩子 他：『成人看護学1 成人看護学総論』医学書院（成人看護学概論で購入済み） ※参考図書 矢永 勝彦他：『別巻 臨床外科看護総論』医学書院（健康障害論 I で購入済み） 小松 浩子他：『がん看護学』医学書院 鈴木志津枝他：『成人看護学 緩和・ターミナルケア看護論』ヌーヴェルヒロカワ 鈴木 久美他：『成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人々を支える』南江堂 等
事前・ 事後学修	<事前学修> ・授業に先立ち、授業内容に関わる基礎的知識の復習のために課題を課します。課題は、Moodle へのアップロードあるいは直接配布により提示します。 ・課題を解くために、病理・病態、健康障害論 I・II、薬理・薬剤、成人看護学概論、成人看 護援助論 I～III等の授業で既修した、慢性疾患やがんの病態・治療・看護についての基礎的 知識を見直してください。 ・各事前学修には見直しを含めて 1～2 時間程度を要する見込みです。 <事後学修> ・授業後は、理解が不十分だった内容や moodle に掲載された復習ポイントについて、国家試験 対策を兼ねて、各自復習をしてください。 ・各授業後、少なくとも 1 時間程度の復習を習慣づけてください。
オフィス アワー	科目責任者：樺澤三奈子（看護学部）1213 研究室 メールアドレス：minako-ka@seirei.ac.jp オフィスアワーは、基本的に月曜日VI 限目としますが、いつでも相談に対応します。ご用の 方はメールで連絡してください。

科目名	看護研究 I	
科目責任者	檜原 理恵	
単位数他	1 単位 (30 時間) 必修 5 セメスター	
科目の位置付	(4) 設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。	
科目概要	必要な文献や情報を探すこと、関心のあるテーマに関する看護研究論文を読むことを通して、看護における研究の役割・意義について考える。	
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 調べたい事柄に関する文献や情報を探す方法がわかる。 2. 文献整理の方法がわかる。 3. 研究過程の概要（研究課題の明確化、研究計画の立案、データの収集・分析）を知る。 4. 看護研究における倫理的配慮の基本的な考え方を学ぶ。 5. 自分の設定した研究に適した研究方法を学ぶ。 	
授業計画	<p>第1回：看護における研究 第2回：文献・情報の探し方 課題：図書館を探索する *数グループに分かれる</p> <p>第3回：研究論文の読み方 課題：看護系雑誌の記事を読む</p> <p>第4回：リサーチクエスチョンから研究課題へ</p> <p>第5回：医学中央雑誌による文献検索 課題：調べたいテーマを決めて文献を探す</p> <p>第6回：文献の整理 —文献クリティーク</p> <p>第7回：看護研究における倫理</p> <p>第8回：研究デザイン</p> <p>第9回：質的研究デザイン—インタビューガイドの作成—</p> <p>第10回：量的研究デザイン —データの意味と収集</p> <p>第11回：テーマを決めて研究論文を探す</p> <p>第12回：研究論文を読む</p> <p>第13・14回：クリティークした研究論文を発表する</p> <p>第15回：研究計画書の作成とは</p> <p>*進め方の詳細は第1回目に伝える</p>	<p>檜原・木下・佐久間 木下・檜原・佐久間 檜原 檜原 木下・檜原・佐久間 檜原 木下・佐久間 檜原 木下 檜原 檜原・木下・佐久間 檜原・木下・佐久間 檜原・木下・佐久間 檜原・佐久間</p>

アクティブ ラーニング	図書館や文献検索サイトを利用し、自らの興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行う。自分のテーマに合った文献についてグループワークを行い、成果を発表する。 学生間、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
評価方法	授業中の提出物 50%、課題レポート 50%、
課題に対する フィード バック	授業中の提出物について、次回の授業中に全体へのフィードバックを行う。
指定図書	坂下 玲子／宮芝 智子／小野 博史 (2016). 系統看護学講座 別巻、看護研究, 医学書院
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関する文献を読んでもください。授業回数に関わらず、文献を活用しながら、研究課題について継続的な学修が必要です。
オフィス アワー	檜原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp (月：終日、水：午後、事前に連絡をいただければ調整します) 木下幸代：5705 研究室 satiyo-k@seirei.ac.jp 佐久間佐織：1618 研究室：saori-s@seirei.ac.jp

科目名	看護研究Ⅱ
科目責任者	樫原 理恵
単位数他	1単位(30時間) 選択 7・8セメスター
科目の位置付	(4)設定した課題について自らの専門分野や他分野の研究方法を用いて議論し、考察することができる。
科目概要	選択した看護学領域において、これまでの学修のなかで関心をもった事象について、先行研究や関連文献を幅広く検討し、研究課題を明確化して、現実的・具体的な研究計画書を作成する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 関心を持った事象について、系統的に文献を探すことができる。 2. 関心を持った事象について、先行研究や関連文献を整理し、研究課題を明らかにすることができる。 3. 研究課題を明らかにするための研究計画書を作成することができる。
授業計画	<p>担当教員：樫原理恵、看護学領域教員</p> <p>これまでの看護学の学修において、関心をもった事柄やアイデアに関して、系統的で理論的な思考により、問題としてのように明確化する過程を学ぶ。</p> <p>さらに、明確化された問題、研究課題についてどのような方法で明らかにするのか、目的と方法を学修する。</p> <p>4～7月 選択した研究領域において、これまで学習した看護学のなかで関心をもった事柄について、研究課題を明確化する。</p> <p>必要時、関心のある対象やフィールドに関する情報収集、および研究課題に関する基礎的な学習を行う。</p> <p>7～11月 研究課題に関連した先行研究や関連文献を幅広く検索して文献検討を行い、研究課題の明確化のプロセスや研究の意義を記述することができる。</p> <p>11月3日(金) 課題レポートの提出</p>

アクティブ ラーニング	自らが設定した課題について、興味のある専門分野や関連諸学の学識を活用するために、積極的に文献検索を行い、担当教員とディスカッションすることで学修を深める。
評価方法	看護研究への取り組み 20%、文献学習 40%、課題レポート 40%
課題に対する フィード バック	各領域で、ゼミ等により研究課題の進捗状況に合わせ担当教員からフィードバックを行う。
指定図書	南裕子編『看護における研究』日本看護協会出版会
事前・ 事後学修	看護の学修で関心を持った内容に関し、文献を探しまとめたもの等をもとに、教員と学修を進めていきます。そのため、事前・事後学修については、担当教員と話し合いの上、行ってください。
オフィス アワー	極原理恵：1616 研究室 rie-k@seirei.ac.jp (月：終日、水：午後、事前に連絡をいただければ調整します)

科目名	統合演習
科目責任者	炭谷 正太郎
単位数他	1単位 (30時間) 必修 8セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	1年次から4年次までに学修した基本的な看護の専門知識と、看護技術に関する能力の取得状況を明確にし、自らの克服すべき課題に対して計画的に取り組み、臨床看護実践能力の基礎を統合する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基本的な看護の専門知識と看護技術に関する学生自身の強化課題を明確にする 2. 学生の強化課題に対する具体的な学修計画を立案・実施・評価・改善できる 3. 看護専門職者に必要なメンバーシップ、リーダーシップを発揮する。 4. 臨床看護実践に必要なかつ基本的な看護の専門知識と技術を統合できる。
授業計画	<p><担当教員名> 桎原理恵、炭谷正太郎、新實夕香理、佐久間佐織、柴田めぐみ、水野美香</p> <p>第1回：授業ガイダンス/e-learning ガイダンス 第2回 学生自身の強化課題の明確化 第3回 担当する看護事例に対する学習計画の立案（1） 第4回 担当する看護事例に対する学習計画の立案（2） 第5回 担当する看護事例のケア計画の実施（1） 第6回 担当する看護事例のケア計画の実施（2） 第7回 担当する看護事例のケア計画の実施（3） 第8回 担当する看護事例のケア計画の実施（4） 第9回 チーム別ケアの成果発表（1） 第10回 チーム別ケアの成果発表（2） 第11回 チーム別ケアの成果発表（3） 第12回 チーム別ケア成果発表（4） 第13・14回 担当する看護事例のシミュレーショントレーニング 第15回 まとめ・課題レポート</p> <p>※授業の詳細な日程と内容は、第1回（初日）にガイダンス資料（冊子）を配布して説明します。</p> <p>※e-learning および個別およびチーム学習方式による反復強化学修をします。</p> <p>※実技課題は他者評価を行い、個人の課題をチームで共有し、課題を克服していきます。</p> <p>※標準的な看護事例に対して、個別およびチームでその看護課題を克服するプロセスを学生間で、実践を繰り返しながら共有していきます。</p>

アクティブ ラーニング	事例に対する考察やグループメンバーとの議論をとおして、主体的に問題解決に臨む姿勢を培う。シミュレーターを用いて学生が自主的に看護技術を展開し、振り返ることにより課題を解決する実践力の向上をはかる。
評価方法	課題レポート 40%、実技課題 40%、e-learning テスト 20%、計 100% *シミュレーション教育は評価に含まない
課題に対する フィード バック	リアクションペーパーへの回答、講評を次の授業内にて行う。
指定図書	1 年次から 4 年次までに使用した指定図書の全て
事前・ 事後学修	第 1 回のガイダンス資料に示された課題事例に対し、1 時間あたり 40 分程度、事前事後学修を行ったうえで毎回の授業に参加します。
オフィス アワー	炭谷正太郎：1216 研究室 syoutarou-s@seirei.ac.jp 時間はオリエンテーション時にお知らせします。

科目名	地域保健実習
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	1単位(45時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。。
科目概要	<p>【公衆衛生看護実習】</p> <p>1. 公衆衛生活動の場である保健所・保健センターの役割を学び、公衆衛生活動の意義を理解する。</p> <p>2. 公衆衛生活動を基盤とした保健師の役割を理解する。</p> <p>【産業看護実習】</p> <p>1. 労働者の作業環境を見学し、労働に起因する労働者の健康問題について理解できる。</p> <p>2. 見学した企業における労働安全衛生体制と看護職の役割について理解できる。</p>
到達目標	<p>目的</p> <p>1. 健康と生物的要因・生活習慣・環境的要因・保健医療システムとの関連について理解できる。</p> <p>2. 地域の人々が自らの健康状態を認識し、健康の保持増進を図るための、支援方法について理解できる。</p> <p>3. 地域看護活動の場（公衆衛生看護・産業看護）における看護職の役割を理解できる。</p> <p>4. 地域看護活動における連携の必要性について理解できる。</p> <p>【公衆衛生看護実習】</p> <p>実習目的：公衆衛生の意義と保健師の役割について理解できる。</p> <p>【産業看護実習】</p> <p>実習目的：労働者を対象とした保健活動と看護職の役割が理解できる。</p>
授業計画	<p><担当教員名>仲村秀子、鈴木知代、入江晶子、伊藤純子、若杉早苗</p> <p>【公衆衛生看護実習】</p> <p>1. 保健所実習 公衆衛生の実践者からの講義と聞き取り形式で活動の実際を学習する。 静岡県西部健康福祉センター（西部保健所）・浜松市保健所</p> <p>2. 市町村実習 保健センターの保健事業に見学・参加し活動の実際を学習する。 静岡県西部地域市町の保健センター</p> <p>【産業看護実習】</p> <p>産業看護の実践者から講義形式で活動の実際を学習し、工場見学を行う。 聖隷健康診断センター・スズキ株式会社・ヤマハ株式会社・ヤマハ発動機株式会社・本田技研工業株式会社・巴川製紙・プライムアースE.Vエナジー株式会社・積水ハウス株式会社・ダイトケミックス株式会社</p>

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	学習ノート 40%、実習記録 40%、実習への取り組み状況 20%で評価する。
課題に対する フィード バック	学内実習で行う。
指定図書	『標準保健師講座1 公衆衛生看護学概論』（医学書院）2年次購入済み 『シンプル衛生公衆衛生学』（南江堂）2年次購入済み
事前・ 事後学修	学習ノートを用いて自己学習してから実習に臨む。
オフィス アワー	実習等で不在にすることが多いので、特定の曜日や時間帯を設けておりません。研究室（1212 室）に明かりが点いているときには、ノックしてください。その時に応じることができない場合には、次に来ていただく日時をその場で決めます。または、事前にメールでアポイントを取ってください。 hdeko-n@seirei.ac.jp

科目名	統合実習
科目責任者	森 一恵
単位数他	2単位 (90 時間) 必修 7セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	選択した看護学領域において、既修の知識・技術を統合しながら、提供されている看護の実際を経験し、保健・医療・福祉のネットワークの中で看護の働きについて理解を深める。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまで学んだ知識・技術を踏まえ、主体的に実習内容を調整し取り組むことができる。 2. ケアの優先順位を考え、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。 3. 体験する看護技術について自己の力量を見極め、その根拠と安全性・正確性を考慮しながら実践することができる。 4. 看護チームおよび他職種との協働の中で、看護職としてのメンバーやリーダーの役割を体験し、チームとして働く意義を理解できる。 5. 統合実習で学んだことを通し、保健・医療・福祉の現状について理解を深め、看護職として自己の目標や課題を明確にできる。
授業計画	<p><担当教員名 (看護学領域科目責任者) > 荒川靖子：急性期看護学、 樺澤三奈子：慢性看護学、 野崎玲子：老年看護学、 宮谷 恵：小児看護学、 黒野 智子：母性看護学、 小平朋江：精神看護学、 鈴木知代、酒井昌子：地域看護学 (公衆衛生看護学・在宅看護学)</p> <p>学生は、7つの看護学領域から1看護学領域を選択して実習する。これまでの領域別看護学実習をふまえ、現場の看護師・保健師等の専門職者とともに、それぞれの場に応じた看護実践を経験する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・病院や施設の実習においては、1つの病棟 (単位) に2~4人の学生を配置して2週間の実習を行う。病棟・施設の状況に応じて、複数患者・利用者あるいは大部屋の患者・利用者を受け持つ実習、一勤務帯を通した実習、夜勤帯の実習などを組み込む。 ・グループによっては、外来、NICUなどの特殊部門で実習を行う。 ・地域看護学 (公衆衛生看護学、在宅看護学) 領域の実習では、さまざまな看護が展開されている場で実習を行う。既修の知識・技術を基盤として、援助技術の向上、多職種や多機関との連携の理解を深める。 ・課題レポートをまとめ、8月に提出する。 *詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途示す。 *実習を行う領域や施設は調整により決定する。

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・実習科目です。 ・各領域において『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
評価方法	<p>目標達成度 80% (実習姿勢、実習記録 等)、課題レポート 20%で評価する。 (詳細は『統合実習履修要項』で領域別に別途定めます)</p>
課題に対する フィード バック	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
指定図書	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
事前・ 事後学修	『統合実習履修要項』で領域別に別途示します。
オフィス アワー	時間については、各領域のオフィスアワーの欄に記載しています。

科目名	国際看護実習
科目責任者	樺澤 三奈子
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 7セメスター
科目の位置付	(7)保健医療福祉に関する地域社会及び国際社会のニーズを捉え、専門職として貢献することができる。
科目概要	シンガポールでの看護実習を通じて、日本とシンガポールにおける社会文化的背景、健康のニーズ、保健・医療・看護の相違について学び、国際社会における看護専門職の役割と、専門職として貢献するための研鑽のしかた・将来の活動の方向性について検討する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とシンガポールの生活習慣、文化、健康課題、保健・医療システム、看護教育制度の相違点について説明できる。 2. 臨地におけるシャドーイングを通して、シンガポールの健康課題と看護専門職の役割、看護実践、人々の健康を支援するための健康教育等のアプローチについて理解できる。 <ol style="list-style-type: none"> 1) 看護専門職として倫理的行動をとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者のプライバシーを尊重し、得られた情報を守秘する。 ② 意欲的に学習に取り組み、謙虚に学ぶことができる。 ③ 問題解決のために積極的に行動し、報告・連絡・相談できる。 ④ 実習で感じ、考え、学んだことを伝えることができる。 2) 英語でコミュニケーションをとることができる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者と良好なコミュニケーションを図ることができる。 ② 現地で指導を受ける看護専門職者と良好な人間関係を構築することができる。 3) シンガポールにおける看護実践について説明できる。 <ol style="list-style-type: none"> ① 患者のアセスメントに基づいた看護介入の実際を知る。 ② 患者の状態・状況と看護介入を関連づけてアセスメントできる。 ③ 記録・報告の実際を知る。 3. 実習を通して、シンガポールと日本における生活習慣、文化、健康に関わる課題、保健・医療システムや看護・福祉に関わる日本との相違を踏まえて、国際的観点から社会における看護専門職の役割を説明できる。 4. 国際的な観点から看護の専門性を深めるために役立つ情報源を知り、将来に向けて継続的に研鑽するための活動を計画できる。
授業計画	<p><担当教員名> 樺澤三奈子、他 1名 <対象学生> 看護学部4年次生 2名</p> <p>【実習前課題学修】4～8月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本とシンガポールにおける生活習慣、文化、主な健康課題、保健・医療システム、看護教育制度についての文献学習・レポート作成 2. 関心のある保健・医療・看護に関するテーマについて学ぶための実習計画書の作成 3. 上記2で取り上げたテーマに関する英語によるプレゼンテーション資料の作成 4. 語学学習 <ol style="list-style-type: none"> ① 英語教員による自主的英語学習への参加 (1回/週) ② 国際交流センター主催の英語講習への参加 (1回/月) ③ TOEIC 団体特別受験制度：IP テストの受験 (7月に予定) <p>【臨地実習 (2週間)】9月 (シンガポール ナンヤン理工学院・保健医療施設等)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ナンヤン理工学院看護教員による保健・医療・看護に関する講義の受講 2. 【事前課題】3で作成した資料を用いた英語によるプレゼンテーション 3. shadowing 実習 <ol style="list-style-type: none"> ① TTSH Ang-Mo Kio-Thye Hua Kwan Hospital (リハビリテーション病院)：1週間 ② Changi General Hospital (国立総合病院) Health Promotion Board (シンガポール健康省管轄 健康増進協会) Home Nursing Foundation (訪問看護) 等 <p>※成人病棟実習、希望する領域実習 (小児・母性等)、在宅看護実習等を行う。</p> <p>【実習後課題学修】9-11月</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学びの振り返り <ol style="list-style-type: none"> ① 実習前・実習中の学修内容をもとに、関心のあるテーマをとりあげ、シンガポール看護実習における学びについて、考察を加えてレポートにまとめる。 ② 国際的な観点から看護専門職の役割を考え、その役割を担うために、専門性を深め主体的・継続的な研鑽の計画を具体的にまとめる。 2. 国際看護実習報告会で、実習の学びについてのプレゼンテーションを行う。

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート（事前文献学習レポート、英語によるプレゼンテーション資料、振り返りレポート、報告会プレゼンテーション資料を含む） 40% ・臨地実習の目標達成度 40% ・事前・事後課題学修及び臨地実習に対する取り組み 20% 計100%
課題に対する フィード バック	<p>実習前・後の課題学修では、個人または履修学生全体に対し、課題レポートへのコメントの記載やディスカッションでの意見・助言を通して、課題とその成果に対するフィードバックを行います。</p> <p>臨地実習では、1週目の3日間、担当教員1名が実習をサポートしながら、課題とその成果に対するフィードバックを行います。またナンヤン理工学院看護教員による実習評価の内容について、担当教員がフィードバックを行います。</p>
指定図書	<p>『知って考えて実践する国際看護』近藤麻理著，医学書院，2011</p> <p>※参考図書</p> <p>『目で見る国際看護 vol. 1 国際看護の現状/vol. 2 グローバルヘルス』西川まり子監修，医学映像教育センター，2012.</p> <p>その他、実習前の文献学習や語学学習に役立つ文献・情報源について授業で随時紹介します。</p>
事前・ 事後学修	<p>【実習前課題学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習前の4～8月に、提示された課題について、各自、自己学習を行ってください。また語学学習①～③への参加・受講を必須とします。レポート作成等、時期により課題の量が異なりますが、週平均1～2時間の自己学習が必要です。そのほか、毎日、30分以上の語学学習を習慣づけてください。 <p>【臨地実習中】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習の内容の振り返りと翌日の実習での学修ポイントの整理を行いましょ。時間の目安は、毎日、2時間程度です。 <p>【実習後課題学修】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地実習後の10～11月に、提示された課題について、各自、レポートを作成してください。
オフィス アワー	<p>科目責任者：権澤三奈子（看護学部）1213 研究室 メールアドレス：minako-ka@seirei.ac.jp</p> <p>オフィスアワーは、基本的に月曜日VI 限目としますが、いつでも相談に対応します。ご用の方はメールで連絡してください。</p>

科目名	公衆衛生看護学概論
科目責任者	仲村 秀子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 3セメスター
科目の位置付	(2)保健医療福祉の専門職者に求められる専門分野の基本的な知識・理論や技能を体系的に理解している。
科目概要	公衆衛生看護は、人々が自らの健康を維持・増進できるように、個人に応じた援助を行う。同時に、人々の生命や健康を守るために必要な援助の提供システムの構築、生活環境の改善、健康施策策定などの体制づくりを担う。この2つの役割を持つ公衆衛生看護活動の基本的な概念や方法を学び、保健師の機能と役割について理解する。
到達目標	公衆衛生看護学の基本的な知識・理論や技能を理解する。 1. 公衆衛生看護の理念、目的、特徴、理論について理解する。 2. 公衆衛生看護活動の場とそれぞれの場で活動する保健師の活動と役割を理解する。 3. 公衆衛生看護活動の技能（活動の方法、技術）について理解する。 4. 保健師に求められる機能と役割を考える。
授業計画	第 1 回：第 1 回：公衆衛生看護とは何か 仲村秀子 第 2 回：：公衆衛生看護の歴史（日本・外国） 伊藤純子 第 3 回：公衆衛生看護活動の実際（市町村保健活動） ゲストスピーカー 第 4 回：公衆衛生看護の基本的な考え方 鈴木知代 第 5 回：公衆衛生看護活動の理念と基盤（理論） 仲村秀子 第 6 回：公衆衛生看護における疫学の必要性和方法 仲村秀子 第 7 回：公衆衛生看護活動方法（技能） 仲村秀子 第 8 回：公衆衛生看護活動の展開方法（PDCA サイクル） 伊藤純子 第 9 回：行政に所属して行う公衆衛生看護活動の特質 若杉早苗 第 10 回：個別的なアプローチから地域活動へ展開 若杉早苗 第 11 回：健康危機管理 鈴木知代 第 12 回：保健師活動の実際（産業保健） ゲストスピーカー 第 13 回：保健師活動の実際（都道府県保健師） ゲストスピーカー 第 14 回：保健師活動の実際（学校保健） 高橋佐和子 第 15 回：まとめ 仲村秀子

アクティブ ラーニング	第1・5・6・7回の授業時に、3～4人の小グループで課題に対する意見交換を行う。
評価方法	課題 20%、小テスト（第7回の授業中） 10%、定期試験 70%
課題に対する フィード バック	小テストの解説、リアクションペーパーに対する回答
指定図書	『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』（医学書院）
事前・ 事後学修	事前学習内容を初回授業時に提示します。
オフィス アワー	<p>実習等で不在にすることが多いので、特定の曜日や時間帯を設けておりません。研究室（1212 室）に明かりが点いているときには、ノックしてください。その時に応じることができない場合には、次に来ていただく日時をその場で決めます。または、事前にメールでアポイントを取ってください。</p> <p>hdeko-n@seirei.ac.jp</p>

科目名	公衆衛生看護活動展開論
科目責任者	伊藤 純子
単位数他	2単位 (30 時間) 必修 4セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	公衆衛生看護活動の場と対象特性、個人・集団・組織の各レベルに対応した活動の展開方法を学ぶ。また、対象のアセスメントと健康課題の明確化、優先順位の決定、解決策の計画立案、実施、評価の方法を段階的に学び、統合することで、公衆衛生看護活動の軸となる「地域診断」に係る力量を形成する。
到達目標	1. モデルを活用した公衆衛生看護活動の展開方法が理解できる。 2. 地域特性の予測、健康課題の明確化に必要な情報収集とアセスメントの方法が理解できる。 3. 地域の健康課題に対する支援の計画・立案の方法が理解できる。 4. 地域の健康課題の解決のための実践に対する適切な評価の方法が理解できる。
授業計画	<p><担当教員名> 伊藤純子、鈴木知代、入江晶子、仲村秀子、若杉早苗、高橋佐和子</p> <p>1) 地域の健康増進・問題解決に必要な基本的知識と地域診断技術 第 1 回：公衆衛生看護活動と問題解決パラダイム 第 2 回：公衆衛生看護活動の展開に用いる理論①：ヘルスコミュニケーション 第 3 回：公衆衛生看護活動の展開に用いる理論②：地域診断で用いるモデル 第 4 回：地域診断の意義と方法 第 5 回：地域保健計画の立案と保健事業計画の策定・実践・評価 第 6 回：公衆衛生看護活動の実際（外部講師：静岡県保健師）</p> <p>2) 地域診断に基づく公衆衛生活動展開の実際（対象別公衆衛生看護） 第 7 回：母子保健分野/ 施策と保健活動の実際 第 8 回：成人保健分野/ 施策と保健活動の実際 第 9 回：高齢者保健活動/ 施策と保健活動の実際 第 10 回：難病・精神・障害者（児） 施策と保健活動の実際</p> <p>3) 産業保健分野での保健活動 第 11 回：現代の産業保健分野における健康課題の特徴（外部講師：産業看護職） 第 12 回：現代の産業保健分野における活動の実際（外部講師：産業看護職）</p> <p>4) 公衆衛生看護活動展開の実際（小演習） （Aクラス）地域診断プレ演習 / （Bクラス）ヘルスコミュニケーション演習 第 13 回：（A）演習① 情報のアセスメント （B）動機づけ・自己効力感 第 14 回：（A）演習② 地域特性と健康課題の明確化 （B）行動変容を促す関わり 第 15 回：（A）演習③ 優先順位の決定と支援計画の立案 （B）組織化とグループダイナミクス</p>

アクティブ ラーニング	ケースメソッドを行う。事例に対するクラスディスカッションを通じ、保健専門職としての創造的問題解決能力を養う。学修の統合として小演習を行う。保健師課程履修希望者のAクラスでは、誌上事例を用いて地域診断シミュレーションを行う。Bクラスでは、グループ別学修として、個別の患者・対象者の健康教育・保健指導に必要なヘルスコミュニケーション演習を行う。
評価方法	定期試験 70%、課題提出物（Aクラス地域診断課題、Bクラス課題レポート） 30%
課題に対する フィード バック	原則、事前課題とリアクションペーパーが一体の用紙を配布し、課題への取り組み状況や質問を把握する。質問には授業内で全体に回答し、疑問と学びを共有する。小演習の課題については個別に目を通し、必要なコメントを付記する。また、演習中は科目責任者の他に4名の教員が巡回し、個別の疑問等には適宜その場で指導を行う。
指定図書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」, 医学書院, 2015. (公衆衛生看護学概論で購入済み) 標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動」, 医学書院, 2014. 国民衛生の動向, 厚生労働統計協会編 (保健医療行政論で購入済み)
事前・ 事後学修	事前学修: 事前に配布またはMoodleで配信されるワークシートに取り組み予習を行う (40分) 事後学修: 授業の学修課題に関するコメントシートを提出またはMoodle上で回答する (40分)
オフィス アワー	伊藤純子 (1607 研究室: junko-it@seirei.ac.jp) 時間については開講初日にお伝えします。

科目名	公衆衛生看護活動展開論演習
科目責任者	伊藤 純子
単位数他	1単位 (15時間) 選択 6セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	公衆衛生看護活動の基本的な理論・知識、特に「地域診断」に関する既修の知識・技術を統合して実践力を形成する。本演習では、公衆衛生看護学実習の実習地を対象として、実践的な地域アセスメントを行う。この演習で導き出された健康課題を仮説として、公衆衛生看護学実習の中で継続して検証し、健康課題を明確化するための調査計画並びに支援方法の立案を行う。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康課題の明確化に必要な量的、質的データを多角的に収集することができる。 2. 基本的な知識・理論を体系的に理解し、根拠に基づいてデータをアセスメントできる。 3. 対象地域の地域特性を把握し、健康課題を予測することができる。 4. 予測される健康課題に対し、公衆衛生看護学実習で検証するための調査計画が立案できる。 5. 予測される健康課題に対し、対象特性と健康課題の特性に適った支援方法を計画できる。
授業計画	<p><担当教員名>伊藤純子、仲村秀子、鈴木知代、入江晶子、若杉早苗</p> <p>1) 調査計画の立案 第1回：オリエンテーション 第2回：演習計画の作成</p> <p>2) 地域特性の予測分析（既存資料の分析） 第3回：身体的・社会的・文化的側面からの客観的・主体的な情報収集とアセスメント 第4回：社会資源について情報収集とアセスメント 第5回：自然及び生活環境（気候・公害等）について情報収集とアセスメント 第6回：対象者及び対象者の属する集団を全体とした情報収集とアセスメント 第7回：健康問題を持つ当事者の視点を踏まえたアセスメント 第8回：収集した情報とアセスメント項目相互の関連性を検討 第9回：分析結果の統合および地域特性の予測、健康課題の明確化</p> <p>3) 調査すべき健康課題の明確化（地区視診を含む） 第10回：健康課題の解決に必要な地域の人々が持つ力や資源の明確化 第11回：課題に対するアプローチとしての保健事業の概況の理解 第12回：健康課題の絞り込み 第13回：健康課題の再検討 第14回：公衆衛生看護学実習における調査計画の立案 第15回：調査報告会及びフィードバック</p>

アクティブ ラーニング	演習科目。ゼミを中心に、主体的な調査・分析の過程を学び、学会形式（ポスターセッション）の調査報告会を行う。
評価方法	演習記録・プレゼンテーション資料 70%、演習への取り組み 30%
課題に対する フィード バック	前半はゼミの場を中心に、教員が学生個別に、直接課題へのフィードバックを行う。調査報告会では、コメントカード・リアクションシールを用いて、教員と学生で、報告内容とプレゼンテーションに対するフィードバックを行って相互研鑽する。
指定図書	標準保健師講座 1 「公衆衛生看護学概論」, 医学書院, 2015. (公衆衛生看護学概論で購入済み) 標準保健師講座 2 「公衆衛生看護技術」, 医学書院, 2016. 標準保健師講座 3 「対象別公衆衛生看護活動」, 医学書院, 2014. (公衆衛生看護活動展開論で購入済み) 厚生労働統計協会編：国民衛生の動向（最新版）. 医療情報科学研究所：公衆衛生がみえる，メディックメディア，2014. 公衆衛生看護.jp, 第4版, インターメディカル, 2015. (公衆衛生看護技術論で購入済み)
事前・ 事後学修	ゼミ活動の中に事前・事後学修が位置付けられる。 事前学修：調査計画に基づいてデータ収集と整理を行う。指導教員ゼミでの報告に必要な準備及び資料作成を行う。(40分間) 事後学修：教員のフィードバックに沿って学生間で報告し確認をする時間を設ける(40分)
オフィス アワー	伊藤純子 (1607 研究室:junko-it@seirei.ac.jp) 時間については開講初日にお伝えします。

科目名	公衆衛生看護技術論	
科目責任者	入江 晶子	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター	
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。	
科目概要	<p>1. 地域で生活する人々が、自分自身の問題として健康問題をとらえ、解決できるように支援していくために必要な、保健行動の基本的知識・保健指導の理論および技術を理解できる。</p> <p>2. 個人・家族に対する保健指導の展開方法と、集団・組織、さらに地域支援へとつながる保健指導の展開方法を理解できる</p> <p>3. 地区組織活動の推進や他職種連携等に必要な技術について理解できる。</p>	
到達目標	<p>地域で生活する人々が、自分自身の問題として健康問題をとらえ、解決できるように支援していくために必要な、人間の保健行動に関する基本的知識及び行動変容を促す保健指導の方法を理解し、実践するために必要な技術について取り上げる。具体的には、公衆衛生看護活動を実践するための、保健指導、健康相談、スクリーニング、地区組織活動、専門職連携等に係る技術について学習する。</p>	
授業計画	<p>第 1 回：公衆衛生看護技術概論・保健指導概論（個別と集団の保健指導）</p> <p>第 2 回：保健指導に関する理論 1（保健行動に関する理論・保健信念モデル等）</p> <p>第 3 回：保健指導に関する理論 2（自己効力感・汎理論的モデル等）</p> <p>第 4 回：個別の保健指導技術概論（面接技術・健康相談と家庭訪問）</p> <p>第 5 回：個別の保健指導技術各論 1（健康相談と家庭訪問）</p> <p>第 6 回：個別の保健指導技術各論 2（家庭訪問と・ケース（ケア）マネジメント）</p> <p>第 7 回：健康診査概論</p> <p>第 8 回：健康診査 各論 1（スクリーニング）</p> <p>第 9 回：健康診査 各論 2（対象のアセスメント、事後指導、健康診査事業評価）</p> <p>第 10 回：集団の保健指導技術概論（健康教育概論）</p> <p>第 11 回：集団の保健指導技術（健康教育のプロセス）</p> <p>第 12 回：地区組織活動とグループ支援技術・ケース（ケア）マネジメント</p> <p>第 13 回：地域連携の実際 1（子ども・子育て支援地域連携：こども虐待）</p> <p>第 14 回：地域連携の実際 2（母子保健と地域連携：こども虐待）</p> <p>第 15 回：地域ケアシステムの構築・まとめ</p>	<p>入江晶子</p> <p>外部講師</p> <p>外部講師</p> <p>入江晶子</p>

アクティブ ラーニング	公衆衛生看護技術に関連した内容を取り上げる科目の為、アクティブラーニングの実施は、限定されますが、基本的な面接技術について、授業内で学生同士の演習を行うようにします。
評価方法	小テスト 20%、定期試験 60%、事前課題提出物 20%、合計 100% (講義の中で、小テストを 2 回実施予定)
課題に対する フィード バック	提出された事前学習課題は、授業開始前に返却し、授業内で学生に事前学習課題についてコメントします。小テストについては、実施翌週に返却し、解説を行います。
指定図書	荒賀直子、後閑容子編、「公衆衛生看護学」第 4 版 インターメディカル 2015. 厚生労働統計協会編、「国民衛生の動向」(最新版) 厚生労働統計協会編、「国民の福祉と介護の動向」(最新版) . 母子衛生研究会編、「妊娠期からはじめる親子の歯科保健テキスト」第 2 版 , 銚谷書店, 2008.
事前・ 事後学修	事前学習 授業内容と密接に関連する下記の項目はについて、授業進度に応じて、各授業時に 1 回 40 分程度の事前学習課題を提示します。課題は、授業前日までに提出していただき、授業開始前に返却します。 ①歯科保健指導 ②生活習慣病予防 ③集団力学・観察学習・自己効力について ④新生児の特徴・産後の母親の身体的精神的問題 ⑤母乳栄養・離乳食について ⑥小児の発達と発達障害について ⑦健康診査と保健指導について ⑧認知症とその対策について ⑨要保護児童対策について ⑩障害者支援と専門職連携について 事後学習 授業終了時に、授業内容に応じた確認用のチェック問題を提示し、授業の振り返りを行います。
オフィス アワー	科目責任者所属学部：看護学部 1207 研究室 毎水曜日 18 時以降 (水曜日以外でも可) お願い：可能な限り、あらかじめメールにて面談の予約をお願いします。 (syoko-i@seirei.ac.jp)

科目名	公衆衛生看護技術論演習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	1 単位 (30 時間) 選択 7 セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人のあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	多様な対象者の健康問題を予測し、予防的に対処していくための、専門的な知識や技術の習得及び、課題解決の過程(アセスメント・分析・診断・計画・実施・評価)の6つの要素を理解し、理論に基づいた主体的に関与・支援ができる技能を身につけるための授業です。さらに、公衆衛生看護活動を実践するための保健指導、健康相談、発達スクリーニング等に係る公衆衛生看護技術を習得します。
到達目標	1. 多様な対象者のセルフケア能力を高める保健指導計画の立案方法を理解できる。 2. 個人・家族に対する保健指導(個人・家族の健康支援)の展開ができる。 3. 集団に対する基本的な健康教育をおこなう方法を理解すると共に、地域支援(地域の健康課題)へとつながる保健指導の展開ができる。 4. 多様な対象者と信頼関係を持って保健指導するための知識・技術・態度を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 若杉早苗、鈴木知代、入江晶子、仲村秀子、伊藤純子</p> <p>I. 導入 (2 コマ) 第1回: オリエンテーション 若杉 第2回: 事業化に対する保健師の技術: 企画書作成のコツ 伊藤 事業化・施策化について 鈴木</p> <p>II. 集団を対象とした公衆衛生看護技術 (4 コマ) 第3回: 個別の特定健診結果・診療請求書(レセプト)から地域診断するテクニック(講義) 高塚保健師 第4~5回: 集団の保健指導技術(実習地域の地域診断計画の作成) 各教員 第6回: 集団の保健指導技術(実習地域の地域診断計画の共有: グループワーク) //</p> <p>III. 個人・家族を対象とした支援に必要な技術 (8 コマ) 第7回: 個別の保健指導技術1(講義) 若杉 (効果的な保健指導のアセスメント・指導計画作成技術) 第8回~9回: 保健指導の展開1 教員全員 (母子を対象としたアセスメント・訪問計画の作成) 第10回~11回: 保健指導の相談技術1 // (新生児・乳幼児の相談技術: 実践(学生同士のロールプレイ等)) 第12回: 保健指導の展開2 // (成人を対象とした特定健診結果からアセスメント・指導計画の作成) 第13回~14回: 保健指導・相談技術2 // (成人期の保健指導・相談技術: 実践(特定健診結果の説明、血圧測定技術チェック))</p> <p>IV. 地域全体を支援する事業化・施策化に必要な技術 (1 コマ) 第15回: 健康危機管理の支援技術(感染症) 鈴木</p> <p>個人・家族を対象とした相談・指導技術の実技試験をおこないます。(第1回目で内容を提示)</p>

アクティブ ラーニング	演習科目です。集団を対象とした学修では、個人ワーク、グループワーク、プレゼンテーションをします。個人・家族を対象とした学修では、保健師の実践技術をロールプレイや技術チェック技術試験により習得していきます。
評価方法	演習記録 50%、実技試験 30%、 演習への取り組み態度 20%
課題に対する フィード バック	ロールプレイや技術チェックの実践場面で個別にフィードバックをしていきます。 講義のコマではリアクション・ペーパーの記載により、課題を確認し、次回の演習でフィードバックしていきます。
指定図書	『乳幼児健診マニュアル 第5版』(医学書院) 『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』: 医学書院: 購入済み 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』: 医学書院: 購入済み 『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』: 医学書院: 購入済み 『国民衛生の動向 最新版 』: (厚生労働統計協会編): 購入済み 『国民の福祉と介護の動向 最新版 』: (厚生労働統計協会編): 購入済み
事前・ 事後学修	公衆衛生看護技術論の再確認のための事前課題を教員より提示します。 新生児・乳幼児の計測技術及び精神発達チェック項目・判断基準の復習(母性・小児看護学)
オフィス アワー	研究室: 1号館2階1210研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール (sanae-w@seirei.ac.jp) でアポイントメントをお願いします。(2017年度公衆衛生看護実習要項・記録冊子 p14 参照)

科目名	公衆衛生看護総合演習
科目責任者	鈴木 知代
単位数他	1単位 (30時間) 選択 8セメスター
科目の位置付	(5) 獲得した専門分野の知識・理論や技能等を総合的に活用し、それぞれの人にあわせて課題を解決する実践力につなげることができる。
科目概要	公衆衛生看護活動展開論演習と公衆衛生看護学実習で行った地域の健康課題抽出、活動計画立案の過程より、地域の健康課題とその課題を解決するための施策を検討するための思考過程を整理する。整理された施策の内容から、対策を1つ絞って事業案を作成し、事業化のプロセスを学ぶ。その事業案を、実習市町に提案し、地域の健康課題解決に貢献する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. これまでの公衆衛生看護活動展開論演習や公衆衛生看護学実習において、公衆衛生看護活動は、PDCA サイクルによって展開されていることを再認識できる。 2. 今までの演習や実習で取り組んだ内容を、情報収集、健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として再度整理することができる。 3. 2で整理した過程より、健康課題を明確化し、施策を検討することができる。 4. 施策を実現するための事業化案を作成することにより、施策と事業の位置づけを理解することができる。 5. 事業化のプロセスを述べることができる。 6. 地域の健康課題解決のための事業を市町に提案し、健康課題の解決に学生として貢献することができる。 7. 事業案を発表することによって、プレゼンテーション能力が向上できる。
授業計画	<p><担当教員名> 鈴木知代、入江晶子、仲村秀子、伊藤純子、若杉早苗</p> <p>第1回：演習オリエンテーション</p> <p>第2回：公衆衛生看護学実習で収集した健康問題関連情報を整理し、統合して、分析する。</p> <p>第3回：3年次の演習・4年次の実習で得た情報を統合し、分析する。</p> <p>第4回：今まで出ていた地域の健康課題を再度検討し、根拠を明らかにする。そして、課題解決のための既存事業の改善や社会資源の開発なども検討する。</p> <p>第5回：健康課題抽出、活動計画策定、実施、評価の一連の過程として整理する。</p> <p>第6～8回：地域の健康課題解決のための事業案を作成する。</p> <p>第9回：プレゼンテーション資料の作成 *事業の企画書作成、パワーポイントで説明する（事業の根拠となるデータや社会資源等）。</p> <p>第10・11回：事業案をグループ毎に発表し、市町単位で情報を共有する。</p> <p>第12～14回 *市町・保健所の実習指導者をお招きして、地域の健康課題解決のための事業案を発表する。 事業案は、事業の目的、裏付けとなる根拠、内容、評価、予算について提案する。 事業案は、新規事業だけではなく、既存の事業の修正なども含み、提案する。 *指導者からは、提案した事業に対して、実現可能性に向けて、修正点や改善点への助言をいただく。</p> <p>第15回：これまでの事業化プロセスを、一人ひとり振り返る 教員からのコメント</p>

アクティブ ラーニング	3年次の公衆衛生看護活動展開論演習、4年次の公衆衛生看護学実習から連動しています。これは、地域診断から事業化に取り組む演習です。グループメンバー一人ひとり意見を出し合って、グループで協力して取り組んでください。
評価方法	演習への取り組み (20%) 演習全体(資料内容、事前プレゼンテーション等 (40%) 当日の発表内容 (20%) 各自の振り返りレポート (20%)
課題に対する フィード バック	フィードバックについては、各回ごとに担当教員と話し合い、目標達成状況や作成資料の状況等についてフィードバックを行う。
指定図書	標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」医学書院：(購入済み) 標準保健師講座2「公衆衛生看護技術論」医学書院：(購入済み) 標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動論」医学書院：(購入済み) 「公衆衛生がみえる」メディックメディア：(購入済み)
事前・ 事後学修	事前学修は、演習第1回目までに、3年次の公衆衛生看護展開論演習時、4年次の公衆衛生看護学実習時において収集した地域診断のために収集した情報や、検討した地域の課題等、関連する情報を整理する。今まで授業で学んだ地域診断、公衆衛生看護活動の計画・実践・評価のプロセスをテキストや授業配布資料等を使って復習する。各グループのテーマの文献を収集する。事後学修は、各回ごとに教員の助言を受け、不足する部分の内容を補う。
オフィス アワー	各教員のオフィスアワーの時間が異なりますので、授業初日に提示します。 鈴木知代 (1215 研究室:tomoyo-s@seirei.ac.jp) 入江晶子 (1207 研究室:syoko-i@seirei.ac.jp) 仲村秀子 (1212 研究室:hideko-n@seirei.ac.jp) 伊藤純子 (1672 研究室:junko-it@seirei.ac.jp) 若杉早苗 (1220 研究室:sanae-w@seirei.ac.jp)

科目名	公衆衛生看護管理論
科目責任者	鈴木 知代
単位数他	1単位 (15時間) 選択 8セメスター
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	公衆衛生看護管理は、保健師活動の質を高めるための活動であり、だれもが暮らしやすい地域になるように働きかけることであり、保健師の専門性そのものである。 この公衆衛生看護管理の機能について学び、保健師の専門性について考える。
到達目標	1. 公衆衛生看護管理がなぜ必要か、理解することができる。 2. 保健師活動における看護管理の特徴、機能を理解することができる。 3. 保健師活動の中で、公衆衛生看護管理の機能を見出すことができる。 4. 健康危機管理の視点で、公衆衛生看護活動が理解できる。
授業計画	<p>第 1 回：公衆衛生看護管理の目的と機能 鈴木知代</p> <p>第 2 回：公衆衛生看護における管理機能（事例管理、地区管理、事業・業務管理、組織運営管理、予算管理、人事管理・人材育成、情報管理）、地域ケアの質の保証 鈴木知代</p> <p>第 3 回：公衆衛生看護管理の実際について ゲストスピーカー</p> <p>第 4 回：公衆衛生看護活動の展開事例から、管理機能の分析、ミニテスト （認知症高齢者とその家族への支援事例を活用して） 鈴木知代・若杉早苗</p> <p>第 5 回：健康危機管理の定義と要因、リスクマネジメント、リスク評価の視点 鈴木知代 公衆衛生看護学実習（保健所実習）で聞き取った保健師の健康危機管理活動の情報交換</p> <p>第 6 回：健康危機管理(災害) 災害の定義と保健活動の目的、制度とシステム 若杉早苗</p> <p>第 7 回：平常時、災害応急対策期、災害復旧・復興対策期の実際の保健活動 ゲストスピーカー</p> <p>第 8 回：健康危機管理（感染症） 感染症集団発生時の保健師活動、パンデミック事例の活動 鈴木知代</p>

アクティブ ラーニング	<p>毎回、短時間のグループディスカッションを取り入れる。</p> <p>第4回では、事前に課題として事例を提示し公衆衛生看護管理の視点で、各自でまとめる。それをもとに授業では、グループで話し合っ、管理機能の視点をまとめていく。</p> <p>第5回では、公衆衛生看護学実習で聞き取った健康危機管理事例の各保健所の活動を、グループで情報共有し、健康危機管理における保健師の支援の視点をまとめる。</p>
評価方法	<p>レポート1：実際の活動より公衆衛生看護管理の機能をまとめる（30%）</p> <p>レポート2：保健師の活動展開事例より公衆衛生看護管理の機能を分析する（30%）</p> <p>ミニテスト：10%</p> <p>レポート3：災害時の保健師活動の文献を読んで、保健師の役割のまとめる（30%）</p>
課題に対する フィード バック	<p>第4回では、事前にまとめた事例の公衆衛生看護管理の機能について、グループで話し合った後に、要点のフィードバックを行う。</p> <p>第5回では、保健師の健康危機管理事例における活動の内容を振り返り、保健師の支援内容について、要点のフィードバックを行う。</p> <p>ミニテストは、解説をして解答を提示する。</p>
指定図書	<p>標準保健師講座1「公衆衛生看護学概論」医学書院：（購入済み）</p> <p>標準保健師講座2「公衆衛生看護技術論」医学書院：（購入済み）</p> <p>標準保健師講座3「対象別公衆衛生看護活動論」医学書院：（購入済み）</p> <p>「公衆衛生がみえる」メディックメディア：（購入済み）</p>
事前・ 事後学修	<p>事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書のページを指定する、または、課題を提示するので、その部分を読む、課題に取り組む等、40分以上の予習をして授業に臨むこと。</p> <p>事後学修：授業の内容をもとに復習の要点、各自が調べる内容を提示するので、各自その課題に取り組む。</p>
オフィス アワー	<p>鈴木知代（1215 研究室:tomoyo-s@seirei.ac.jp）</p> <p>若杉早苗（1220 研究室:sanae-w@seirei.ac.jp）</p> <p>時間帯については初回授業時に提示します。</p>

アクティブ ラーニング	毎回、短時間のグループディスカッションを取り入れる。 第4回では健康診断の実習を、第5・8・9回ではロールプレイングを行う。
評価方法	課題提出物 40%、定期試験 60%
課題に対する フィード バック	レポートはコメントを添えて返却する。 リアクションペーパーは全体場でフィードバックを行う。 筆記試験は解答例を提示する。
指定図書	津島ひろ江「学校における養護活動の展開」ふくろう出版
事前・ 事後学修	事前学修：授業内容やテーマについて、指定図書を参考に40分以上の予習をして臨むこと。 毎授業時、学習状況を確認するとともに、適宜ミニテストを実施する。 事後学修：授業の配布資料などをもとに40分以上の復習をすること。 適宜、授業内容についてのレポート課題を課す。
オフィス アワー	科目責任者 高橋佐和子 (2707 研究室:sawako-t@seirei.ac.jp) 基本的に水曜日の9~11時としますが、そのほかの曜日・時間でも可能な限り対応します。 事前にメールで連絡をしてください。

科目名	公衆衛生看護学実習
科目責任者	若杉 早苗
単位数他	4単位 (180時間) 選択 7 Semester
科目の位置付	(6)保健医療福祉領域において自らの専門性を自覚し、多職種と連携、協働して、その責務を果たすことができる。。
科目概要	都道府県及び政令指定都市や市町の行政責任において実施されている公衆衛生看護活動の実際を理解し、地域で生活している全ての人々を対象とした予防的意義の高い保健活動の実際を学ぶ。さらに、地域で生活している人々が安心して暮らせるための地域ケアシステム構築のための公衆衛生活動（地区活動）のあり方を考察する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 地域診断を行い地域の健康課題を明らかにし、その解決策を検討することができる。 2. 事業の体系として施策が理解でき、施策の策定における地域ケアシステムの機能と運営について考えることができる。 3. 個人・家族・集団に対して健康課題解決のための公衆衛生看護技術の実践ができる。 4. 地域の住民や関係機関と連携して活動する意義が理解できる。
授業計画	<p><担当教員名> 若杉早苗、鈴木知代、入江晶子、仲村秀子、伊藤純子</p> <p>第1日目：公衆衛生看護学実習についてのオリエンテーション 実習のプロセス：家庭訪問（主体的実践）、健康教育、地域診断の3つの軸で実習をおこなう 第2～20日目</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 家庭訪問：選定した対象者の主体的な保健指導実践 <ol style="list-style-type: none"> 1) 家庭訪問事例の選定 2) 保健師の家庭訪問に同行・見学 3) 選定事例のアセスメント及び訪問計画・保健指導計画作成 4) 主体的訪問の実践（実施）及び評価 2. 健康教育：健康課題を解決するための教育計画の作成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護活動展開演習で抽出した健康問題に対する教育計画の作成 2) 健康教育対象者の選定 3) 保健師がおこなう健康教育の見学 4) 健康教育の準備（リハーサル） 5) 健康教育の実施及び評価 3. 地域診断：収集した健康問題の分析報告と関連する保健事業体系図の作成 <ol style="list-style-type: none"> 1) 公衆衛生看護活動展開演習で抽出した健康問題に関連する情報と収集する方法を検討し、地域診断計画を作成する 2) 地域診断計画に沿って質的・量的情報収集をおこなう 3) 収集した情報を分析し、健康問題を明確化する 4) 抽出された健康問題に対し、現在行われている保健事業、対策を把握する 5) 地域診断により導きだされた健康課題に関連する保健事業のつながりを体系図で示す <p><実習時の体験項目></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健師技術習得：家庭訪問及び健康教育の実践 2. 地域診断：事業評価の統計分析 3. 保健事業のつながり：保健事業の体系図作成 4. 行政システムの理解：対象者を支援するシステムについて実習を振り返り整理する 5. 健康危機管理における公衆衛生看護活動の理解：集団感染症発生時の活動の聞き取り

アクティブ ラーニング	実習科目です。
評価方法	実習記録 60%、課題レポート 20%、 実習に取り組む姿勢や態度 20%
課題に対する フィード バック	日々の実習日誌及び日々のミニカンファレンスでフィードバックをおこないます。
指定図書	『乳幼児健診マニュアル 第5版』(医学書院) 『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』: 医学書院: 購入済み 『標準保健師講座 2 公衆衛生看護技術』: 医学書院: 購入済み 『標準保健師講座 3 対象別公衆衛生看護活動』: 医学書院: 購入済み 『国民衛生の動向 最新版』: (厚生労働統計協会編): 購入済み 『国民の福祉と介護の動向 最新版』: (厚生労働統計協会編): 購入済み
事前・ 事後学修	公衆衛生看護に関わる法律を基本としたワーク(母子保健法、介護保険法等_2017年度公衆衛生看護実習要項・記録冊子 p4 参照) 実習で参加する事業に関係する事前・事後課題は随時、担当教員より紹介します。
オフィス アワー	研究室: 1号館2階1210研究室です。不在にすることが多いため、面談・指導等が必要な場合は、事前に指導担当教員にメール(sanae-w@seirei.ac.jp)でアポイントメントをお願いします。(2017年度公衆衛生看護実習要項・記録冊子 p14 参照)

科目名	養護概説
科目責任者	高橋 佐和子
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター
科目の位置付	2. 教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	学校における養護・看護活動には、在籍する全児童生徒等の保健・安全管理、保健・安全教育、学校保健に関する教職員との組織活動などがある。学校は、発達発育期にある児童生徒等を対象に、生涯にわたり健康な生活をするために必要な健康に関する基本的な知識・技術・態度の形成を図る教育の場である。学校組織及び児童生徒の特徴、保健室の役割と養護教諭の教育活動について学び、養護実践の基礎を養う。
到達目標	養護教諭の職務内容に関する基礎的な知識及び指導・支援の方法を修得できる。 1. 学校保健の対象である児童生徒等の特性と発育発達課題を説明できる。 2. 児童生徒等の心身の健康と安全に関する実態と課題を説明できる。 3. 学校における養護教諭の役割と校内組織との関連を説明できる。 4. 専門職の養護教諭として必要な知識・技術・態度を身につけることができる。 5. 学校内外の保健関係組織との連携及び協働活動の必要性と養護教諭の役割を説明できる。
授業計画	<p>第1回：養護教諭の専門性 高橋佐和子</p> <p>第2回：児童生徒の発育発達課題と健康実態 高橋佐和子</p> <p>第3回：健康診断・環境衛生管理の技術と方法 高橋佐和子</p> <p>第4回：児童生徒の健康診断・保健調査と健康管理 高橋佐和子 (学校保健管理ソフトの演習を含む) (ゲストスピーカー：ソフト開発者)</p> <p>第5回：保健教育(ヘルススキル教育)における養護教諭の役割 高橋佐和子</p> <p>第6回：保健科教育(保健学習)指導案と教材づくり 高橋佐和子</p> <p>第7回：保健科指導案の発表と討議 高橋佐和子</p> <p>第8回：保健室における保健啓発活動(保健だより・掲示物) 高橋佐和子</p> <p>第9回：保健室における教育相談活動とその記録 高橋佐和子</p> <p>第10回：養護教諭の教育活動の実際 (ゲストスピーカー：養護教諭)</p> <p>第11回：保健室における養護診断と救急処置 高橋佐和子 (アレルギー対応について)</p> <p>第12回：保健室における養護診断と救急処置 高橋佐和子 (学校で多く発生するけがの手当について)</p> <p>第13・14回：学校診断(演習と討論) 高橋佐和子</p> <p>第15回：養護教諭の能力形成 まとめ 高橋佐和子</p>

アクティブ ラーニング	第1・2・9回はPBL、第3-8・11-14回は演習を、第9回ではロールプレイングを行う。
評価方法	課題提出物 30%、筆記試験 70%
課題に対する フィード バック	レポート及びリアクションペーパーはコメントを添えて返却する。 筆記試験は解答例を提示する。
指定図書	1. 学校保健安全実務研究会編：「新訂版 学校保健実務必携」第一法規 2. 津島ひろ江：「学校における養護活動の展開」ふくろう出版
事前・ 事後学修	毎授業時、学習状況を確認するとともに、前回の学習課題に関するミニテストを行う。また第4・10回は授業内容についてのレポート、第6回は授業案、第8回は保健だより、第13回は学校診断の課題を課す。 各回の授業計画に沿って指定図書を参考に40分以上の予習をして授業に望むこと。 配布資料をもとに40分以上の復習をしておくこと。
オフィス アワー	科目責任者 高橋佐和子（看護学部、2707 研究室:sawako-t@seirei.ac.jp） 基本的に水曜日の9～11時としますが、そのほかの曜日・時間でも可能な限り対応します。 事前にメールで連絡をしてください。

科目名	教職概論
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2セメスター
科目の位置付	2. 教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	<p>教職免許状の取得をめざす学生として、教職の意義や教員として果たすべき役割、その使命と職務内容に関して理解を深めるとともに、自分自身が本当に教員という仕事に情熱をもって取り組むことができるかどうか、色々な視点から考えることが、この授業の目的となります。</p> <p>自分自身で考える理想の教員像や、これから教員となる為に何を勉強すればよいのかを考えることも課題となります。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 教員という仕事の役割と使命について、その職務内容を理解し、説明できること 2 自分の理想とする教員像を構築し、これから何を学び身につけていくべきか、具体的に言語化することができる。 3 今日の学校教育現場の変化と問題などに関して理解し、その概要と対応策を 400 字程度で事例をあげながら説明できるようになること。
授業計画	<p>第 1 回 教員になるためにーオリエンテーション：講義内容の概要 教員免許状の種類と教職課程で学ぶこと</p> <p>第 2 回 職場としての学校とは：法的定義、学校の制度的特徴</p> <p>第 3 回 学校教育の役割と教員の使命：教育基本法</p> <p>第 4 回 学校教育の役割と教員の使命：学校教育法と教育公務員特例法</p> <p>第 5 回 教員の職務内容：学習指導</p> <p>第 6 回 教員の職務内容：生活指導</p> <p>第 7 回 教員の職務：養護教諭の職務の実態 ゲストスピーカー：高橋佐和子先生</p> <p>第 8 回 教員の職務：養護教諭の職能成長 ゲストスピーカー：鈴木恵子先生</p> <p>第 9 回 教員の権利と身分保障について：服務規程</p> <p>第 10 回 教員の権利と身分保障について：懲戒・分限処分</p> <p>第 11 回 教員の研修制度について</p> <p>第 12 回 教育病理 1 いじめ</p> <p>第 13 回 教育病理 2：不登校・学級崩壊・校内暴力</p> <p>第 14 回 教育病理 3：学校現場の対応</p> <p>第 15 回 まとめ</p>

アクティブ ラーニング	キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー
評価方法	授業内評価 60%(小テスト・提出課題・レポート・授業態度) + 定期試験 40% で総合評価します。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する
事前・ 事後学修	事前・事後の学習として、毎回配布する授業のテキスト・プリントを最低3回は熟読してきて下さい。提出課題をしっかりと完成させて提出して下さい。
オフィス アワー	火曜日 4限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。

科目名	教育原理
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 1 セメスター
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	<p>教員免許状の取得を目指す学生が、教員として現場で教育活動に従事する際に、最低限必要と思われる「教育の原理」の基礎を理解することを目的とする。</p> <p>「教育はどういう営みか」という基本的な問いに始まり、日本と諸外国の教育の思想と歴史を理解し、現代における教育の役割と意義について考える。</p>
到達目標	<p>1. 教育とは何か、その意義と目的について理解し、説明できるようにする。</p> <p>2. わが国と欧米諸国の学校教育の歴史を理解し、古代、中世、近代、現代におけるその特徴を説明できるようにする。</p>
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション (授業の進め方と評価について)</p> <p>第 2 回：教育の意義と目的 (形成と教育 教育とは何か?)</p> <p>第 3 回：教育の意義と目的 (遺伝の重要性と限界)</p> <p>第 4 回：教育の意義と目的 (自然環境と社会環境)</p> <p>第 5 回：教育の意義と目的 (社会の再生産と教育)</p> <p>第 6 回：教育の歴史 (世界の教育史 古代)</p> <p>第 7 回：教育の歴史 (世界の教育史 中世)</p> <p>第 8 回：教育の歴史 (世界の教育史 近代 子どもの発見)</p> <p>第 9 回：教育の歴史 (世界の教育史 近代 産業革命の影響)</p> <p>第 10 回：教育の歴史 (世界の教育史 近代公教育制度の完成)</p> <p>第 11 回：教育の歴史 (世界の教育史 福祉国家と教育)</p> <p>第 12 回：教育の歴史 (日本の教育史 中世・近代)</p> <p>第 13 回：教育の歴史 (日本の教育史 公教育制度の成立)</p> <p>第 14 回：教育の歴史 (日本の教育史 第 2 次世界大戦前・後の教育制度)</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	グループ・ディスカッション、ミニッツ・ペーパー、復習テスト
評価方法	平常点（60% 小テスト・提出レポート 50% + 授業態度 10%）+ 最終テスト（40%） *毎回の授業の最後には、小テストを実施して平常点として評価します。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート・リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示 筆記試験の解答例の提示
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
事前・ 事後学修	事前事後の学修活動として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して来てくだ さい。 提出課題をしっかりと取り組んで下さい。 提出課題の修正を次回までにしっかりとやってきて下さい。
オフィス アワー	火曜日 4 限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室して下さい。

科目名	教育心理学	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 2セメスター	
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。	
科目概要	学校における教育活動を効果的に行うために必要な、児童生徒の認知・思考・対人関係等の心理面、児童生徒達が自ら積極的に学ぼうとするような指導方法や関わり方、学校現場で生じる対人関係の特質などの教育心理学的知見を紹介して、受講者とともに検討する。	
到達目標	1. 児童生徒理解のために必要な知識・理論を修得する。 2. 児童生徒の認知・思考・対人関係等の心理面、指導方法、適応・不適応などの教育心理学的知見に関する基本事項とその意義について理解する。 3. 上記2の事柄を基にして、学校教育場面で教育者として児童生徒とどのように関わるのかについて考えることができるようになる。	
授業計画	第 1 回： 教育心理学を学ぶことの意義 第 2 回： 動機づけ・やる気を高める 1 (内発的/外発的動機づけ) 第 3 回： 動機づけ・やる気を高める 2 (原因帰属、学習性無力感) 第 4 回： 動機づけ・やる気を高める 2 (自己効力、目標設定) 第 5 回： 記憶について (短期記憶、長期記憶、忘却) 第 6 回： 学習理論について 1 (古典的/道具的条件づけ) 第 7 回： 学習理論について 2 (観察学習、代理強化) 第 8 回： 教授方法について 第 9 回： 教育評価 (児童生徒をどう評価するのか) 第 10 回： 児童生徒-教師関係(ピグマリオン効果) 第 11 回： 学級という集団(集団規範、集団圧力、凝集性) 第 12 回： 学校における適応と不適応 1 (総論) 第 13 回： 学校における適応と不適応 2 (いじめ) 第 14 回： 学校における適応と不適応 3 (不登校) 第 15 回： 学校における養護教諭の役割	長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 高橋佐和子

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・クリッカーによる双方向的な授業を行う。 ・授業で扱うトピックに関する問いについてグループで議論して、全体で共有する。
評価方法	定期試験80%, 授業への取り組み状況20%
課題に対する フィード バック	前回のリアクションペーパーの感想や質問へのコメントや回答を全体に向けて口頭で行う。また、前回の内容のおさらいのための設問(2~3問)を出して、クリッカーで回答してもらい、その場で結果と解説をフィードバックする。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	授業中配布された資料・プリントに沿って復習を行う。また、講義内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を40分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜日午後2時~5時は在室していることが多い。そのほかの曜日・時間帯でも対応可能な時がある。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けている。

科目名	教育制度論
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	<p>教育を「公的に制度化され、組織化されてきたもの」ととらえ、日本の教育制度はどのような原則と理論的枠組みで組織されているのか、社会においてどのような機能を果たしているかを理解する。</p> <p>教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みを理解し、その下で運営される学校経営の組織と人員配置について理解を深める。最後に、現在の教育制度改革の論議を取り上げ、今後の教育制度の創造へのあり方を考える。</p>
到達目標	<p>1 現代社会の公教育は、どのような原則と理論的枠組みで組織されているか説明できるようにする。</p> <p>2 教育制度を運営する教育行政機関としての教育委員会制度の理念と仕組みと学校経営について理解を深め、説明できるようにする。</p> <p>3 今日の公教育制度の問題点と教育制度改革について理解し、説明できるようにする。</p>
授業計画	<p>第 1 回：公教育・私教育とは何か？</p> <p>第 2 回：公教育の制度的原理</p> <p>第 3 回：日本の教育制度：我が国の学校教育体系教育制度の類型：アーティキュレーションとインテグレーション</p> <p>第 4 回：日本の教育制度の歴史</p> <p>第 5 回：諸外国の教育制度</p> <p>第 6 回：教育行政の組織と活動 1：教育行政とは</p> <p>第 7 回：教育行政の組織と活動 2：文部科学省について</p> <p>第 8 回：教育行政の原則と活動 3：教育委員会の仕組み</p> <p>第 9 回：教育行政の組織と活動：教育委員会の組織と活動</p> <p>第 10 回：教育行政の組織と活動：教育委員会による教員採用</p> <p>第 11 回：学校経営：学校経営の組織と人員配置</p> <p>第 12 回：教育改革：学校選択と学校参加</p> <p>第 13 回：教育改革：コミュニティー学校の調査</p> <p>第 14 回：教育改革：コミュニティー学校のレポート作成</p> <p>第 15 回：まとめ</p>

アクティブ ラーニング	キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー、グループ・ディスカッション
評価方法	授業内評価60%(提出課題・小テスト50%・授業態度10%)＋ 定期試験40%で総合評価する
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
事前・ 事後学修	事前事後の学修活動として、毎回配布するテキスト・プリントを最低3回は熟読し、提出課題をしっかりと取り組んで下さい。 提出課題の修正を次回までにしっかりとやって下さい。
オフィス アワー	火曜日4限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。

科目名	教育課程論
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 3セメスター
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	学校教育は意図的・計画的に行われなければならない。そこで学ぶ教育内容は、子どもたちの心身の発達や興味・関心などを踏まえ、社会の要請や目的に照らして体系的に構成される必要がある。この授業では、近代社会の教育課程の歴史的な経緯を理解するとともに、わが国と世界の教育課程について理解を深める。
到達目標	日本と世界の教育課程の原理・歴史について理解し、現代の我が国の教育課程のあり方を説明できるようになる。 養護教諭が行う保健指導は、教育課程においてどのように位置づけられているかを理解する。
授業計画	第 1 回：教育課程の意義(教育課程とカリキュラム 教育課程の基準) 第 2 回：教育課程の歴史的展開 (古代の教育課程) 第 3 回：教育課程の歴史的展開 (近代の教育課程) 第 4 回：教育課程の歴史的展開 (現代の教育課程) 第 5 回：わが国の教育課程改革の歴史的展開 (明治および国家主義教育課程の成立) 第 6 回：わが国の教育課程改革の歴史的展開 (戦後「新教育」のカリキュラム改革) 第 7 回：学習指導要領の改訂の変遷 (現在の学習指導要領) 第 8 回：わが国の教育課程行政 (教育課程行政の概略、教育課程の基準の策定) 第 9 回：わが国の教育課程行政 (学習指導要領の改訂の変遷) 第 10 回：教育課程編成の社会的基盤 (社会の変化に対応する教育のあり方) 第 11 回：総合的な学習の教育課程 第 12 回：諸外国の教育課程 (アメリカ・中国・韓国) 第 13 回：養護教諭の行う保健教育活動 第 14 回：養護教諭の保健指導における教育課程 第 15 回：まとめ

アクティブ ラーニング	キーワード・レポート、復習テスト、ミニッツ・ペーパー
評価方法	授業内の取り組み 60% (提出課題 ・ レポート 50% 授業態度 10%) + 最終試験 40% で総合評価する
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	文部科学省 ①『小学校学習指導要領』②『小学校学習指導要領解説 体育編』③『小学校学習指導要領解説 特別活動編』④『中学校学習指導要領』⑤『中学校学習指導要領解説 保健体育編』⑥『中学校学習指導要領解説 特別活動編』を購入すること。授業内で配布するプリントをテキストとする。
事前・ 事後学修	事前事後の活動として、毎回配布するテキストプリントを最低3回は熟読してくる。事後学習として、毎回の提出課題をしっかりと完成させること。
オフィス アワー	火曜日 4限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室してください。

科目名	道徳及び特別活動の指導法	
科目責任者	梅澤 収	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター	
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。	
科目概要	<p>(担当：米原 優)</p> <p>「道徳的ジレンマ」という古典的な問いをスタートとゴールに据えつつ、これまでの道徳教育の歴史を振り返り、道徳教育の意義とあり方を考えていく。そのうえで、児童・生徒の道徳性の発達も念頭に置きながら、実践例を検討したり、指導案を構想したりする。</p> <p>(担当：梅澤 収)</p> <p>学校教育における特別活動の意義づけについて理解し、その歴史も振り返りつつ、実際の特別活動の実践事例を検討し、そのうえに立って指導計画も構想する。</p>	
到達目標	<p>1. 学校教育における道徳（の時間）の意義や主要な論点などを理解し、児童・生徒の発達に即した道徳教育の実践について考察する。</p> <p>2. 学校教育における特別活動の意義や一般的な指導法などを理解し、児童・生徒個々人の成長・自己実現や、対人関係・集団づくりに寄与する特別活動の実践について考察する。</p>	
授業計画	<p>第 1 回：道徳とは？道徳教育とは？～道徳は教えられるか～</p> <p>第 2 回：学習指導要領における「道徳」と「道徳の時間」</p> <p>第 3 回：道徳教育（論）の歴史</p> <p>第 4 回：道徳教育の理論（1：他律と自律、徳目・規範意識と判断力）</p> <p>第 5 回：道徳教育の理論（2：「道徳性の発達理論」をめぐって）</p> <p>第 6 回：道徳教育の実践（1：資料の読解と討議、「ジレンマ教材」など）</p> <p>第 7 回：道徳教育の実践（2：グループ・エンカウンターなど）</p> <p>第 8 回：小括～道徳は、いかにして教えられるか～</p> <p>第 9 回：特別活動とは？～学習指導要領における特別活動～</p> <p>第 10 回：特別活動の理論</p> <p>第 11 回：特別活動の前史と展開</p> <p>第 12 回：特別活動の実践（1：学級活動を中心に）</p> <p>第 13 回：特別活動の実践（2：学校行事を中心に）</p> <p>第 14 回：特別活動の実践（3：地域社会との連携）</p> <p>第 15 回：まとめ</p>	<p>米原 優</p> <p>梅澤 収</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	授業の中間および最終レポート(計80%)に、授業への参加度等(20%)を加味して総合評価する。
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
事前・ 事後学修	事前には、それぞれの小・中学校の「道徳」や「特別活動」について記憶をたどっておいて下さい。事後については授業中に連絡・指示します。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	教育方法論
科目責任者	成松 美枝
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 4セメスター
科目の位置付	2. 教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	本授業では、授業の構成要素である目標、内容、指導方法・学習方法、指導組織形態、学習組織形態、学習環境・メディア、学習評価などについて、具体的な事例に基づいて理解を深める。特に、授業とはなにか、授業の原理について理解しながら、教育課程の編成、その意義および方法を考察する。また、模擬授業の作成や実践を通して、授業の計画・実施・評価のあり方について理解する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業とは何か、授業の原理について理解し、説明できるようになる。 ・ 教育方法の歴史について理解し、説明できるようになる。 ・ 具体的な授業づくりと模擬授業を体験し、実践できるようになる。
授業計画	<p>第 1 回： 教育方法を学ぶことの意義</p> <p>第 2 回： 教育方法学の歴史（教授学の成立とコメニウス）</p> <p>第 3 回： 教育方法学の歴史（国民国家の教育学とヘルバルト主義）</p> <p>第 4 回： 教育方法学の歴史（行動科学の教育技術学）</p> <p>第 5 回： 日本の授業と授業研究（授業の成立と制度化）</p> <p>第 6 回： 日本の授業と授業研究（授業の原理）</p> <p>第 7 回： 日本の授業と授業研究（教科書・教材・教具の科学）</p> <p>第 8 回： 日本の授業と授業研究（授業研究と教職研究）</p> <p>第 9 回： 授業のパラダイム転換（過程－産出モデル）</p> <p>第 10 回： 授業のパラダイム転換（教育目標と教育評価）</p> <p>第 11 回： 授業のパラダイム転換（理論的知識と実践的知識）</p> <p>第 12 回： 授業をつくる：学習指導案の作成</p> <p>第 13 回： 授業をつくる：学習指導案の完成</p> <p>第 14 回： 授業を実践する：模擬授業の展開</p> <p>第 15 回： 授業の実践と評価</p>

アクティブ ラーニング	学生授業、ミニッツ・ペーパー、復習テスト
評価方法	平常点 (60%:小テスト・学習指導案の作成 40%・模擬授業・授業態度 20%) + 最終試験 (40%) *毎回の授業の最後に小テストを実施して、平常点として評価します。
課題に対する フィード バック	各種テストの解答例の提示、レポート、リアクション・ペーパーへのコメントのスライド提示
指定図書	授業中に配布するテキスト・プリントを使用する。
事前・ 事後学修	事前事後の学修活動として、毎回配布するテキスト・プリントを最低 3 回は熟読して来てくだ さい。 提出課題をしっかりと取り組んで下さい。 提出課題の修正を次回までにしっかりとやって下さい。
オフィス アワー	火曜日 4 限目 1711 研究室 E-mail: mie-n@seirei.ac.jp で予約をして来室して下さい。

科目名	生徒指導の理論と方法
科目責任者	井出 智博
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 7セメスター
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	生徒一人一人を理解・指導する方法、不適応・問題行動の指導、自己理解を促し自己肯定感を育てる開発的生徒指導について、実際の事例や体験的学習を通して習得する。生徒個人のニーズを的確に把握して、適切なアプローチができるための知識を身につけることができる授業にしていきたい。
到達目標	1. 学校教育における生徒指導とは何かについて正しく理解できる。 2. 生徒指導の具体的な方法を理解し、実践できる。 3. 生徒指導に関連する児童生徒の問題の実態とその問題への支援方法を理解し、実践できる。 4. 児童生徒の成長を促す支援方法について理解し、実践できる。
授業計画	<p>第 1 回：オリエンテーション (学校における養護教諭の役割)</p> <p>第 2 回：心理教育 (自己理解と他者理解) 1</p> <p>第 3 回：心理教育 (自己理解と他者理解) 2</p> <p>第 4 回：発達と子どものサイン</p> <p>第 5 回：話の聴き方</p> <p>第 6 回：児童生徒理解の方法 1</p> <p>第 7 回：児童生徒理解の方法 2</p> <p>第 8 回：発達障害 1</p> <p>第 9 回：発達障害 2</p> <p>第 10 回：発達障害と愛着障害 ～児童虐待～</p> <p>第 11 回：スクールトラウマ ～いじめ・事件・事故～</p> <p>第 12 回：不登校</p> <p>第 13 回：多様な性と学校教育 1</p> <p>第 14 回：多様な性と学校教育 2</p> <p>第 15 回：総括</p>

アクティブ ラーニング	なし
評価方法	講義中のミニレポート 20%, 講義中の取り組みの姿勢 20%, 定期試験 60%
課題に対する フィード バック	なし
指定図書	なし
事前・ 事後学修	「生徒指導提要」に目を通し，生徒指導についての理解を深めた上で受講すること。
オフィス アワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。

科目名	教育相談の理論と方法	
科目責任者	長峰 伸治	
単位数他	2単位 (30 時間) 選択 5セメスター	
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。	
科目概要	児童生徒の心の問題に対応する上で必要なカウンセリング（傾聴）技法についてロールプレイなどの体験学習を行う。また、不登校（保健室登校）、心身症、いじめ、児童虐待など個別の問題に対する知識と、実際の学校での援助のあり方（個別及び連携）について事例検討を通して理解を深める。	
到達目標	1. 学校教育場面での児童生徒の心理的問題（不登校（保健室登校）、心身症、いじめ、児童虐待など）に関する知識を修得する。 2. 上記1の心理的問題に養護教諭として支援・対応する方法(児童生徒理解、カウンセリング技法、連携の仕方)についての知識と技能を修得する。	
授業計画	第1回：学校教育における教育相談の意義 第2回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法1 ：傾聴技法の基本 第3回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法2 ：傾聴技法のロールプレイ 第4回：教育相談に生かすカウンセリングの理論と技法3 ：生徒対応のロールプレイ 第5回：児童生徒への関わり方についての事例検討 第6回：保護者への関わり方についての事例検討 第7回：不登校児童生徒の理解と支援 第8回：保健室登校の理解と支援 第9回：いじめに関する理解とその対応1：講義 第10回：いじめに関する理解とその対応2：演習 第11回：児童虐待の理解と支援 第12回：校内支援体制（チームによる援助）の実際 第13回：模擬事例検討(グループワーク) 1：不登校の事例 第14回：模擬事例検討(グループワーク) 2：保健室登校の事例 第15回：模擬事例検討(グループワーク) 3：心身症の事例	長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 大須賀優子先生 大須賀優子先生 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治 長峰伸治

アクティブ ラーニング	<ul style="list-style-type: none"> ・カウンセリング的コミュニケーション・態度に関するロールプレイを行う。 ・教育相談に関わる事例検討をグループで検討して、その内容を全体で共有する。
評価方法	定期試験50%, 授業への取り組み状況(ロールプレイの実施、振り返りシートへの記入、グループでの事例検討・発表など)50%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの振り返りをシートに記入したものに対して、全体の場で回答・コメントする。 ・グループで行った事例検討の発表に対して、その場でフィードバックをする。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	授業中に実施したロールプレイや事例検討に関して、配布された資料を基に復習を行う。また、授業内容について疑問やさらに詳しく知りたいことがある場合は、図書やインターネットなどで自ら積極的に調べる。これらの学修を40分程度行うこと。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜日午後2時~5時は在室していることが多い。そのほかの曜日・時間帯でも対応可能な時がある。直接研究室に来ていただいても良いが、会議等で不在の時もあるので、事前にメールで在室の確認をしてください。メールでの相談は随時受け付けている。

科目名	養護実習事前事後指導
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	1単位 (15時間) 選択 7セメスター
科目の位置付	1. 教育に関する確かな知識・理論と豊かな技能及び表現力を身につけている。
科目概要	事前指導においては、養護実習に際して必要な基本的事項に関する指導および準備活動、事後指導においては、養護実習の取り組みについての振り返りを実施する。
到達目標	<p>1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。</p> <p>2. 事前指導では、養護実習の意義や目的、内容をよく理解し、実習参加にあたっての基本的な知識や態度等を身につける。</p> <p>3. 事後指導では、学校現場における様々な実習経験をもとに、自らの実践を総括し、実習の成果と課題を明らかにする。</p>
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、成松美枝、高橋佐和子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1期 (4月実習)</p> <p><実習前></p> <p>① 現職教員による講話：学校運営について、健康診断の意義や目的・実施計画等 (担当教員：聖隷クリスファー中高等学校の教頭先生・養護教諭、大澤富子先生)</p> <p>② 健康診断の各検査・計測についての注意事項・実施方法の講義(練習)</p> <p><実習後></p> <p>① 実習の振り返りによる学びの共有</p> <p>第2期 (9月実習)</p> <p><実習前></p> <p>① 現職教員(管理職、養護教諭)による講話：生徒指導、教師としての心構え等 (担当教員：聖隷クリスファー中高等学校の教頭先生・養護教諭)</p> <p>② 学校保健計画の作成・指導案の書き方についての指導</p> <p>③ 発達障害児童生徒の理解 (担当教員：大須賀優子先生)</p> <p><実習後></p> <p>①実習の振り返り(個人面接)</p> <p>② 実習のまとめ(発表会)</p> <p>※実施日程などの詳細についてはその都度連絡する</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
評価方法	授業への取り組み態度50%、振り返りのレポート50%
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・レポートに関しては教員がチェック・コメントをして返却する。 ・事後指導における発表や個人の振り返りの内容に対してフィードバックする。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	養護実習実施要項をよく読んでおくこと。また、それぞれの指導を受けた後は、復習や振り返りをしっかり行うこと。少なくとも40分以上は行う。
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜14~17時</p> <p>成松美枝(看護学部) 1711 研究室 mie-n@seirei.ac.jp 火曜2限</p> <p>高橋佐和子(看護学部) 2707 研究室 sawako-t@seirei.ac.jp 水曜9~11時</p> <p>必ず事前にメールで在室の確認をしてください。その他の曜日・時間帯でもできる限り対応します。メールでの相談は随時受け付けています。</p>

科目名	養護実習 I
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位 (90 時間) 選択 7セメスター
科目の位置付	2. 教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営（学校の組織、教育目標、教育課程）、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。 3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、成松美枝、高橋佐和子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習時期・期間・場所</p> <p>第1期：4年次4月(1週間) 聖隷クリストファー中・高等学校 ※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>第2期：4年次9月(3週間) 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のレポートは教員がチェックした後、返却する。 ・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことをしっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも40分以上は行う。
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜 14～17 時</p> <p>成松美枝(看護学部) 1711 研究室 mie-n@seirei.ac.jp 火曜 2 限</p> <p>高橋佐和子(看護学部) 2707 研究室 sawako-t@seirei.ac.jp 水曜 9～11 時</p> <p>必ず事前にメールで在室の確認をしてください。その他の曜日・時間帯でもできる限り対応します。メールでの相談は随時受け付けています。</p>

科目名	養護実習Ⅱ
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位(90時間) 選択 7セメスター
科目の位置付	2. 教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	学校現場での実務体験または児童生徒や教職員との関わりを通して、教育全般にわたる基本的理解や養護教諭の職務に関する理解を深め、教育職員としての自覚や態度を確立する。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育職員としての自覚や態度を確立する。 2. 学校における教育計画やその運営(学校の組織、教育目標、教育課程)、学校における養護教諭・保健室・学校保健の位置づけと意義、学校保健活動、家庭や地域との連携のあり方、児童の健康や生活実態を理解する。 3. 学校の教育計画や児童生徒の健康および生活実態を理解するとともに、保健室経営や養護活動など養護教諭の職務に関する基本的な実践的能力を身につける。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、成松美枝、高橋佐和子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>実習時期・期間・場所</p> <p>第1期：4年次4月(1週間) 聖隷クリストファー中・高等学校 ※健康診断補助を中心とした実習</p> <p>第2期：4年次9月(3週間) 学生自らが依頼して許可を得た学校</p> <p>※詳細については養護実習要項参照のこと。また、事前指導においても説明する。</p>

アクティブ ラーニング	本科目は実習科目。
評価方法	養護実習の評価は、「実習校による評価」と「大学による評価」とを総合して行う。実習中の学生の態度・理解・行動に関する「実習校による評価」を参考にしながら、養護実習に関する記録、実習後のレポート、大学での事後指導などを総合して、最終的な成績評価を行う。
課題に対する フィード バック	<ul style="list-style-type: none"> ・実習のレポートは教員がチェックした後、返却する。 ・事後指導において実習の評価についてフィードバックする。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	実習前は事前指導で学んだことをしっかりおさえて実習に備える。実習後は記録物、ポートフォリオを見直して、自分なりの振り返りをして、事後指導や教職実践演習につなげる。少なくとも40分以上は行う。
オフィス アワー	<p>長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜 14～17 時</p> <p>成松美枝(看護学部) 1711 研究室 mie-n@seirei.ac.jp 火曜 2 限</p> <p>高橋佐和子(看護学部) 2707 研究室 sawako-t@seirei.ac.jp 水曜 9～11 時</p> <p>必ず事前にメールで在室の確認をしてください。その他の曜日・時間帯でもできる限り対応します。メールでの相談は随時受け付けています。</p>

科目名	教職実践演習（養護教諭）
科目責任者	長峰 伸治
単位数他	2単位（30時間） 選択 8セメスター
科目の位置付	2. 教育者としてのふさわしい教養を身につけて、使命感と責任感に基づいた確かな実践力を備えている。
科目概要	養護実習で学び体験したことを総合的に学習しながら、児童生徒の健康ニーズに対応できる養護教諭に必要な基礎的な実践力を身につける。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 養護教諭としての使命感や責任感に基づいた確かな実践力を身につける。 2. 養護実習での体験を振り返りながら、養護教諭として必要な基本的な資質（教員として使命感・責任感・教育的愛情、対人関係能力、児童生徒への理解・支援、学校保健活動、保健室経営、保健教育など）に関する自らの課題を自覚する。 3. 実践的な演習や学校現場でのフィールドワーク等を通して、不足している知識・技術を身につけ、理解力、実践力を高める。
授業計画	<p><担当教員名> 長峰伸治、成松美枝、高橋佐和子</p> <p><授業内容・テーマ等></p> <p>第1回 学校保健計画及び保健室経営計画の作成1：立案</p> <p>第2回 学校保健計画及び保健室経営計画の作成2：グループ討論とフィードバック</p> <p>第3回 理想の保健室づくり（レイアウト、機能：グループワーク）</p> <p>第4回 保健便り及び掲示物の発表・フィードバック</p> <p>第5回 養護教諭の職務でのジレンマに関する事例検討</p> <p>第6回 保健室での対応（主に応急処置について）1：事例検討</p> <p>第7回 保健室での対応（主に応急処置について）2：実践</p> <p>第8回 模擬授業の実施（受講生全員一人ずつ行う）</p> <p>第9回 模擬授業に対するフィードバック（グループに分かれて）</p> <p>第10回 養護教諭によるレクチャー（担当教員：黒田恵美先生）</p> <p>第11回 発達障害児童生徒の問題行動への支援について（担当教員：大須賀優子先生）</p> <p>第12回 スクールソーシャルワーカーによるレクチャー（担当教員：夏目由起子先生）</p> <p>第13回 学校現場体験（西部特別支援学校）1：参観</p> <p>第14回 学校現場体験（西部特別支援学校）2：校長講話</p> <p>第15回 学校現場体験（西部特別支援学校）3：養護教諭講話</p>

アクティブ ラーニング	本科目は演習科目。
評価方法	授業への取り組み態度50%、事前事後の課題(レポートなど)50%
課題に対する フィード バック	事前・事後に出される課題について授業中に全体の場でフィードバックする。また、履修カルテを用いて面談を行い、これまでの学修の振り返りを行う。
指定図書	特になし。
事前・ 事後学修	養護実習の振り返りをしながら事前課題にしっかり取り組む。事後においては本授業で行ったことを養護実習での自らの課題に照らし合わせ、履修カルテに基づいて自分なりの総括を行う。少なくとも40分以上は行う。
オフィス アワー	長峰伸治(看護学部) 1708 研究室 shinji-n@seirei.ac.jp 月曜14~17時 成松美枝(看護学部) 1711 研究室 mie-n@seirei.ac.jp 火曜2限 高橋佐和子(看護学部) 2707 研究室 sawako-t@seirei.ac.jp 水曜9~11時 必ず事前にメールで在室の確認をしてください。その他の曜日・時間帯でもできる限り対応します。メールでの相談は随時受け付けています。